

長久保大畑Ⅳ遺跡

2023

群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会
株式会社コスモス薬品
有限会社毛野考古学研究所

長久保大畑Ⅳ遺跡

2023

群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会
株式会社コスモス薬品
有限会社毛野考古学研究所

序 文

吉岡町においては、町制を施行してから30年が経ちました。近年、人口増加が続き、令和5年1月1日現在人口は22,371人、世帯数8,766戸となり、大きく発展を遂げ続けています。今では住みたい町ランキングで上位に入っている町になっています。

吉岡町では第6次総合計画で「思いを紡ぎ、未来につなげる まちづくり吉岡」を理念に町の将来像を推進してきました。将来像実現のための3つのまちづくりの一つとして「ブランド力と郷土愛」を掲げています。

今日、長いコロナ禍にあり経済も停滞する中、駒寄スマートインターチェンジ周辺では民間による開発の動きが活発で、大型店舗の出店もされています。

今回の開発地も周辺開発の一環としての店舗建設であり、長久保大畑遺跡包蔵地範囲内の開発であったため、事業者と吉岡町教育委員会との協議の結果、記録保存としての発掘調査を実施することになりました。

本開発地周辺には、南下古墳群や正八角形の形をした三津屋古墳など全国的にも貴重な遺跡があり、また古代の集落跡が多数確認された場所であったことがわかっています。

今も昔も吉岡町の中心を成す場所であったことが予想されます。まさに、吉岡町の「ブランド力と郷土愛」を感じさせる場所でもあります。

本報告書は、事業地が長久保大畑遺跡包蔵地の一部にあたる場所を発掘調査したものであり、平安時代の住居跡20軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡7条、井戸1基、土坑19基などの遺構や土器類、鉄製品などの遺物が確認されました。当時の人々の生活の一端が垣間見えたことは、吉岡町の歴史をかたる上で貴重な文化財であると確信しています。

今後、本報告書や出土した遺物等が吉岡町のみならず、広く群馬県の古代史を解明する一助として活用されることを願います。

結びに、発掘調査にご尽力いただきました関係者各位に心から感謝を申し上げる次第です。

令和5年7月

吉岡町教育委員会
教育長 山口和良

例 言

- 1 本報告書は、株式会社コスモス薬品出建物工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行までに至るすべての経費は、開発者である株式会社コスモス薬品の負担による。
- 3 株式会社コスモス薬品、有限会社毛野考古学研究所、吉岡町教育委員会が三者協定を締結し、発掘調査および整理作業は吉岡町教育委員会の監理指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 4 現地発掘調査および整理作業の要項は次のとおりである。

遺跡名 長久保大畑Ⅳ遺跡

遺跡コード 154

遺跡所在地 群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保字大畑 751-2

監理指導 白石光男（吉岡町教育委員会生涯学習室）

調査担当 山本千春 土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）

発掘調査期間 令和4年12月12日～令和5年2月8日

整理作業期間 令和5年2月9日～令和5年7月14日

調査面積 948㎡

発掘調査参加者 天田真由美 生駒朝男 市川嘉久 漆原政江 大村美与子 岡田正敏 狩野政弘

北野進二 熊澤 享 小池栄一 坂部三男 白砂福造 新開昌代 榎葉真五 武井博行

近田雅行 都丸ゆかり 中野英治 萩原 薫 羽島弥生 星野陽子 星野良三

松岡栄一 松本幸男 三原昭夫 望月百合子 森田美典 養田康晃

整理作業参加者 石川陽子 鬼形敦子 関野一枝 合田幸子 柴田弘信 新開昌代 武土久美子

田村健志 千木良有香子 半澤利江 日沖美奈子 真下弘美

- 5 現地での遺構の写真は山本・土井が撮影し、遺構測量・航空写真撮影は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
- 6 本書の編集は、吉岡町教育委員会指導のもと山本が行った。原稿執筆はIを吉岡町教育委員会、その他を山本が担当した。また、遺物写真撮影は井上太（有限会社毛野考古学研究所）が、縄文土器は高橋清文・和久裕昭（同）が、石器・石製品は土井（同）が担当した。
- 7 調査資料は一括して吉岡町教育委員会が保管している。
- 8 発掘調査および整理作業において、下記の機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げます。（敬称略）

大和ハウス工業株式会社 株式会社横田調査設計 神谷佳明 木津博明 桜岡正信 杉山秀宏 関 邦一
永井智哉

凡 例

- 1 挿図中方位記号は座標北を示し、座標値は国家標準直角座標Ⅸ系、標高は日本水準原点に基づいている。
- 2 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の記号を用いた。
As-B：1108（天仁元）年噴出の浅間B軽石 Hr-FA：6世紀初頭噴出の榛名ニッ岳渋川テフラ
Hr-S：5世紀末噴出の榛名ニッ岳渋川テフラ As-C：3世紀後葉～4世紀前半噴出の浅間C軽石
- 3 遺構図および遺物実測図の縮尺については図中にスケールを付して表示した。また、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
- 4 土層および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所 監修2006）を基準とした。
- 5 本文中や挿表中において、〈 〉は残存値を、（ ）は推定値をそれぞれ示す。

目 次

例 言・凡 例・目 次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	2
1. 調査の方法	2
2. 調査の経過	2
III 基本層序	3
IV 遺跡の位置と周辺の環境	3
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	4
V 遺構と遺物	6
1. 竪穴住居跡	6
2. 掘立柱建物跡	46

3. 竪穴状遺構	47
4. 溝	48
5. 井戸	53
6. 土坑	54
7. ビット	60
8. 遺構外出土遺物	61
VI まとめ	71
1. 古墳時代の溝について	71
2. 奈良・平安時代の集落について	71
写真図版・抄録・奥付	

挿 図 目 次

第1図 調査区域図	1
第2図 基本土層図	3
第3図 遺跡の位置	3
第4図 遺跡分布図	4
第5図 全体図	5
第6図 1号住居跡遺構図	6
第7図 1号住居跡遺物実測	6
第8図 2号住居跡遺構図	7
第9図 2号住居跡遺物実測図	7
第10図 3号住居跡遺構図（1）	8
第11図 3号住居跡遺構図（2）	9
第12図 3号住居跡遺物実測図（1）	10
第13図 3号住居跡遺物実測図（2）	11

第14図 4号住居跡遺構図（1）	12
第15図 4号住居跡遺構図（2）	13
第16図 4号住居跡遺物実測図	14
第17図 5号住居跡遺構図（1）	15
第18図 5号住居跡遺構図（2）	16
第19図 5号住居跡遺物実測図	16
第20図 6号住居跡遺構図（1）	17
第21図 6号住居跡遺構図（2）	18
第22図 6号住居跡遺物実測図	18
第23図 7号住居跡遺構図（1）	19
第24図 7号住居跡遺構図（2）	20
第25図 7号住居跡遺物実測図	21
第26図 8号住居跡遺構図（1）	22

第27図	8号住居跡遺構図(2)……………	23
第28図	8号住居跡遺物実測図……………	23
第29図	9号住居跡遺構図(1)……………	24
第30図	9号住居跡遺構図(2)……………	25
第31図	9号住居跡遺物実測図(1)……………	25
第32図	9号住居跡遺物実測図(2)……………	26
第33図	10号住居跡遺構図(1)……………	26
第34図	10号住居跡遺構図(2)……………	27
第35図	10号住居跡遺物実測図……………	28
第36図	11号住居跡遺構図(1)……………	29
第37図	11号住居跡遺構図(2)……………	30
第38図	11号住居跡遺物実測図……………	31
第39図	12号住居跡遺構図……………	32
第40図	12号住居跡遺物実測図……………	33
第41図	13号住居跡遺物実測図……………	33
第42図	13号住居跡遺構図……………	34
第43図	14号住居跡遺物実測図……………	34
第44図	14号住居跡遺構図……………	35
第45図	15号住居跡遺物実測図……………	36
第46図	15号住居跡遺構図(1)……………	36
第47図	15号住居跡遺構図(2)……………	37
第48図	16号住居跡遺構図(1)……………	37
第49図	16号住居跡遺構図(2)……………	38
第50図	16号住居跡遺物実測図……………	38
第51図	16号住居跡遺構図(3)……………	39
第52図	17号住居跡遺構図(1)……………	40
第53図	17号住居跡遺構図(2)……………	41
第54図	17号住居跡遺物実測図……………	41
第55図	18号住居跡遺構図……………	42
第56図	18号住居跡遺物実測図……………	42
第57図	19号住居跡遺構図(1)……………	43
第58図	19号住居跡遺構図(2)……………	44
第59図	19号住居跡遺物実測図……………	45

第60図	20号住居跡遺構図(1)……………	45
第61図	20号住居跡遺構図(2)……………	46
第62図	1号掘立柱建物跡遺構図……………	47
第63図	2号竪穴状遺構遺物実測図……………	47
第64図	1・2号竪穴状遺構遺構図……………	48
第65図	1号溝遺構図……………	48
第66図	2号溝遺構図……………	49
第67図	4号溝遺構図……………	49
第68図	3号溝遺物実測図……………	49
第69図	3号溝遺構図……………	50
第70図	5・6号溝遺構図……………	51
第71図	5号溝遺物実測図……………	52
第72図	7号溝遺構図・遺物実測図……………	53
第73図	1号井戸遺構図……………	53
第74図	1号井戸遺物実測図……………	54
第75図	1～9・11・12号土坑遺構図……………	56
第76図	10号土坑遺構図……………	57
第77図	14号土坑遺構図……………	58
第78図	13・15～19号土坑遺構図……………	59
第79図	10号土坑遺物実測図……………	59
第80図	16号土坑遺物実測図……………	60
第81図	ビット遺物実測図……………	61
第82図	遺構外出土遺物実測図(1)……………	62
第83図	遺構外出土遺物実測図(2)……………	63
第84図	遺構外出土遺物実測図(3)……………	64
第85図	遺構外出土遺物実測図(4)……………	65
第86図	遺構外出土遺物実測図(5)……………	66
第87図	遺構外出土遺物実測図(6)……………	67
第88図	張り出しを持つ竪穴住居跡……………	72
第89図	元島名B・吹屋遺跡出土金属器……………	72
第90図	18号住居跡No.3 X線写真……………	72
第91図	周辺の遺跡……………	73

挿表目次

第1表	1号住居跡遺物観察表……………	6
第2表	2号住居跡遺物観察表……………	7
第3表	3号住居跡遺物観察表(1)……………	11
第4表	3号住居跡遺物観察表(2)……………	12
第5表	4号住居跡遺物観察表(1)……………	13
第6表	4号住居跡遺物観察表(2)……………	14
第7表	4号住居跡遺物観察表(3)……………	15
第8表	5号住居跡遺物観察表……………	17
第9表	6号住居跡遺物観察表……………	18
第10表	7号住居跡遺物観察表(1)……………	21
第11表	7号住居跡遺物観察表(2)……………	22
第12表	8号住居跡遺物観察表……………	24

第13表	9号住居跡遺物観察表……………	26
第14表	10号住居跡遺物観察表……………	28
第15表	11号住居跡遺物観察表(1)……………	30
第16表	11号住居跡遺物観察表(2)……………	31
第17表	12号住居跡遺物観察表……………	32
第18表	13号住居跡遺物観察表……………	33
第19表	14号住居跡遺物観察表……………	35
第20表	15号住居跡遺物観察表……………	36
第21表	16号住居跡遺物観察表……………	40
第22表	17号住居跡遺物観察表……………	41
第23表	18号住居跡遺物観察表……………	42
第24表	19号住居跡遺物観察表……………	44

第25表	2号竪穴状遺構遺物観察表	47
第26表	3号溝遺物観察表	50
第27表	5号溝遺物観察表	52
第28表	7号溝遺物観察表	53
第29表	1号井戸遺物観察表	54
第30表	10号土坑遺物観察表	59
第31表	16号土坑遺物観察表	60
第32表	ビット計測表(1)	60

第33表	ビット計測表(2)	61
第34表	ビット遺物観察表	61
第35表	遺構外出土遺物観察表(1)	67
第36表	遺構外出土遺物観察表(2)	68
第37表	遺構外出土遺物観察表(3)	69
第38表	遺構外出土遺物観察表(4)	70
第39表	遺構外出土遺物観察表(5)	71

写真図版目次

図版1	遺跡遠景(南東から) 遺跡全景(上が北)	11号住居跡カマド全景(西から) 11号住居跡カマド遺物出土状態(西から)
図版2	1号住居跡全景(南西から) 1号住居跡カマド全景(南西から) 2号住居跡全景(西から) 3・19号住居跡全景(南西から) 3号住居跡カマド遺物出土状態(南西南から) 3号住居跡カマド周辺遺物出土状態(南西南から) 4・20号住居跡全景(西から) 4号住居跡遺物出土状態(北から)	11号住居跡焼土・礫検出状態(北から)
図版3	4号住居跡カマド全景(西から) 20号住居跡カマド全景(西から) 5号住居跡全景(西から) 5号住居跡カマド全景(南西から) 5号住居跡床下土坑1全景(東から) 5号住居跡床下土坑1土層断面(南から) 6号住居跡全景(西から) 6号住居跡土坑1遺物出土状態(南から)	図版6
図版4	7号住居跡全景(西から) 7号住居跡カマド全景(西から) 7号住居跡カマド掘方(北西から) 7号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 8号住居跡全景(西から) 8号住居跡遺物出土状態近景(東から) 9号住居跡全景(西から) 9号住居跡カマド全景(西から)	12号住居跡全景(西から) 12号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 13号住居跡全景(西から) 13号住居跡カマド全景(西から) 13・14号住居跡全景(西から) 14号住居跡カマド全景(西から) 15号住居跡全景(西から) 15号住居跡カマド遺物出土状態(西から)
図版5	10号住居跡全景(西から) 10号住居跡カマド全景(西から) 10号住居跡カマド遺物出土状態(西から) 10号住居跡遺物出土状態近景(西から) 11号住居跡全景(西から)	図版7
		15号住居跡カマド全景(西から) 15号住居跡カマド掘方(西から) 16号住居跡全景(西から) 16号住居跡カマド全景(西から) 16号住居跡土坑1遺物出土状態(北から) 16号住居跡土坑1遺物出土状態近景(北から) 17号住居跡全景(西から) 17号住居跡カマド全景(西から)
		図版8
		17号住居跡カマド周辺遺物出土状態(西から) 17号住居跡土坑1遺物出土状態(西から) 18号住居跡全景(西から) 18号住居跡遺物出土状態(西から) 19号住居跡全景(西から) 19号住居跡カマド全景(西から) 1号掘立柱建物跡全景(南から) 1号竪穴状遺構全景(北から)
		図版9
		2号竪穴状遺構全景(西から) 2号竪穴状遺構遺物出土状態(西から) 2号溝全景(東から) 7号溝全景(北東から) 1号溝全景(南から)

- 図版10 3・4号溝全景(北から)
3号溝土層断面(南から)
4号溝土層断面(南から)
5号溝全景(北から)
6号溝全景(北から)
- 図版11 1号井戸、10号土坑全景(南から)
1号井戸全景(南西から)
10号土坑全景(西から)
2号土坑全景(北から)
6号土坑全景(西から)
- 図版12 7号土坑礫検出状態(東から)
7号土坑全景(西から)
8号土坑礫検出状態(東から)
8号土坑全景(東から)
13号土坑全景(西から)
14号土坑全景(西から)
18号土坑全景(東から)
基本層序土層断面(北から)
- 図版13 1号住居跡出土遺物
2号住居跡出土遺物
3号住居跡出土遺物(1)
- 図版14 3号住居跡出土遺物(2)
4号住居跡出土遺物
5号住居跡出土遺物
6号住居跡出土遺物
- 図版15 7号住居跡出土遺物
8号住居跡出土遺物
- 図版16 9号住居跡出土遺物
10号住居跡出土遺物
11号住居跡出土遺物
- 図版17 12号住居跡出土遺物
13号住居跡出土遺物
14号住居跡出土遺物
15号住居跡出土遺物
16号住居跡出土遺物
17号住居跡出土遺物
- 図版18 18号住居跡出土遺物
19号住居跡出土遺物
2号竪穴状遺構出土遺物
3号溝出土遺物
5号溝出土遺物
7号溝出土遺物
1号井戸出土遺物(1)
- 図版19 1号井戸出土遺物(2)
10号土坑出土遺物
16号土坑出土遺物
P-16出土遺物
P-46出土遺物
P-71出土遺物
遺構外出土遺物(1)
- 図版20 遺構外出土遺物(2)
- 図版21 遺構外出土遺物(3)
- 図版22 遺構外出土遺物(4)

I 調査に至る経緯

令和4年8月2日付けで事業者（株式会社コスモス薬品）より、吉岡町大字大久保字大畑 751-1、751-2、751-5、751-6に店舗を建設するため、文化財保護法第93条「埋蔵文化財発掘の届出」の提出があった。

吉岡町教育委員会（生涯学習室文化財センター）は事業者に対して、開発予定地は吉岡町遺跡台帳№154長久保・大畑遺跡（縄文、古墳、平安の散布地）の範囲に該当し、埋蔵文化財調査対象地であるため確認調査が必要であることを回答した。その後、吉岡町教育委員会と事業者による協議が行われた。

事業者と協議を行った結果、4913.32㎡を対象に確認調査を実施することになった。確認調査は令和4年9月12日・13日の2日間かけて実施した。その結果、開発地南側より遺構・遺物の検出が確認されたため、事業者へ報告した。その後、事業者と協議をしたが設計変更及び現状保存が困難であったため、遺構が確認された部分約948㎡に関して記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨を事業者に伝えた。その後、群馬県（文化財保護課）より発掘調査の指示があり、事業者と協議した。その結果、登録民間調査組織による記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査実施にあたり、吉岡町教育委員会は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財発掘調査における登録民間調査組織事務取扱要綱」（以下、「事務取扱要綱」と称する）第10号の規定により、「長久保大畑遺跡発掘調査実施計画書」の提出を登録民間調査組織に依頼した。その後、登録民間調査組織より「長久保大畑遺跡発掘調査実施計画書」が吉岡町教育委員会に提出された。内容を検討した結果、適応する民間調査組織を事業者に紹介した。

事業者は有限会社毛野考古学研究所を選定したため、令和4年10月28日事業者と登録民間調査組織（有限会社毛野考古学研究所）・吉岡町教育委員会の三者間で三者協定を締結した。その後、有限会社毛野考古学研究所より文化財保護法第92条に基づく「届出」が吉岡町教育委員会に提出されたため、吉岡町教育委員会は群馬県（文化財保護課）に進達した。

群馬県（文化財保護課）より有限会社毛野考古学研究所へ「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」、「群馬県埋蔵文化財発掘調査基準」を遵守するよう通知があったため、吉岡町教育委員会を経由して有限会社毛野考古学研究所に通知した。結果令和4年12月12日から発掘調査に着手する運びとなった。



※吉岡町発行 1/2,500 都市計画図「吉岡町平面図№18」をもとに一部加筆・修正し作成。

第1図 調査区域図

II 調査の方法と経過

1. 調査の方法

現地における発掘調査は、吉岡町教育委員会による試掘調査結果を参照し、重機で表土等の除去をした後、人力による遺構精査を行った。遺構の掘削はジョレン・移植ゴテなどの掘削用具にて行った。遺構の掘り下げにあたっては、遺物の出土状態に留意すると共に、土層観察用のベルトを残し、遺構の埋没状態を確認した。掘方調査については都合上、カマドと付帯施設の調査を断り止まっている。記録作業は測量および写真撮影で対応し、作業の進捗状況に応じて適宜行った。遺構の写真撮影および実測図作成については、埋没土の堆積状態、完掘状態の各局面を記録した。測量杭は世界測地系(国家座標IX系)に基づき設置した。平面測量はトータルステーション、断面測量は基準点からの測り込みによって行った。写真撮影には、35mm判のフィルムカメラ(モノクロ・リバーサル)、デジタルカメラ(NikonD3400)を使用し、航空写真はドローン(HasselbladL1D-20c)で行った。

整理作業・報告書作成にあたっては、出土遺物は洗浄・注記をし、接合にはセメダインC、補強・復元にはエポキシ系樹脂を使用し、デジタル一眼レフカメラ(NikonD850)で撮影をした。遺構図は修正を加えた第二次原因図を作成し、Adobe Illustrator CS2を用いてデジタルトレースを行った。挿図および入稿用のデータはAdobe InDesign CS2を用いて編集した。

2. 調査の経過

【発掘調査】

- 12月期 12日：調査区の設定をし、重機による表土除去作業開始。排土はクローラードンプで場内移動。除草作業。仮設トイレの設置。発掘器材の搬入。安全対策を施す。13日：プレハブの設置。作業員による調査区整備および遺構確認作業を行う。15日：GPSによる基準点測量。16日：重機による表土除去作業終了。遺構確認作業を終え、ドローンによる調査区全景写真撮影。19日：遺構調査に着手。29日：年内の遺構調査は終了。
- 1月期 5日：遺構調査再開。9日：作業員増員。11日：1号井戸は安全管理を考慮した深さまでで掘削を一時中断し、記録作業をした後、重複する遺構の調査に着手した。27日：やや天候不良であったが空撮準備を行い、ドローンによる調査区全景写真撮影。
- 2月期 1日：再度空撮準備を行い、ドローンによる調査区遠景および全景写真撮影。4日：遺構調査に係る工程を終え、吉岡町教育委員会による現地調査の終了確認を受ける。6日：重機による埋め戻し作業および器材撤収開始。7日：仮設トイレの汲み取り。8日：重機による埋め戻し作業および器材撤収終了。プレハブおよび仮設トイレの撤収。現地における全作業工程終了。

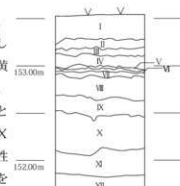
【整理作業・報告書作成】

- 2月期：遺構図面・写真の基礎整理。遺物洗浄・注記。
- 3月期：遺構図面の修正。遺物の接合・復元。
- 4月期：遺構図面の第2次原因図作成。遺物写真撮影・実測。
- 5月期：各挿図・図版作成。原稿執筆。遺物実測・拓本。
- 6月期：各挿図・図版作成。遺物図トレース。報告書の編集作業。原稿執筆。入稿・校正。
- 7月期：印刷・製本。報告書刊行・納品。

Ⅲ 基本層序

基本層序の観察は、調査区内に設けたトレンチ内の壁面を利用して実施した。本遺跡地は洪積地にあり、北から南へ緩傾斜する。なお、Ⅷ～Ⅹ層では縄文土器や石器を多く包含していた。

Ⅰ層：表土／耕作土。軽石粒・小礫（0.5～1.0cm）を含む褐灰色土。砂質で、しまり・粘性やや弱い。Ⅱ層：H r - F A ・軽石粒・砂粒を含む暗褐色土。しまり・粘性ややあり。Ⅲ・Ⅳ層：H r - F A 泥流層。白色軽石粒を含むにぶい黄褐色土。Ⅴ～Ⅶ層：H r - F A 一次堆積層。部分的な堆積。灰黄～淡黄色土。Ⅷ層：A s - C を含む黒褐色土。しまり・粘性ややあり。上面を遺構確認面とした。Ⅸ層：褐色粒・礫（0.5～5.0cm）を含む黒褐色土。しまり・粘性あり。Ⅹ層：白色軽石粒・褐色粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土。しまりはあるが、粘性はやや弱い。Ⅺ層：含有物がⅩ層より少ない。Ⅻ層：黄褐色土で、白色軽石粒を含む礫層。陣馬岩層などれによる堆積物か。しまりはあるが、粘性はやや弱い。



第2図 基本土層図

Ⅳ 遺跡の位置と周辺の環境

1. 地理的環境

本遺跡の所在する北群馬郡吉岡町は、群馬県のほぼ中央に位置する。町域は細長く榛名山の東麓に広がり、東端は北から南へ流下する利根川に接する。

吉岡町の地形は、榛名山南東麓の急傾斜地、町域中心の緩傾斜をする台地部、利根川沿いに広がる低地部から成り、その比高差は700mほどである。さらに榛名山中腹を源とする滝沢・吉岡・駒寄・午王頭・八幡川の中小河川が南東へ流下し、台地を開析し細分する。

本遺跡は北と南に東流する午王頭川と八幡川に挟まれた利根川の河岸段丘上に立地する。台地上には榛名山起源の岩屑流丘が随所にみられ、本遺跡地はこの流丘末端近くに位置する。現況は畠であったが、周辺は宅地化に加え、近年は吉岡バイパス沿線における大型店舗開発が著しい。現地表面の標高値は約153mを測る。



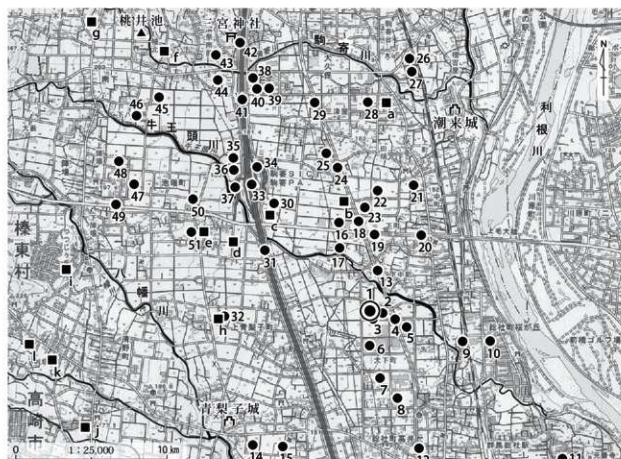
※国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』を改変。

第3図 遺跡の位置

2. 歴史的環境

長久保大畑遺跡では、過去にも道路整備事業および店舗開発に伴う発掘調査が実施されている。なお、周辺の遺跡は「長久保大畑遺跡・新田入口遺跡」および『七日市東遺跡・七日市遺跡』の報告において詳しいので、そちらを参照されたい。ここでは過去3回ほど行われた調査成果について概観しておく。

旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代は泥流丘に挟まれた谷から中期後半の集石遺構・配石遺構・列石遺構・土坑が検出され、墓域あるいは祭祀跡と想定されている。遺物では前期前半の諸儀式土器から後期後半の加曾利B式期の土器や石器類が出土している。弥生時代は低地の深い谷の縁辺部から溝と土坑が検出されている。古墳時代は泥流丘に挟まれる緩斜面地において4・5世紀の住居跡が散見され、後者の住居跡では周堤帯も確認されている。生産遺構としては榛名山二ツ岳に起因する5世紀末頃に降下したHr-S層の上下面から水田・畠が確認されている。奈良・平安時代では8～10世紀に集落が形成され、9世紀代が中心である。居住域と生産遺構にはそれぞれ区画溝が構築される。水田は緩斜面地では棚田状に創られ、平坦地では畔を伴う。畠は平坦地から検出されており、以後は概ね断続的に営農される。中世に入ると「長久保大畑遺跡・新田入口遺跡」のG区の微高地から、自然地形と溝・柵列により区画された屋敷の一部が確認されている。区内には多数のピットが検出されており、建物の存在を示唆している。近世以降は生産遺構が中心となっており、水田・畠が確認されている。



1. 長久保大畑IV遺跡 2. 長久保大畑II遺跡 3. 長久保大畑I遺跡 4. 長久保大畑遺跡・新田入口遺跡 5. 善後遺跡 6. 前原遺跡 7. 見柳東遺跡 8. 見柳東II遺跡 9. 大下遺跡 10. 松社坂ヶ丘遺跡 11. 若宮遺跡 12. 高井坑/水遺跡 13. 沼南遺跡 14. 清原南遺跡 15. 栗原前遺跡 16. 片貝遺跡 17. 片貝II遺跡 18. 金竹西遺跡 19. 金竹西A遺跡 20. 金竹西V遺跡 21. 中町遺跡 22. 金竹西IV遺跡 23. 金竹西V遺跡 24. 熊野遺跡 25. 熊野中遺跡 26. 上ノ原I遺跡 27. 上ノ原II遺跡 28. 元部遺跡 29. 辺玉遺跡 30. 七日市東遺跡 31. 七日市遺跡 32. 清里・長久保遺跡 33. 清里・庚申遺跡 34. 七日市遺跡(新野P A地点) 35. 七日市遺跡(新野S I C地点) 36. 七日市遺跡 37. 池下北岸地下/對遺跡 38. 遠城遺跡 39. 遠城II遺跡 40. 遠城III遺跡 41. 女塚遺跡 42. 大久保A遺跡 43. 宮西遺跡 44. 宮前遺跡 45. 下八幡遺跡 46. 三正遺跡 47. 清里・陣場遺跡 48. 中野所遺跡 49. 中野所II遺跡 50. 前橋市0107遺跡 51. 池端屋敷小池遺跡
 a. 三津塚古墳 b. 酒井集山古墳 c. 七日市東遺跡 1号墳 d. 清里・長久保古墳群 e. 清里3号墳 f. 雨下古墳群 g. 藤原古墳 h. 清里・庚申古墳群 i. 新井・長久保古墳群 j. 内林・磯崎古墳群 k. 観音山古墳 l. いりや山古墳
 *国土地理院発行1:25,000「沼川」「前橋」をもとに一部加筆・修正し作成した。

第4図 遺跡分布図



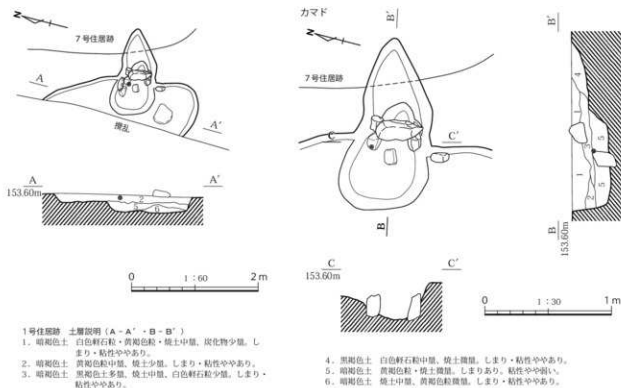
图5 全体图

V 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

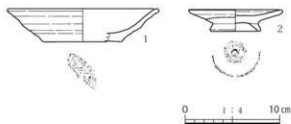
1号住居跡 (第6・7図/第1表/図版2・13)

X=47306~47309、Y=-72591~-72592に位置する。東端のカマド部分が7号住居跡と重複し、先後関係は本遺構の方が新しい。西側は調査区外である。規模は、東西<0.98>m、南北<2.44>mの不整形で、南壁はやや丸みを帯びる。主軸方位はN-70°-E。壁高は0.23m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は



第6図 1号住居跡遺構図

地山硬化床。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土が主体である。カマドは東壁中央やや南寄りに付設される。全長1.37m、燃烧部幅0.36m、壁外長0.81m。火床面に多少の焼土が堆積していたが、内壁の被熱は顕著ではない。構築部材として、両袖部には長方形に加工された安山岩が据えられており、焚口部には天井石が架けられていた。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(埴・高台付皿・壺・甕)である。



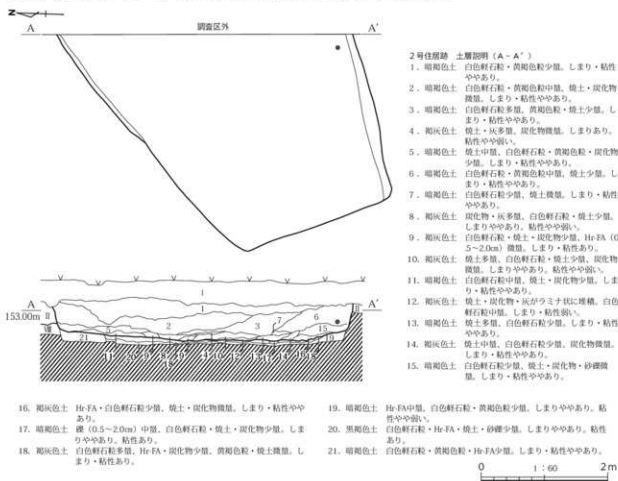
第7図 1号住居跡遺物実測図

第1表 1号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 埴	口径:(16.0) 底径:(8.8) 胎高:3.5	1/5	外面:にぶい黄褐色 内面:に茶い黄褐色	黒色肥土・赤褐色粒・白色粒	釉化焼	外面:口縁部~体部回転子子。底面回転糸切り。 内面:口縁部~底部回転子子。	
2	須恵器 高台付皿	口径:(10.0) 底径:(5.1) 器高:2.3	1/3	外面:にぶい黄褐色 内面:明赤褐色	赤褐色粒・白色粒・黒色粒	釉化焼	外面:口縁部~高台部回転子子。底面回転糸切り~高台付。 内面:口縁部~底部回転子子。	

2号住居跡 (第8・9図/第2表/図版2・13)

X=47279~47284, Y=-72585~-72588に位置する。西側が検出され、壁の立ち上がり等はやや不明瞭であった。東側は調査区外である。規模は、東西<4.26>m、南北<4.40>mの不整形である。主軸方位はN-62°-E。壁高は確認面から0.30m程度で、壁面の観察では0.61mを測る。南壁面はやや急に立ち上がる。床はA s-C・H r-F A・焼土・炭化物を含む暗褐色土による粘床を施し、中央付近で顕著なしまりが確認された。東壁下中央寄りの床土には、多量のH r-F Aを主体とした黄褐色土ブロックが混入する。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物を含む褐灰~暗褐色土である。カマドは調査区外と考えられる。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(坏・壺・甗・甑)で、南壁下東寄りからやや集中して出土した。



第8図 2号住居跡遺構図



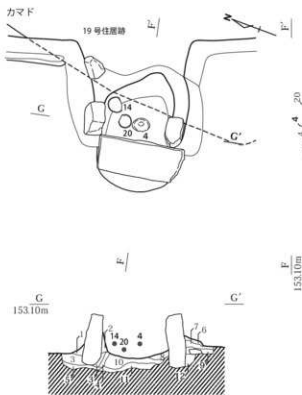
第9図 2号住居跡遺物実測図

第2表 2号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径: (21.4) 底径: - 器高: (7.1)	口縁部~ 胴部上位片	外面: にぶい、暗 赤褐色 内面: 明赤褐色	赤色肌物・ 白色粒・チ セート	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ→上位へラナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	
2	須恵器 坏	口径: (14.1) 底径: - 器高: (3.9)	口縁部~ 体部 1/6	外面: 灰 内面: 黄灰	白色粒	還元焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	
3	須恵器 坏	口径: (11.6) 底径: (7.0) 器高: 3.4	1/6	外面: にぶい、黄 褐色 内面: にぶい 黄褐色	赤褐色粒・ 石黄・白色 粒	酸化焼 気味	外面: 口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	

3号住居跡 (第10～13図/第3・4表/図版2・13・14)

X=47298～47305, Y=-72577～-72585に位置する。19号住居跡、7号溝、5号土坑と重複し、先後関係は3号住居跡→19号住居跡→7号溝、5号土坑と考えられる。規模は、東西6.05m、南北6.74mの方形で、南壁がやや弧状を呈する。主軸方位は、N-71°-E。壁高は0.55m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。カマド部分を除く壁下に壁溝が巡り、幅は0.02～0.07m、深さ0.03m程度である。床は地山硬化床で、顕著なしまりが確認された。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長1.02m、燃焼部幅0.46m。Hr-F Aと暗褐色土により構築され、両袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられていた。燃焼部内から土師器・環2点、台付襷脚部が出土した。内壁は被熱による赤変が認められた。焚口部～燃焼部中央までは焼土・炭化物を含む灰が、燃焼部中央から煙道部までは焼土が堆積していた。焚口部～カマド前面には灰と焼土が互層堆積をしていた。支柱穴と考えられるピツ



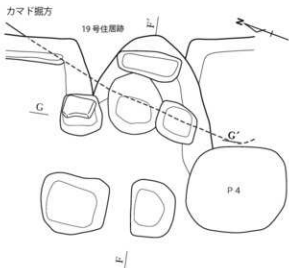
3号住居跡カマド 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 AsC・焼土少量。しまり・粘性ややあり。焼土多量。灰黄褐色土(0.5cm)中層。AsC少量。炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 AsC中層。焼土少量。しまり・粘性ややあり。
3. 灰黄褐色土 Hr-FA主体。しまり・粘性やや強い。
4. 灰黄褐色土 Hr-FA主体。焼土・黒褐色土(0.5～1.0cm)中層。しまり・粘性あり。
5. 黒褐色土 焼土多量。Hr-FA(0.5cm)中層。炭化物・灰少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 焼土・灰少量。炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
7. 暗褐色土 焼土・灰黄褐色粒中層。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 AsC・灰黄褐色粒・焼土中層。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 焼土多量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 焼土中層。灰黄褐色粒少量。炭化物。しまり・粘性あり。
11. 暗褐色土 焼土・灰中層。しまりあり。粘性やや弱い。
12. 暗褐色土 焼土(0.5cm)少量。しまり・粘性あり。
13. 暗褐色土 灰中層。焼土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
14. 暗褐色土 焼土少量。炭化物・炭微量。しまり・粘性ややあり。
15. 灰土土 灰土体。焼土(0.5cm)少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
16. 灰褐色土 炭化物・灰少量。焼土・白色軽石粒・黄褐色粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
17. 明赤褐色土 焼土多量。しまりややあり。粘性弱い。
18. 暗褐色土 Hr-FA中層。焼土少量。しまり・粘性ややあり。
19. 明赤褐色土 Hr-FA・焼土主体。しまりあり。粘性やや弱い。
20. 暗褐色土 Hr-FA中層。焼土・灰少量。しまり・粘性ややあり。
21. 暗褐色土 Hr-FA・灰少量。黒褐色土微量。しまり・粘性ややあり。
22. 暗褐色土 焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
23. 暗褐色土 Hr-FA・焼土中層。しまりややあり。粘性やや弱い。
24. 暗褐色土 Hr-FA少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
25. 黒褐色土 灰中層。しまりややあり。粘性あり。
26. 暗褐色土 灰少量。しまりややあり。粘性あり。

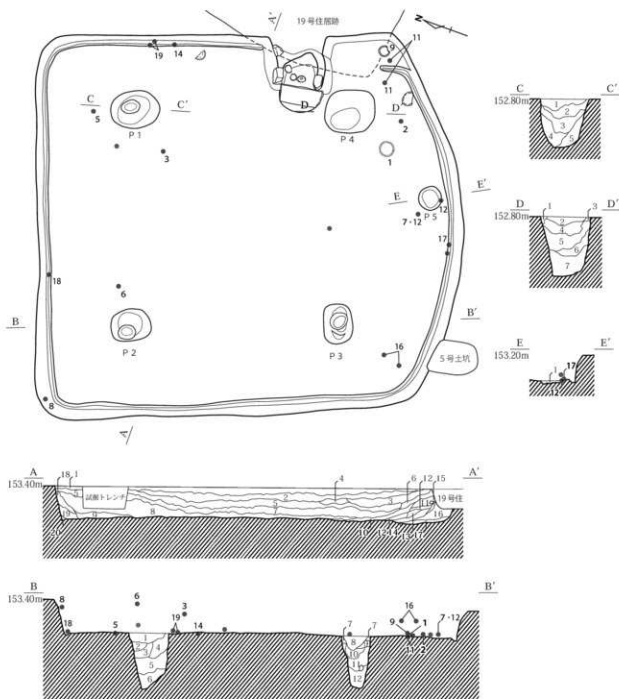
1. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒微量。しまり・粘性あり。
2. 明赤褐色土 被熱し赤変したHr-FA主体。しまりあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～3.0cm)多量。焼土(0.5～1.0cm)中層。しまり・粘性あり。
4. 灰褐色土 Hr-FA主体。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 Hr-FA(0.5cm)・焼土中層。しまり・粘性あり。
6. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)・焼土(0.5cm)中層。白色軽石粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
7. 近い赤褐色土 Hr-FA(0.5～1.0cm)・焼土(0.5cm)多量。しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 Hr-FA多量。焼土少量。炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 焼土少量。Hr-FA微量。しまり・粘性あり。
10. 灰土土 灰土体。焼土中層。しまり・粘性弱い。
11. 暗褐色土 炭化物・灰・黒褐色土少量。しまり・粘性あり。
12. 暗褐色土 焼土中層。しまりあり。粘性ややあり。

3号住居跡カマド 土層説明 (G-G')

1. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒微量。しまり・粘性あり。
2. 明赤褐色土 被熱し赤変したHr-FA主体。しまりあり。粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 Hr-FA(0.5～3.0cm)多量。焼土(0.5～1.0cm)中層。しまり・粘性あり。
4. 灰褐色土 Hr-FA主体。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 Hr-FA(0.5cm)・焼土中層。しまり・粘性あり。
6. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)・焼土(0.5cm)中層。白色軽石粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
7. 近い赤褐色土 Hr-FA(0.5～1.0cm)・焼土(0.5cm)多量。しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 Hr-FA多量。焼土少量。炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 焼土少量。Hr-FA微量。しまり・粘性あり。
10. 灰土土 灰土体。焼土中層。しまり・粘性弱い。
11. 暗褐色土 炭化物・灰・黒褐色土少量。しまり・粘性あり。
12. 暗褐色土 焼土中層。しまりあり。粘性ややあり。



第10図 3号住居跡遺構図(1)



3号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 白色粒石粒少量、焼土・炭化物微量。しまりややあり、粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 As-C多量、Hr-FA少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗灰色土 As-C多量、Hr-FA (0.5cm)・焼土中量、炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C少量、Hr-FA (0.5~1.0cm)・焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・焼土中量・しまりあり、粘性ややあり。
6. 暗褐色土 焼土中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 As-C少量、焼土・炭化物・黄褐色粒少量。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 As-C中量、焼土・黄褐色粒少量、炭化物微量。しまりあり、粘性ややあり。

9. 暗褐色土 黄褐色粒中量、As-C少量、炭化物微量。しまり・粘性あり。
10. 暗褐色土 As-C中量、焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C・焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
12. 暗灰色土 As-C少量。しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 As-C・焼土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
14. 灰褐色土 焼土多量、As-C・灰少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
15. 濃い赤褐色土 焼土中量。しまりややあり、粘性やや弱い。
16. 暗褐色土 焼土少量、As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
17. 灰褐色土 焼土・炭化物少量、As-C微量。しまりややあり、粘性やや弱い。
18. 暗灰色土 As-C少量、Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。
19. 暗褐色土 As-C中量。しまり・粘性ややあり。
20. 暗褐色土 As-C・黒色土少量、炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

0 1:60 2m

第11図 3号住居跡遺構図(2)

ト4基（P1～P4）が検出された。P1は規模0.78×0.59mの長楕円形で、深さ0.85m。P2は規模0.63×0.59mの不整隅丸長方形で、深さ0.80m。P3は規模0.63×0.46mの隅丸長方形で、深さ1.10m。P4は規模0.78×0.68mの隅丸長方形で、深さ0.96m。P3のみ軸方位が異なる。南壁下中央付近から出入り口ピットと考えられるP5が検出された。規模0.36×0.36mの不整円形で、深さ0.07m。出土遺物は土師器・粘土（坏・皿・小形甕・台付甕・甕・壺）、須恵器（高台付埴・蓋・盤）、石器・石製品（磨石・砥石）である。遺物は南壁下東寄りにやや集中しており、P4とP5の間からは土師器・甕の上半部が床面に据え置かれているような状態で出土した。

3号住居跡P2・3 土層説明（B・B'）

1. 暗褐色土 As-C中層, Hr-FA・礫 (0.5~3.0m) 少量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA中層, As-C少量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA少量, As-C・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~3.0m) 多量, As-C微量, しまりあり, 粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0m) 中層, 黒褐色土 (0.5m) 微量, しまりあり, 粘性ややあり。

3号住居跡P1 土層説明（C・C'）

1. 暗褐色土 As-C多量, Hr-FA少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量, 焼土微量, しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫 (0.5~5.0m) 微量, しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量, しまり・粘性あり。
5. 暗褐色土 Hr-FA (0.5m) 中層, As-C少量, しまり・粘性あり。

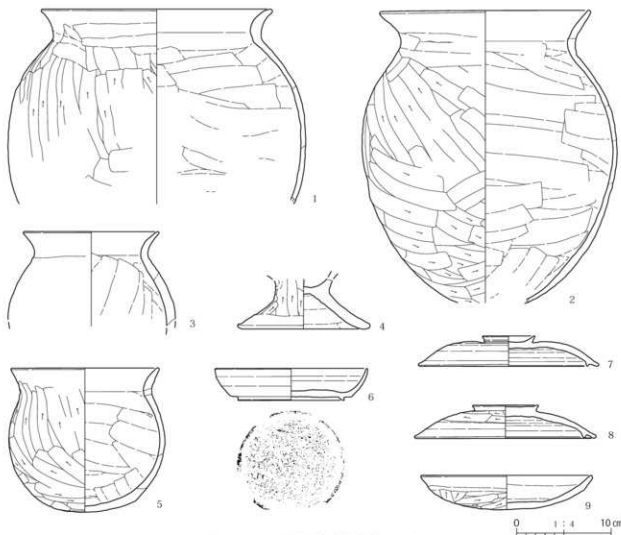
3号住居跡P5 土層説明（E・E'）

1. 暗褐色土 As-C多量, 焼土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。

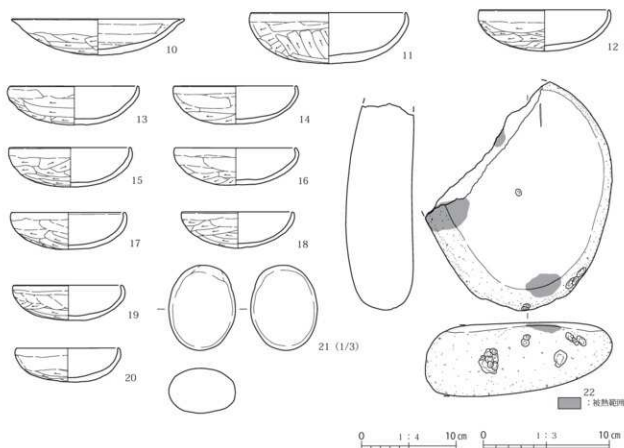
6. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0m) 少量, 礫 (0.5m) 中層, しまり・粘性ややあり。
7. 黒褐色土 As-C中層, Hr-FA少量, しまり・粘性あり。
8. 黄褐色土 Hr-FA大層, しまり・粘性あり。
9. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0m) 多量, As-C微量, しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0m) 中層, As-C少量, しまり・粘性あり。
12. 暗褐色土 Hr-FA少量, As-C微量, しまりややあり, 粘性やや弱し。

3号住居跡P4 土層説明（D・D'）

1. 暗褐色土 As-C多量, Hr-FA少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量, 焼土微量, しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫 (0.5~5.0m) 微量, しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量, しまり・粘性あり。
5. 暗褐色土 Hr-FA (0.5m) 中層, As-C少量, しまり・粘性あり。
6. 黒灰色土 As-C・Hr-FA少量, しまり・粘性ややあり。
7. 黒灰色土 As-C・Hr-FA微量, しまり・粘性ややあり。



第12図 3号住居跡遺物実測図(1)



第13図 3号住居跡遺物実測図(2)

第3表 3号住居跡遺物観察表(1)

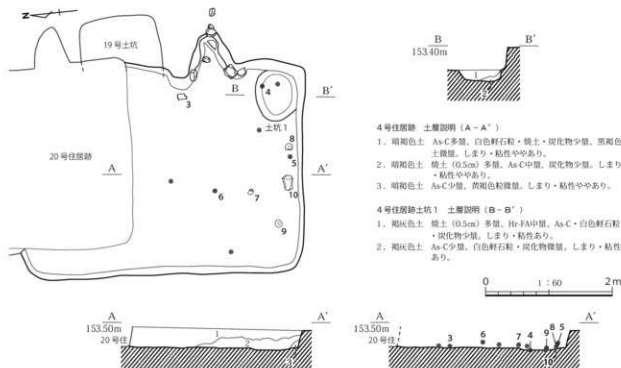
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径: 24.4 底径: 一 器高: (20.6)	口縁部-胴部 上下4/5	外面: にぶい褐色 内面: 明赤褐色	片岩粒・黒色 色粒・白色 粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ, 胴部ヘラナズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。	
2	土師器 甕	口径: 22.3 底径: 一 器高: (30.9)	口縁部-胴部 5/6	外面: にぶい褐色 内面: にぶい褐色	片岩粒・黒色 色粒・白色 粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ, 胴部ヘラナズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。	
3	土師器 甕	口径: (14.4) 底径: 一 器高: (10.0)	口縁部-胴部 上下1/6	外面: 明赤褐色 内面: 褐色	赤褐色粒・石英・黒色 鉱物	燻化焼	外面: 器面荒れ, 磨滅。 内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。	
4	土師器 台付甕	口径: 一 底径: 14.1 器高: (5.3)	台部	外面: 明赤褐色 内面: にぶい褐色	透明粒・黒色 鉱物・チヤート	燻化焼	外面: 台部ヘラナズリ後下部ヘラナデ, 内面: 台部ヘラナデ。	
5	土師器 甕	口径: 15.7 底径: 一 器高: 15.2	1/2	外面: 黒褐色 内面: にぶい褐色	透明粒・黒色 色粒・褐色 粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 胴部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部-底部ヘラナデ。	
6	須恵器 甕	口径: (16.2) 底径: 11.3 器高: 3.4	1/4	外面: 灰 内面: 灰	白色粒	還元焼	外面: 口縁部-高台部回転ナデ, 底部ヘラ切り-高台磨付。 内面: 口縁部-底部回転ナデ。	
7	須恵器 甕	口径: (19.2) 幅み径: (15.3) 器高: 3.2	1/2	外面: 黄灰 内面: 灰褐色	石英・白色 粒	還元焼	外面: 大月部-口縁部回転ナデ, 環状磨み。 内面: 大月部-口縁部回転ナデ, カエリ有。	
8	須恵器 甕	口径: (19.2) 幅み径: 7.0 器高: 3.5	1/4	外面: 暗灰黄 内面: 暗灰黄	石英・白色 粒	還元焼	外面: 大月部回転ヘラナズリ, 口縁部回転ナデ, 環状磨み。 内面: 大月部-口縁部回転ナデ, カエリ有。	
9	土師器 甕	口径: 18.2 底径: 一 器高: 3.6	5/6	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	内閉石・黒色 色粒・白色 粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部-底部ヘラナデ。	
10	土師器 甕	口径: (18.2) 底径: 一 器高: 3.8	1/3	外面: 明赤褐色 内面: にぶい褐色	黒色鉱物・石英・黒色 色粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部-底部ヘラナデ。	
11	土師器 罎	口径: 16.6 底径: 一 器高: 5.4	1/2	外面: 明赤褐色 内面: 褐色	片岩粒・黒色 色粒・石英	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部-底部ヘラナデ。	
12	土師器 罎	口径: 13.8 底径: 一 器高: 4.4	1/6	外面: 褐色 内面: 褐色	黒色粒・白色 色粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部-底部ヘラナデ。	
13	土師器 罎	口径: 13.6 底径: 一 器高: 4.1	2/3	外面: 明赤褐色 内面: 褐色	黒色鉱物・黒色 色粒・白色 色粒	燻化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部-底部ヘラナズリ。 内面: 口縁部-底部ヘラナデ。	

第4表 3号住居跡遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
14	土師器 杯	口径：13.0 底径：— 器高：4.0	ほぼ完形	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	片岩粒・黒色炭物・黒色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
15	土師器 杯	口径：12.8 底径：— 器高：4.2	2/3	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	黒色炭物・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
16	土師器 杯	口径：12.8 底径：— 器高：3.9	5/6	外面：明赤褐色 内面：にぶい赤褐色	黒色炭物・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
17	土師器 杯	口径：12.0 底径：— 器高：3.9	ほぼ完形	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	片岩粒・石英・黒色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ→体部上段ヘラナデ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
18	土師器 杯	口径：11.7 底径：— 器高：3.8	完形	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色	片岩粒・黒色炭物・黒色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
19	土師器 杯	口径：11.5 底径：— 器高：3.7	4/5	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	黒色炭物・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
20	土師器 杯	口径：10.8 底径：— 器高：3.6	5/6	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色	黒色炭物・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、体部～底部ヘラケズリ→体部上段ヘラナデ。 内面：口縁部～底部ヘラナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ/石材/成形の特徴等				備考
21	石製品 磨石	長さ：6.75 幅：5.20 厚さ：3.57	ほぼ完形	重さ：112.68g、石材：安山岩（肉閃石）、小型楕円形。表面面に磨耗面が認められる。				
22	石製品 砥石	長さ：24.19 幅：(19.77) 厚さ：(7.84)	3/4	重さ：4.550g、石材：安山岩。扁平盤の一面に顕著な磨耗面が認められ、平滑している。部分的に被熱痕あり。一部が欠損。磨・砥石一磨石。				

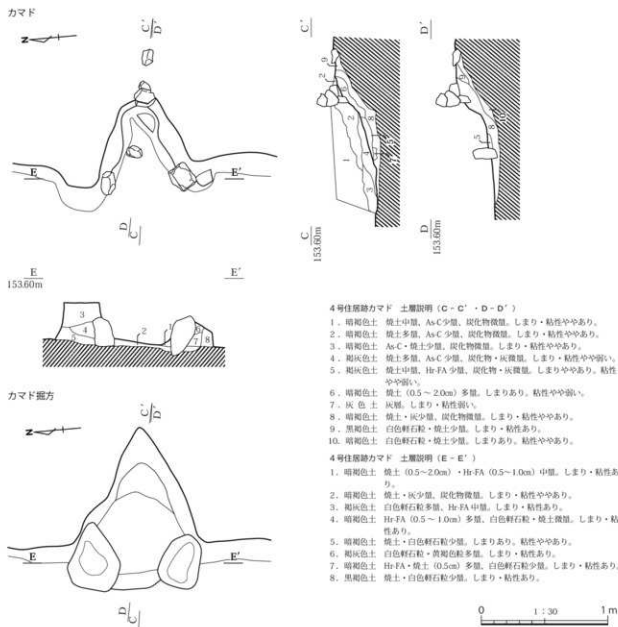
4号住居跡（第14～16図/第5～7表/図版2・3・14）

X=47307～47312、Y=-72580～-72584に位置する。20号住居跡、19号土坑、P-57と重複し、先後関係は4号住居跡→20号住居跡→19号土坑と考えられる。P-57とは不詳である。規模は、東西3.39m、南北<4.63>mの長方形基調である。主軸方位はN-96°-E。壁高は0.27m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、比較的顕著なしまりが確認された。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.86m、燃焼部幅0.44m、壁外長0.53m。構築部材として、両袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられ、燃焼部と煙道部との境から安山岩が検出された。



第14図 4号住居跡遺構図(1)

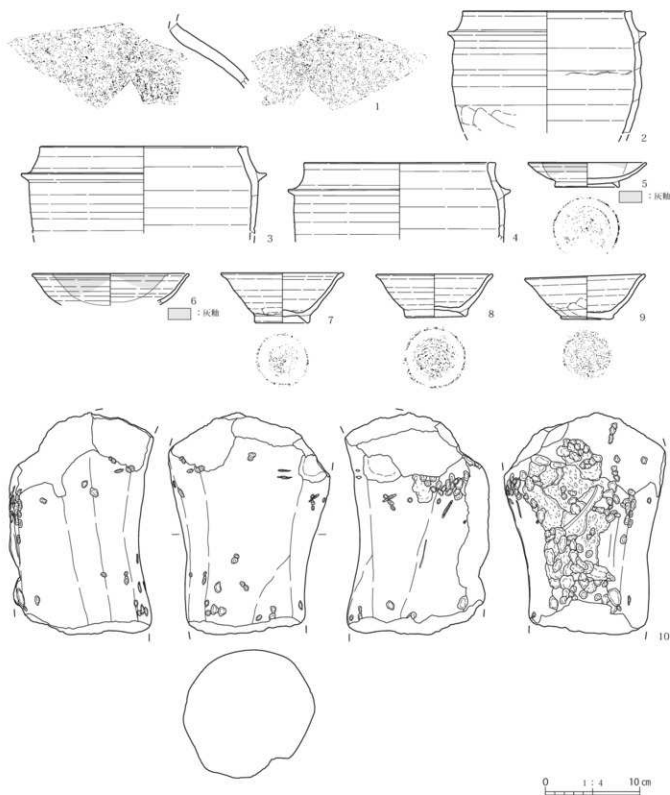
焼部内からは直立した状態で、長方形に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱により焼土化している。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1が南東隅から検出された。規模は0.80×0.67mの不整形円形で、深さ0.20m。出土遺物は土師器（環・甕）、須恵器（環・高台付碗・甕・羽釜）、灰釉陶器（高台付碗・高台付皿）、石製品（砥石）である。住居内中央～南壁下から集中して出土する傾向がみられた。



第15図 4号住居跡遺構図(2)

第5表 4号住居跡遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(6.7)	胴部片	外面：灰 内面：灰	白色粒・黒色粒	還元焼	外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ、当て具風。	
2	須恵器 羽釜	口径：(17.8) 底径：— 器高：(12.9)	口縁部～ 胴部 1/8	外面：にじい・橙 内面：にじい・黒	石英・白色粒・黒色粒	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ～胴部下平ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
3	須恵器 羽釜	口径：(22.0) 底径：— 器高：(9.2)	口縁部～ 胴部上位片	外面：橙 内面：にじい・黄 橙	石英・片岩・ 黒色粒	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	



第16図 4号住居跡遺物実測図

第6表 4号住居跡遺物観察表(2)

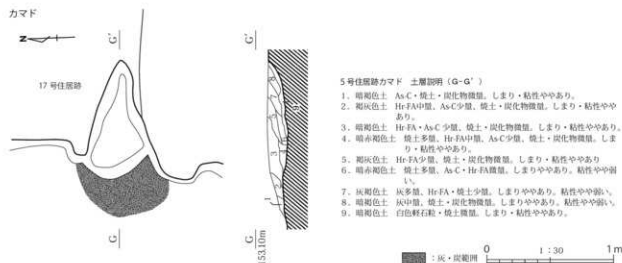
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
4	須恵器 羽釜	口径：(20.2) 底径：— 器高：(8.4)	口縁部～ 側部上位片	外面：粉 内面：濃い黄 褐色	石英・片岩・ 黒色粒	燻化焼	外面：口縁部～側部回転ナデ。 内面：口縁部～側部回転ナデ。	
5	灰釉陶器 高台付碗	口径：(12.6) 底径：6.9 器高：2.6	1/3	外面：灰黄 内面：灰黄	白色粒	明焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転糸切り～高台部 付。口縁部～体部ハケヌリ。輪調陶片。 内面：口縁部～底部回転ナデ。口縁部～体部ハケヌリ。輪調 陶片。	

第7表 4号住居跡遺物観察表(3)

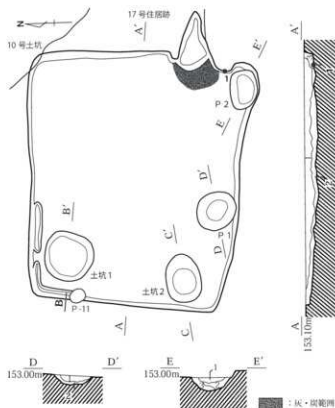
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
6	灰釉陶器 碗	口径：(16.6) 底径：— 器高：(3.3)	口縁部～ 体部 1/3	外面：灰黄 内面：灰黄	白色粒	強磁	外面：口縁部～体部回転ナデ、ハケヌリ。 内面：口縁部～体部回転ナデ、ハケヌリ。釉調灰。	
7	須恵器 高台付焼	口径：(13.0) 底径：5.8 器高：5.3	1/4	外面：黄灰 内面：灰黄陶	石黄・チヤ ート・黒色 粒	焼化焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転系切り～高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
8	須恵器 高台付焼	口径：12.5 底径：6.2 器高：4.6	5/6	外面：灰黄 内面：にぶい・黄 粉	石黄・チヤ ート・黒色 粒	還元焼 灰味	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転系切り～高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
9	須恵器 高台付焼	口径：12.7 底径：5.6 器高：4.6	完形	外面：にぶい・黄 粉 内面：灰黄陶	片岩粒・石 黄・黒色粒	焼化焼 灰味	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転系切り～高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成形の特徴等			備考	
10	石製品 砥石	長さ：(23.47) 幅：(17.08) 厚さ：(15.23)	両端部欠損 している。	重さ：3.950g。石材：安山岩。大型柱状の砥石。全体に砥面があり、いずれも面磨な磨粒により平滑している。砥面の一部には砥状面や磨行痕が認められる。上・下端部には人為的な割傷あり。磨・砥石一組石。				

5号住居跡 (第17～19図/第8表/図版3・14)

X=47294～47297、Y=-72572～-72577に位置する。17号住居跡、3号溝、10号土坑、P-11と重複し、先後関係は17号住居跡、3号溝→5号住居跡→10号土坑、P-11と考えられる。規模は、東西4.02m、南北3.66mの長方形基調。主軸方位は、N-96°-E。壁高は0.24m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、顕著なしまりが確認された。埋土はH r-F A・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長0.89m、燃焼部幅0.40m、壁外長0.63m。H r-F A主体で構築される。内壁は被熱による赤変が認められた。焚口部～火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられるP2が検出された。規模は0.61×0.43mの不整隅丸長方形で、深さ0.23m。主柱穴は明確に確認されなかった。南壁下中央付近から出入り口ピットと考えられるP1が検出された。規模0.67×0.58mの不整隅円形で、深さ0.18m。その他、土坑2基(土坑1・2)と床下から土坑1基(床下土坑1)が検出された。土坑1は規模0.78×0.76mの不整円形で、深さ0.17m。土坑2は規模0.76×0.55mの不整隅円形で、深さ0.16m。床下土坑1は規模1.01×0.96mの不整形で、深さ0.23mである。埋土はA s-C混暗褐色土とH r-F Aが互層堆積していた。出土遺物は土師器(坏)、須恵器(坏・甕・羽釜)、灰釉陶器(碗)である。



第17図 5号住居跡遺構図(1)



5号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0m) 中層, 炭化物少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗灰色土 Hr-FA (0.5~3.0m) 多層, 炭化物少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量, 焼土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。

5号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層, Hr-FA (0.5m) 中層, As-C・炭化物少量, しまりややあり, 粘性あり。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土 (0.5~1.0m) 少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA多量, 黒褐色土 (0.5~1.0m) 中層, As-C少量, しまり・粘性ややあり。

5号住居跡土坑2 土層説明 (C-C')

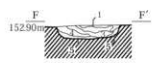
1. 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層, Hr-FA (0.5m) 中層, As-C・炭化物少量, しまりややあり, 粘性あり。

5号住居跡P1 土層説明 (D-D')

1. 灰褐色土 Hr-FA多量, As-C微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 黒褐色土多量, As-C・Hr-FA少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。

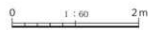
5号住居跡P2 土層説明 (E-E')

1. 灰褐色土 Hr-FA多量, As-C少量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・黒褐色土少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 黒褐色土と暗褐色土の混土層, As-C少量, しまり・粘性ややあり。

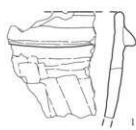
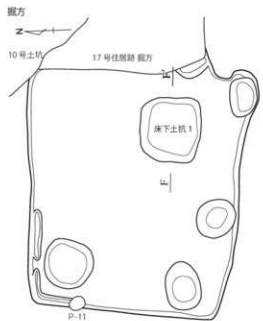


5号住居跡降下土坑1 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 Hr-FA少量, しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0m) 多層, 黒褐色土少量, 白色軽石粘雑層, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA中層, 白色軽石粘・黒褐色土少量。
4. 黒褐色土 Hr-FA・白色軽石粘少量, 礫 (0.5~3.0m) 微量, しまり・粘性ややあり。
5. にぎい黄褐色土 Hr-FA粘雑物, 炭灰, しまりあり, 粘性ややあり。



第18図 5号住居跡遺構図(2)



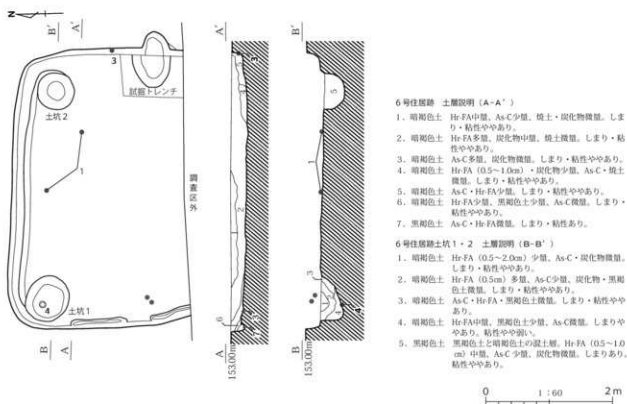
第19図 5号住居跡遺物火測図

第8表 5号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：— 底径：— 器高：(41.3)	口縁部～胴部 底土位破片	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	黒色胎物・ 褐色粒・チヤート	焼成	外面：口縁部～胴部胎子ナデ・胴部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部胎子ナデ。	
2	灰釉陶器 (高台付碗)	口径：(14.8) 底径：— 器高：(3.5)	口縁部～ 体部片	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	焼成	外面：口縁部～体部胎子ナデ。割壊しているが、口縁部胎子の取跡あり。 内面：口縁部～体部胎子ナデ。口縁部～体部はやや釉薬が割れ気味。胎調はオリーブ色。	
3	須恵器 坏	口径：(12.2) 底径：— 器高：(3.5)	口縁部～ 体部片	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	黒褐色粒・ 白色粒・チヤート	焼成	外面：口縁部～体部胎子ナデ。 内面：口縁部～体部胎子ナデ。	

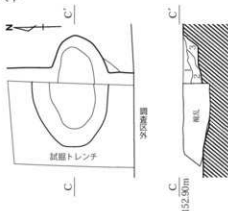
6号住居跡 (第20～22図/第9表/図版3・14)

X=47291~47294, Y=-72574~-72579に位置する。3号溝と重複し、先後関係は3号溝→6号住居跡と考えられる。南側は調査区外である。カマド前面は攪乱を受ける。規模は、東西4.44m、南北(2.87)mの方形基調。主軸方位は、N-91°-E。壁高は0.28m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。西壁下に壁溝が巡り、幅は0.03~0.05m、深さ0.03m程度である。北壁下は0.03~0.07mの弱い段差を伴う。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.89m、燃焼部幅0.26m、壁外長0.27m。埋土に焼土が比較的多く混入していたが、内壁に被熱を受けた痕跡や火床面に灰や焼土の堆積はほとんど認められない。貯蔵穴や柱穴を明確に確認することはできなかったが、土坑2基(土坑1・2)が検出された。土坑1の規模は0.73×0.66mの不整形円形で、深さ0.38m。土坑2は規模0.59×0.57mの円形で、深さ0.32m。出土遺物は土師器(坏・甕)、須恵器(坏・埴・高台付坏・羽釜)、灰釉陶器(坏・碗)、石製品(砥石・磨石)である。土坑1の底面から正位の状態では須恵器・坏が出土した。



第20図 6号住居跡遺構図(1)

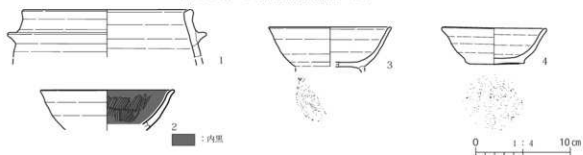
カマド



6号住居跡カマド 土層説明 (C-C')

1. 灰褐色土 Hr-FA多量、焼土中量、As-C少量、炭化物微量、しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 焼土少量、As-C・炭化物・礫 (0.5~1.0m) 微量、しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 焼土中量、Hr-FA少量、しまりややあり、粘性やや弱い。

第21図 6号住居跡遺構図(2)



第22図 6号住居跡遺物実測図

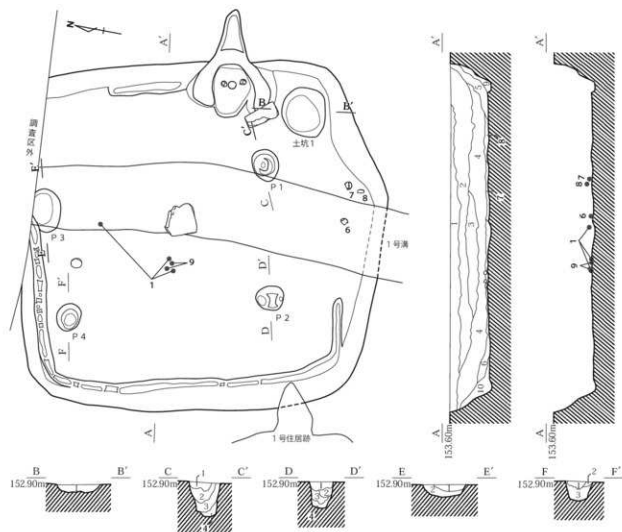
第9表 6号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径: (18.0) 底径: — 器高: (5.2)	口縁部~胴部土色破片	外面: 灰褐色 内面: 灰黄色	赤褐色粒・白色粒・チヤート	焼化胎	外面: 口縁部~胴部回転ナデ。 内面: 口縁部~胴部回転ナデ。	
2	須恵器 碗	口径: (14.2) 底径: — 器高: (4.3)	口縁部~体部片	外面: 灰黄色 内面: 黒色	紫色鉱物・白色粒・チヤート	焼化胎	外面: 口縁部~体部回転ナデ。 内面: 口縁部~体部回転ナデ+体部破文。	内面黒色色程。
3	須恵器 高台付杯	口径: (13.0) 底径: (4.4) 器高: (1.4)	口縁部~体部 1/4	外面: にぶい滑粗 内面: にぶい黄褐色	角閃石・黒色粒・褐色粒	焼化胎	外面: 口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り~高台部分。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	高台部欠損。
4	須恵器 杯	口径: 11.1 底径: 6.2 器高: 3.9	完形	外面: 橙 内面: にぶい橙	紫色鉱物・褐色粒・石英	焼化胎	外面: 口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	

7号住居跡 (第23~25図/第10・11表/図版4・15)

X=47306~47312, Y=-72585~-72592に位置する。1号住居跡、1号溝と重複し、先後関係は7号住居跡→1号住居跡→1号溝と考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西5.55m、南北(5.84)mの方形基調で、南壁は外方へやや張り出す。主軸方位は、N-79°-E。壁高は0.62m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土は白色軽石粒・焼土・炭化物・小礫を含む暗褐色土である。西~北壁下、および東壁下の一部に壁溝が巡り、幅は0.05~0.11m、深さ0.03~0.05m程度である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長1.72m、燃焼部幅0.61m、壁外長0.80m。Hr-FA主体の浅黄色土で構築される。左袖部には長方形に加工された凝灰岩が据えられていたが、右袖部の凝灰岩は抜き取られて前面に投棄されていた。燃焼部内には長方形に加工された凝灰岩製の支脚2本が直立した状態で検出され、その間には土師器・杯が正位の状態でも据え置かれていた。内壁は被熱による赤変が認められた。土坑1基(土坑1)、ピット4基(P1~4)が検出され、このうちP1・2が主柱穴の可能性が考えられる。土坑1の規模は0.77×0.69mの不整槽形で、深さ0.16m。P1は規模0.51×0.41mの不整槽形で、深さ0.61m。P2は規模0.45×0.39mの不整槽形で、深さ0.40m。P3は規模0.69×(0.47)mの不整槽形で、深さ0.27m。P4は規模0.43×0.41mの不整槽形で、深さ0.32m。出土遺物は土師器(杯・皿・甕)、須恵器(杯・

高台付境・蓋・甕・甔）、石製品（砥石・磨石・台石）である。南壁下中央寄りから土師器・坏3点、カマド右袖内から半円状の石製品が出土した。



7号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C多量, As-B・焼土・砂礫微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C多量, Hr-FA・礫 (0.5~10.0cm) 少量, 焼土微量。しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 As-C少量, 焼土・礫 (0.5~5.0cm) 微量。しまり・粘性あり。
4. 暗褐色土 Hr-FA・礫 (0.5~5.0cm) 少量, 焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5~3.0cm) 中量, 黒褐色土 (0.5~2.0cm) 少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 As-C中量, Hr-FA少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 As-C・焼土・炭化物微量。しまりあり, 粘性ややあり。
8. 暗褐色土 Hr-FA多量, As-C少量, 焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
9. 黒褐色土 As-C・Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。
10. 黒褐色土 As-C少量, Hr-FA微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 炭化物・黒褐色土・礫 (0.5~3.0cm) 中量, Hr-FA (0.5cm) 少量, As-C微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡P1 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 As-C・炭化物少量, Hr-FA・礫 (0.5~2.0cm) 微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物少量。しまり・粘性ややあり。

3. 暗褐色土 As-C中量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

7号住居跡P2 土層説明 (D-D')

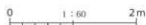
1. 暗褐色土 As-C多量, Hr-FA少量, 焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土少量, As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 黒褐色土中量, As-C微量。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 黄褐色粒多量。しまりややあり。粘性やや弱い。

7号住居跡P3 土層説明 (E-E')

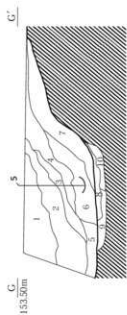
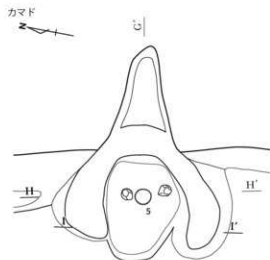
1. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 中量, As-C少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量, As-C・黄褐色粒少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。

7号住居跡P4 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 As-C少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 中量, As-C少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・黄褐色土・砂礫微量, Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。



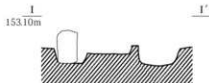
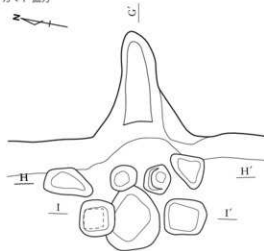
第23図 7号住居跡遺構図(1)



7号住居跡カマド 土層説明 (G-G')

1. 暗褐色土 As・Hr-FA少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As・Hr-FA多量。焼土微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 As・C中量。Hr-FA少量。灰・炭化物微量。しまりあり。粘性ややあり。
4. 灰褐色土 Hr-FA多量。As・C少量。しまりややあり。粘性あり。
5. 暗褐色土 As・C中量。Hr-FA・灰少量。焼土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
6. 灰黄褐色土 焼土少量。しまり・粘性あり。Hr-FA主体に暗褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
8. 灰黄色土 Hr-FA (0.5cm) 中量。灰少量。しまり・粘性ややあり。
9. 灰黄褐色土 Hr-FAと暗褐色土の混土層。しまりややあり。粘性あり。
10. 灰褐色土 灰多量。焼土中量。As・C少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

カマド 掘方

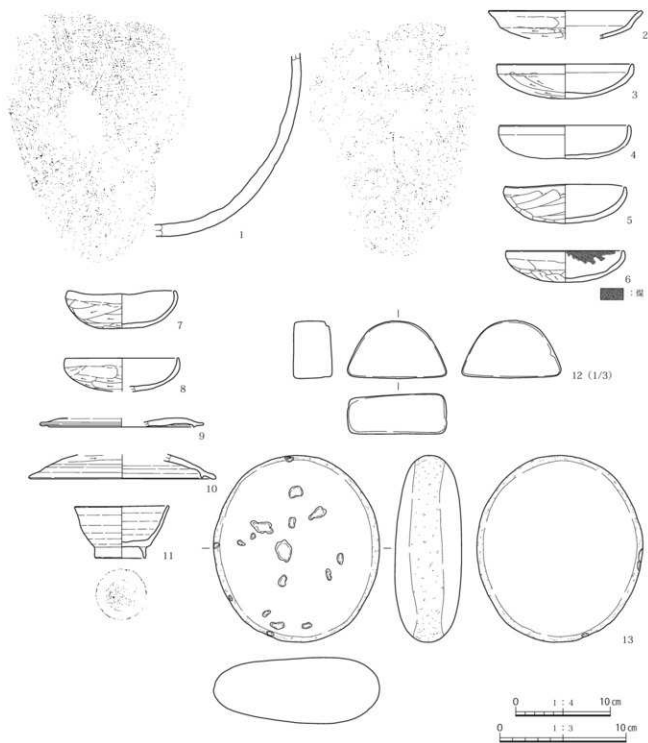


7号住居跡カマド 土層説明 (H-H')

1. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土中量。白色軽石粒・砂礫含む。しまり・粘性あり。
2. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土微量。白色軽石含む。しまり・粘性あり。
3. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量。白色軽石粒・砂礫含む。しまり・粘性あり。
4. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に白色軽石粒・暗褐色土少量。砂礫含む。しまり・粘性あり。
5. 灰黄褐色土 Hr-FA主体に暗褐色土少量。白色軽石粒・焼土微量。しまり・粘性あり。
6. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体。しまり・粘性あり。
7. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) 多量。白色軽石粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
8. にぶい黄褐色土 Hr-FA主体に白色軽石粒・暗褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 Hr-FA・焼土少量。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

0 1 : 30 1 m

第24図 7号住居跡遺構図(2)



第25図 7号住居跡遺物実測図

第10表 7号住居跡遺物観察表(1)

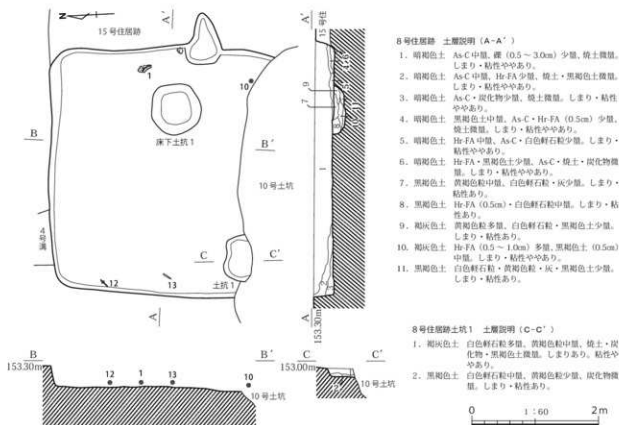
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(19.3)	胴部破片	外面：灰 内面：黒灰	白色粒・黒色粒	還元焼	外面：胴部叩き(平行明き目)。 内面：胴部当て具痕→ナデ。	
2	土師器 皿	口径：(16.4) 底径：— 器高：(2.9)	口縁部～ 体部片	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色鉱物・ 石英・チナ ート	酸化焼	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ。	
3	土師器 杯	口径：(14.5) 底径：— 器高：3.7	1/3	外面：橙 内面：明赤褐	黒色粒・砂 粒・片岩粒	酸化焼	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	
4	土師器 杯	口径：(13.8) 底径：— 器高：3.6	1/2	外面：明赤褐 内面：明赤褐	黒色粒・砂 粒・チャー ト	酸化焼	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	外面体部～底部 器面が欠れている。

第11表 7号住居跡遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
5	土師器 罎	口径：12.8 底径：— 高さ：4.1	ほぼ完形	外面：明赤褐色 内面：赤褐色	内四石・石灰・チャート	焼化胎	外面：口縁部ヨコナテ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～底部ナテ。	内面やや凹面が 残っている。
6	土師器 罎	口径：(12.6) 底径：— 高さ：3.3	1/2	外面：にぶい黄褐色 内面：明赤褐色	黒色鉱物・白色粒・砂粒	焼化胎	外面：口縁部ヨコナテ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～体部へラケズリ、底部ナテ。	内面口縁部～体部 土位留付着。
7	土師器 罎	口径：11.2 底径：— 高さ：4.0	完形	外面：明赤褐色 内面：赤褐色	黒色鉱物・石灰・チャート	焼化胎	外面：口縁部ヨコナテ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～体部へラケズリ、底部ナテ。	
8	土師器 罎	口径：(11.8) 底径：— 高さ：(3.5)	1/3	外面：にぶい黄褐色 内面：黄褐色	黒色粒・赤褐色粒・石灰	焼化胎	外面：口縁部ヨコナテ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～体部へラケズリ、底部ナテ。	
9	須恵器 蓋	口径：(17.4) 幅み径：— 高さ：(0.9)	天井部～ 口縁部 1/3	外面：灰白色 内面：灰白色	白色粒・石灰	還元胎	外面：口縁ナデ～天井部回転へラケナテ。 内面：口縁ナテ、カエリ有。	赤み著しい。
10	須恵器 蓋	口径：(19.8) 幅み径：— 高さ：(2.6)	天井部～ 口縁部 1/3	外面：灰白色 内面：灰白色	チャート・石灰	還元胎	外面：口縁ナデ～天井部回転へラケズリ。 内面：口縁ナテ、カエリ有。	
11	須恵器 高台付碗	口径：10.0 底径：5.4 高さ：5.4	ほぼ完形	外面：灰白色 内面：灰白色	白色粒・黒色粒	還元胎	外面：口縁部～高台部回転ナテ、底部回転系切り～高台部付。 内面：口縁部～底部回転ナテ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ/石材/成形の特徴等				備考
12	石製品	長さ：(4.58) 幅：(2.87) 厚さ：(3.19)	ほぼ完形	重さ：60.19g。石材：輝石。平円状。細磨により整形。				
13	石製品 台石	長さ：(19.75) 幅：(17.56) 厚さ：(7.06)	ほぼ完形	重さ：3640.75g。石材：閃緑岩。扁平礎を素材とし、表面面に磨耗面が認められ、部分的に磨打痕あり。磨石～磨石。				

8号住居跡 (第26～28図/第12表/図版4・15)

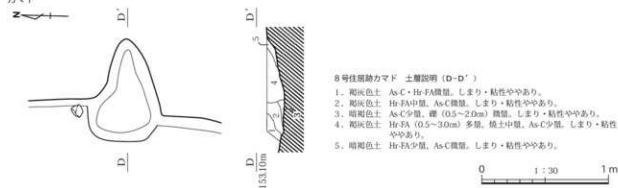
X=47300～47304、Y=-72568～-72572に位置する。15号住居跡、4号溝、10号土坑と重複し、先後関係は15号住居跡、4号溝→8号住居跡→10号土坑と考えられる。規模は、東西4.02m、南北<3.70>mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.31m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はHr-F-A・白色軽石粒・砂礫を含む暗～黒褐色土による貼床を施し、しまりが確認された。埋土はHr-F-A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗～黒褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄り付設される。全長0.81m、燃焼



第26図 8号住居跡遺構図(1)

部幅0.42m、壁外長0.48m。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴や柱穴を明確に確認することはできなかったが、土坑1基（土坑1）が検出された。規模は〈0.74〉×〈0.46〉mの不整形形で、深さ0.13m。床下から土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.81×0.80mの不整形形で、深さ0.18m。埋土の中層には多量のHr-F Aが混入していた。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付埴・皿・蓋・壺・甕・羽釜）、灰釉陶器（碗・高台付碗・皿）、鉄製品（紡錘車・鉄鏝）である。床面直上から鉄製の紡錘車が出土した。

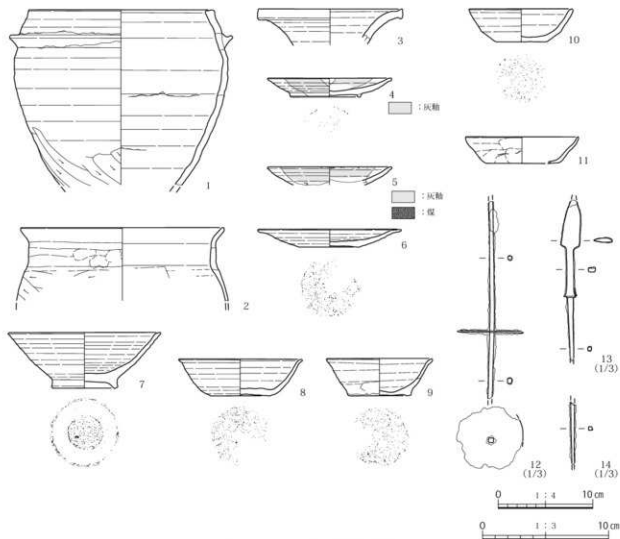
カマド



8号住居跡カマド 土層説明 (D-D')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-F A微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-F A中量。As-C微量。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C少量。礫 (0.5~2.0m) 混雜。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-F A (0.5~3.0m) 多量。焼土中量。As-C少量。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-F A少量。As-C微量。しまり・粘性ややあり。

第27図 8号住居跡遺構図(2)

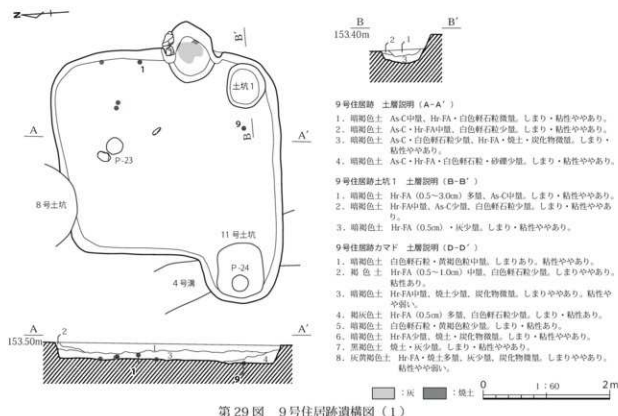


第28図 8号住居跡遺物実測図

第12表 8号住居跡遺物観察表

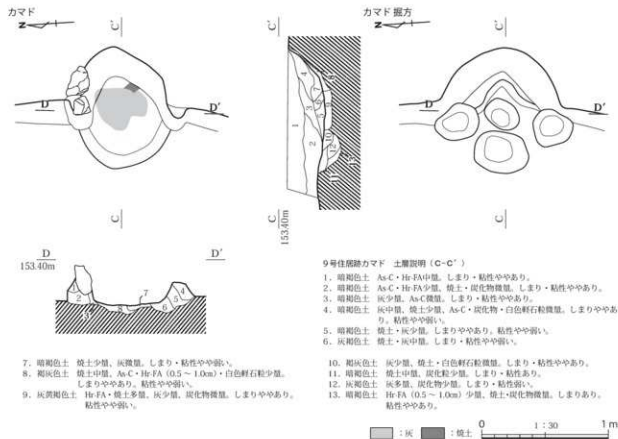
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(19.6) 底径：— 器高：(18.5)	口縁部～胴部 土位破片	外面：明赤褐色 内面：にじみ褐色	片岩粒・石英・褐色粒	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ～胴部下位ヘラケズリ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	
2	土師器 甕	口径：(21.6) 底径：— 器高：(7.7)	口縁部～胴部土位	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	片岩粒・白色粒・黒色粒	酸化焼	外面：口縁部ヨコナデ・首直上縁、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。	
3	須恵器 甕	口径：(15.4) 底径：— 器高：(3.8)	口縁部片	外面：黒灰 内面：黒灰	白色粒・石英・チャート	還元焼	外面：口縁部回転ナデ。 内面：口縁部回転ナデ。	
4	灰釉陶器 皿	口径：(13.2) 底径：(7.5) 器高：2.0	1/6	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	硝焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転系切り～高台付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。口縁部ヘケズリ。釉調灰オリーブ色。	
5	灰釉陶器 杯	口径：(13.2) 底径：1.9 器高：(1.9)	口縁部～胴部1/8	外面：灰白 内面：灰白	白色粒	硝焼	外面：口縁部～体部回転ナデ。口縁部ヘケズリ。釉調灰白。 内面：口縁部～体部回転ナデ。口縁部ヘケズリ。釉調灰白。	復付着。
6	須恵器 皿	口径：(15.2) 底径：6.5 器高：1.9	3/5	外面：黒灰 内面：灰	片岩粒・石英・白色粒	還元焼	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
7	須恵器 高台付甕	口径：(16.2) 底径：7.1 器高：5.9	5/6	外面：灰オリーブ 内面：暗灰黄	石英・チャート・褐色粒	還元焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転系切り～高台付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
8	須恵器 杯	口径：(13.2) 底径：6.4 器高：3.9	1/3	外面：黒灰 内面：にじみ黄	片岩粒・チャート・褐色粒	還元焼	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
9	須恵器 杯	口径：11.3 底径：6.6 器高：3.9	4/5	外面：明褐色 内面：にじみ褐色	黒色粒・褐色粒・チャート	酸化焼	外面：口縁部～体部回転ナデ～体部下位ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
10	須恵器 杯	口径：(11.0) 底径：5.5 器高：3.5	1/3	外面：にじみ黄褐色 内面：にじみ褐色	黒色粒・石英・褐色粒	酸化焼	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
11	土師器 杯	口径：(12.0) 底径：— 器高：(2.8)	1/6	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	黒色鉱物・黒色粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ヨコナデ。体部下位。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヘラケズリ。底部ナデ。	
No.	器種	法量 (cm・g)					備考	
12	鉄製品 鉄鍋	長さ：(15.6) 柄軸径 9.4 幅：(5.2) 厚さ：0.4 重さ：22.12。						
13	鉄製品 鉄鍋	【兼身部】長さ：(3.8) 幅：1.5 厚さ：0.3 【胴部】長さ：3.9 幅：1.0 厚さ：0.4 【基部】長さ：(5.1) 幅：0.35 厚さ：0.35 重さ：12.37。						
14	鉄製品 (鉄鍋)	長さ：(4.8) 幅：0.3 厚さ：0.3 重さ：2.35。						基部。

9号住居跡 (第29～32図/第13表/図版4・16)

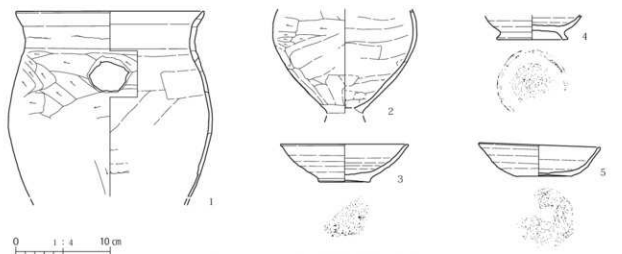


第29図 9号住居跡遺構図(1)

X=47304~47307、Y=-72567~-72572に位置する。4号溝、8・11号土坑、P-23・24と重複し、先後関係は4号溝、P-23→9号住居跡、11号土坑→8号土坑、P-24と考えられる。規模は、東西4.11m、南北3.60mの長方形基調。西壁南側に張り出し部を持つ。その範囲内から11号土坑が確認され、本遺構に伴う可能性が考えられる。主軸方位は、N-92°-E。壁高は0.33m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、中央部でやや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-F A・白色軽石粒を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.96m、燃焼部幅0.54m、壁外長0.40m。構築部材として左壁面に安山岩、左袖部には長方形に加工された角閃石安山岩が据えられていた。右袖部では確認されなかったが、掘方から袖石が据えられていたと考えられる掘り込みが検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面にはHr-F Aを含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規

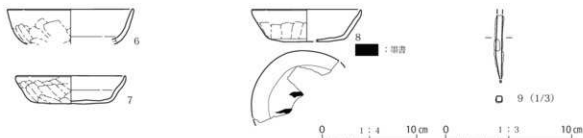


第30図 9号住居跡遺構図(2)



第31図 9号住居跡遺物実測図(1)

横は0.69×0.61mの不整楕円形で、深さ0.21m。出土遺物は土師器（坏・台付甕・甕）、須恵器（坏・高台付碗・蓋・壺・甕）、鉄製品（釘カ）である。

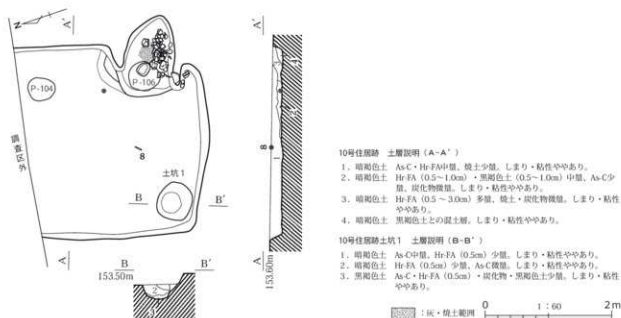


第32図 9号住居跡遺物実測図(2)

第13表 9号住居跡遺物観察表

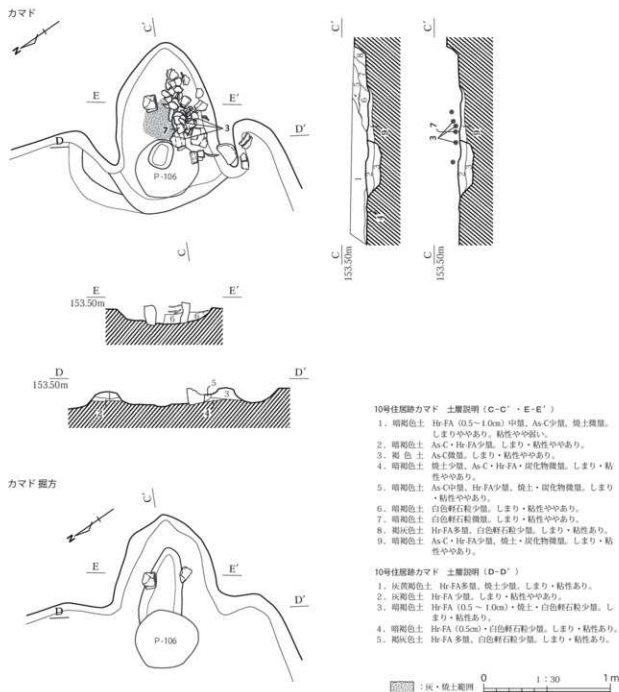
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:— 器高:(19.6)	口縁部~ 胴部1/4	外面:にぶい赤 褐色 内面:赤褐色	黒色粘・チ ャート・石 灰	焼成	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	胴部上位境成後 穿孔あり。
2	土師器 台付甕	口径:— 底径:— 器高:(11.0)	胴部3/5	外面:褐 内面:にぶい赤 褐色	片岩粘・黒 色粘・チヤ ート	焼成	外面:胴部ヘラケズリヘラナデ。 内面:胴部ヘラナデ。	
3	須恵器 坏	口径:— 底径:(5.2) 器高:4.0	1/3	外面:灰 内面:灰オリー ブ	片岩粘・赤 褐色粘・白 色粘	還元	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
4	須恵器 高台付碗	口径:— 底径:7.6 器高:(2.7)	体部2/4~ 底部3/4	外面:灰白 内面:灰白	石炭・黒色 粘・チヤ ート	還元	外面:体部~高台部回転ナデ、底部回転糸切り~高台粘 付。 内面:体部~底部回転ナデ。	外面底部ヘラ記 号「X」カ。
5	須恵器 坏	口径:13.2 底径:— 器高:3.3	4/5	外面:灰白 内面:灰白	黒色粘・白 色粘・チヤ ート	還元	外面:口縁部~体部回転ナデ、底部回転糸切り。 内面:口縁部~底部回転ナデ。	
6	土師器 坏	口径:(13.4) 底径:— 器高:(3.7)	口縁部~ 体部1/2	外面:明赤褐 内面:明赤褐	黒色粘・白 色粘	焼成	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 内面:口縁部~体部ヘラナデ。	
7	土師器 坏	口径:(11.2) 底径:8.0 器高:3.0	1/2	外面:にぶい褐 褐色 内面:褐	内四石・黒 色粘・褐色 粘・褐色	焼成	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・指節土痕、底部ヘ ラケズリ。 内面:口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
8	土師器 坏	口径:(11.6) 底径:(8.2) 器高:(3.4)	1/2	外面:明赤褐 内面:明赤褐	黒色粘・白 色粘・褐色 粘	焼成	外面:口縁部ヨコナデ~体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面:口縁部~体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	外面底部黒滑あり。
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
9	鉄製品 釘カ	長さ:(5.0)、幅:(0.5)、厚さ:(0.4)、重さ:(3.7g)。						

10号住居跡 (第33~35図/第14表/図版5・16)

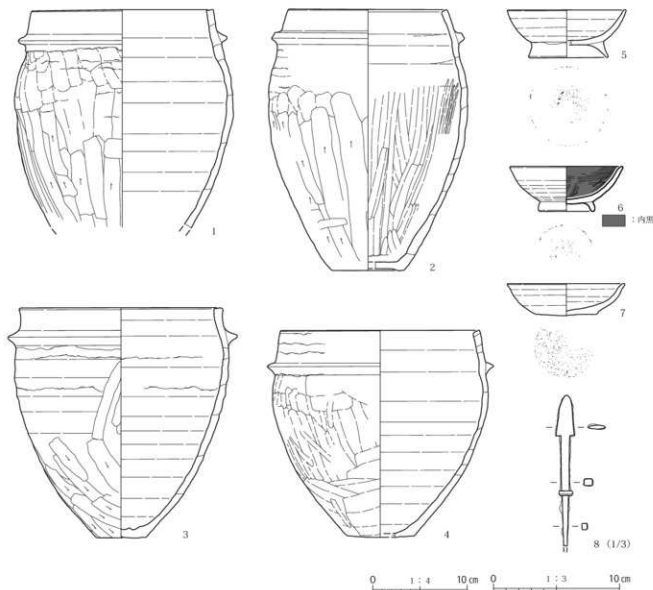


第33図 10号住居跡遺構図(1)

X = 47310 ~ 47312, Y = -72567 ~ -72571 に位置する。1号掘立柱建物跡 (P-104・106) と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西 <3.10> m、南北 <3.06> m の長方形基調。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.18 m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はH r-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長1.32 m、燃焼部幅0.69 m、壁外長0.65 m。構築部材として、右軸部には長方形形状に加工された凝灰岩が据えられていた。燃焼部内には長方形形状に加工された凝灰岩製の支脚2本が直立した状態で検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には被熱し焼土化したH r-F Aが堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.59 × 0.54 mの不整楕円形で、深さ0.26 m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏)、須恵器(坏・高台付埴・羽釜)、鉄製品(鉄鏝)である。カマド南半側の埋土内から羽釜などの破片がやや集中して出土した。



第34図 10号住居跡遺構図(2)



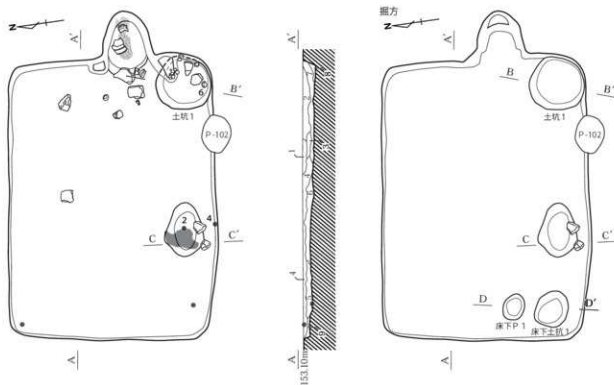
第35図 10号住居跡遺物実測図

第14表 10号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須臾器 羽釜	口径：19.2 底径：— 器高：(23.0)	—	外面：にぶい黄 内面：灰黄緑	チャート・ 白色粘・黒 色粘	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラケズリ後土平ヘラ ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	—
2	須臾器 羽釜	口径：(16.8) 底径：(7.8) 器高：27.6	1/3	外面：にぶい黄 緑 内面：にぶ い黄緑	チャート・ 片岩粘・白 色粘	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部下平ヘラケズリ、底部 ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部→底部ナデ。	—
3	須臾器 羽釜	口径：(21.5) 底径：5.2 器高：24.4	1/3	外面：にぶい黄 緑 内面：明赤 粘	チャート・ 褐色粘・白 色粘	酸化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラケズリ→ヘラナデ、 底部ナデ。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	—
4	須臾器 羽釜	口径：(21.2) 底径：(7.2) 器高：21.9	1/4	外面：灰黄緑 内面：黄灰	白色粘・チ ャート・石 灰	還元焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ→胴部ヘラナデ、底部ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ、底部ナデ。	外面胴部粘土付 着。
5	須臾器 高台付埴	口径：12.6 底径：8.5 器高：5.0	4/5	外面：にぶい黄 緑 内面：にぶ い黄緑	褐色粘・黒 色粘物・白 色粘	酸化焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台粘 付。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	—
6	須臾器 高台付埴	口径：12.0 底径：6.0 器高：4.8	1/4	外面：にぶい黄 緑 内面：黄灰	褐色粘・黒 色粘・透明 粘	酸化焼	外面：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転系切り→高台粘 付。 内面：口縁部～底部回転ナデ→口縁部→体部端文。	内面黒色処理。
7	須臾器 埴	口径：12.4 底径：6.5 器高：3.4	1/2	外面：浅黄緑 内面：浅黄緑	褐色粘・黒 色粘・白色 粘	酸化焼	外面：口縁部～底部回転ナデ、底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ、覆付着。	—
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
8	鉄製品 鉄錐	【胴部】長さ：3.2 幅：1.5 厚さ：0.3 底径：0.5 重さ：16.35。		【胴部】長さ：4.7 幅：0.7 厚さ：0.5	【首部】長さ：(4.0) 幅：0.4 厚			

11号住居跡（第36～38図／第15・16表／図版5・16）

X=47293～47297、Y=-72562～-72567に位置する。4（b）・6号溝、P-102と重複し、先後関係は4（b）・6号溝→11号住居跡→P-102と考えられる。規模は、東西4.56m、南北3.35mの長方形。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.18m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はAs-C・Hr-F・A・暗褐色土による貼床を施し、しまりが確認された。埋土はHr-F・A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央寄りに付設される。全長1.03m、燃焼部幅0.61m、壁外長0.67m。カマド前面～中央部の埋土内から構築部材と考えられる安山岩や被熱の痕跡が著しい凝灰岩などが検出された。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には灰・焼土がやや厚く堆積していた。この他、南壁下中央寄りからカマド構築部材の安山岩2点が並んだ状態で検出され、その前面には羽釜（No2）と共に灰・焼土の堆積が確認された。規模等からカマドとは言い難いが、火の使用を伴う付帯施設であったと考えられる。一部がカマドの右袖部分と被るが、貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.87×0.83mの不整楕円形で、深さ0.25m。床下から土坑1基（床下土坑1）、ピット1基（床下P1）が検出された。床下土坑1の規模は0.58×0.50mの不整形で、深さ0.31m。床下P1の規模は0.42×0.33mの不整長楕円形で、深さ0.28m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・蓋・高台付坏・高台付埴・羽釜・甗）、灰釉陶器（坏・碗・高台付碗）である。カマド右袖部から南東隅の範囲において、須恵器（坏・高台付埴・高台付坏・羽釜）、カマド構築部材と考えられる安山岩などがやや集中して出土した。



11号住居跡 土層説明 (A-A')

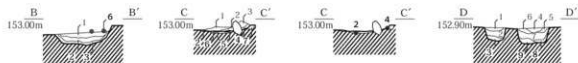
1. 暗褐色土 As・C・Hr・FA・炭化物・灰微塵。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr・FA多量。As・C少量。焼土・炭化物微塵。しまりややあり。粘性やや弱い。
3. 灰褐色土 灰多量。炭化物少量。As・C・Hr・FA微塵。しまりややあり。粘性やや弱い。
4. 暗灰色土 Hr・FA (0.5～1.0cm) 多量。As・C・炭化物少量。焼土微塵。しまり・粘性ややあり。
5. 黒褐色土 Hr・FA (0.5～1.0cm) ・炭化物少量。白色軽石粒微塵。しまり

6. 暗褐色土 粘性ややあり。凝合む。Hr・FA (0.5～1.0cm) 多量。As・C中量。炭化物微塵。しまり・粘性ややあり。
7. 灰褐色土 灰多量。炭化物少量。As・C・焼土・炭化物微塵。しまり・粘性ややあり。
8. 黒褐色土 Hr・FA中量。As・C・焼土・炭化物微塵。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 Hr・FA (0.5～3.0cm) 少量。As・C微塵。しまり・粘性ややあり。

□ : 灰 □ : 灰・焼土混層 □ : 焼土

0 1 : 60 2m

第36図 11号住居跡遺構図(1)



11号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 褐色土 Hr-FA (0.5~2.0m) 多量, 白色軽石粒少量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~5.0cm) 多量, 白色軽石粒少量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA中量, 白色軽石粒少量, しまり・粘性ややあり。

11号住居跡 土層説明 (C-C')

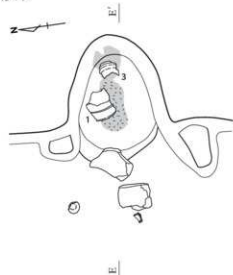
1. 暗褐色土 Hr-FA中量, 焼土 (0.5cm) 少量, 灰含む, しまり・粘性ややあり。
2. 明赤褐色土 焼土主体, しまりやや弱い, 粘性弱い。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA少量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA中量, As-C少量, しまり・粘性ややあり。
5. 黄灰色土 灰土体, しまり・粘性弱い。
6. 暗褐色土 焼土・灰・黒褐色土少量, 炭化物微量, しまり・粘性やや弱い。
7. 褐色土 Hr-FA中量, As-C・黒褐色土少量, しまり・粘性ややあり。

11号住居跡床下土坑1・床下P1 土層説明 (D-D')

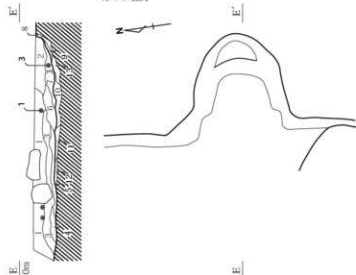
1. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量, しまりあり, 粘性ややあり。
2. 暗褐色土 白色軽石粒中量, 黄褐色粒少量, しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・礫 (0.5~2.0m) 微量, しまり・粘性あり。
4. 褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒少量, しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-FA・黄褐色粒中量, 白色軽石粒少量, しまり・粘性あり。
6. 褐色土 Hr-FA多量, 白色軽石粒・黄褐色粒中量, しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA・黄褐色粒少量, 白色軽石粒・礫 (0.5~2.0m) 微量, しまりあり, 粘性ややあり。
8. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒微量, しまりあり, 粘性ややあり。
9. 黒褐色土 白色軽石粒微量, しまりあり, 粘性ややあり。



カマド



カマド 断面



11号住居跡カマド 土層説明 (E-E')

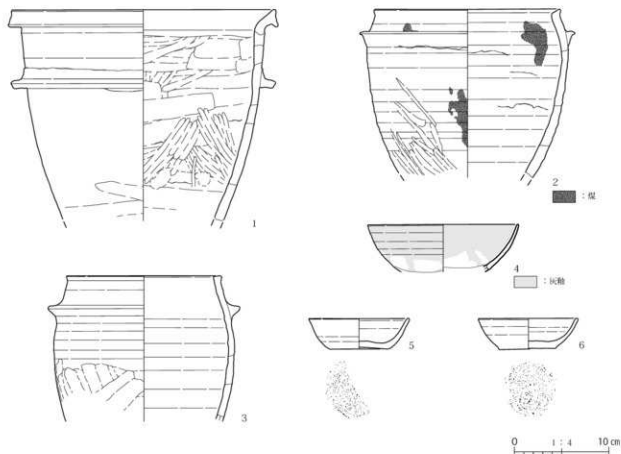
1. 褐色土 As-C・Hr-FA中量, 炭化物少量, しまり・粘性ややあり。
2. 明赤褐色土 焼土多量, 灰少量, As-C・Hr-FA・炭化物微量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 炭化物中量, As-C・焼土微量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C少量, 炭化物・砂礫微量, しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C・焼土少量, Hr-FA・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
6. 灰褐色土 焼土・灰中量, As-C・Hr-FA・炭化物少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
7. 灰褐色土 灰土体, 焼土中量, しまり・粘性弱い。
8. 褐色土 Hr-FA多量, 焼土少量, しまり・粘性弱い。
9. 褐色土 Hr-FA (0.5~2.0m) 少量, 黒褐色土少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 多量, 焼土中量, As-C少量, しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 Hr-FA・白色軽石粒中量, As-C少量, 焼土 (0.5~2.0m) 微量, しまり・粘性ややあり。
12. 褐色土 Hr-FA多量, As-C微量, しまり・粘性ややあり。
13. 黒褐色土 焼土少量, しまりあり, 粘性ややあり。



第37図 11号住居跡横断面 (2)

第15表 11号住居跡遺物観察表 (1)

No.	器種	法量 (cm)	現存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径:(28.0) 底径:— 器高:(22.3)	口縁部~ 胴部 1/5	外面:にぶい黄 褐色 内面:にぶ い黄	黒色胎物・ チャート・ 石炭	酸化焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ~胴部下位ヘラナデ, 内面:口縁部~胴部回転ナデ~胴部ヘラナデ・指張直注。	
2	須恵器 羽釜	口径:(19.7) 底径:— 器高:(17.8)	口縁部~ 胴部 1/2	外面:にぶい黄 褐色 内面:にぶ い黄	黒色胎物・ チャート・ 石炭	酸化焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ~胴部下位ナデ, 内面:口縁部~胴部回転ナデ。	内外面保着付。
3	須恵器 羽釜	口径:(16.4) 底径:— 器高:(15.4)	口縁部~ 胴部片	外面:明赤褐 色 内面:にぶい黄 褐色	褐色胎・黒 色胎・白色 胎	還元焼	外面:口縁部~胴部回転ナデ~胴部下位ヘラナデ, 内面:口縁部~胴部回転ナデ。	
4	灰釉陶器 坏	口径:(16.0) 底径:— 器高:(5.0)	口縁部~ 体部 1/4	外面:灰黄 内面:灰白	白色胎	明焼	外面:口縁部~体部回転ナデ, 口縁部ハケヌリ, 輪削灰イ テリフ。 内面:口縁部~体部回転ナデ, 口縁部ハケヌリ, 輪削灰イ テリフ。	



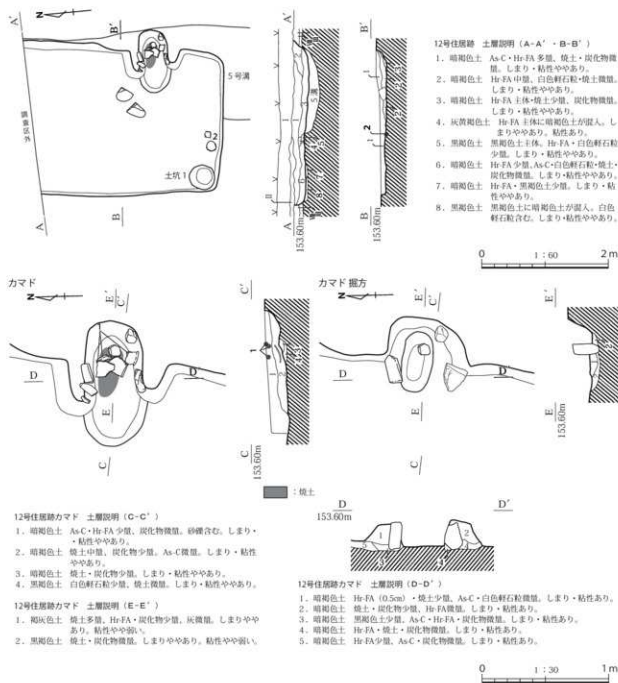
第38図 11号住居跡遺物実測図

第16表 11号住居跡遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
5	黒忠器 坏	口径：(10.7) 底径：(6.2) 器高：3.2	1/6	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒・白色粒	焼成窑	外面：口縁部～体部回転ナズ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナズ。	
6	黒忠器 坏	口径：10.6 底径：6.0 器高：3.3	3/5	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	黒色鉱物・褐色粒・石片	焼成窑	外面：口縁部～体部回転ナズ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナズ。	

12号住居跡 (第39・40図/第17表/図版6・17)

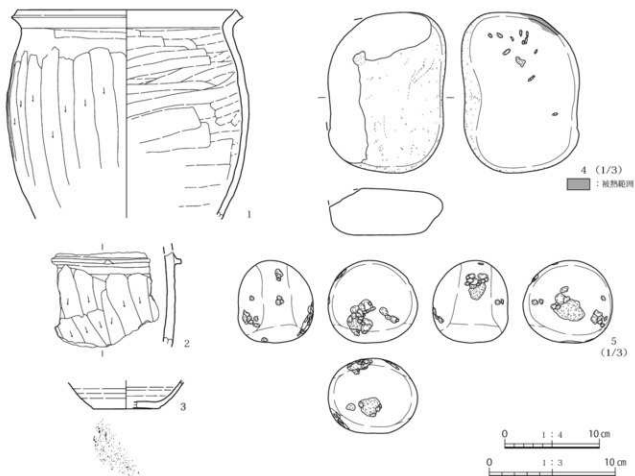
X=47309~47312, Y=-72560~-72563に位置する。5号溝と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西2.42m、南北(3.23)mの長方形基調。主軸方位は、N-97°-E。壁高は0.15m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁やや南寄りに付設される。全長0.99m、燃焼部幅0.32m、壁外長0.28m。構築部材として、壁面には両側面が平坦に加工された凝灰岩、左袖部には長方形に加工された凝灰岩と右袖部には安山岩が据えられていた。燃焼部内には長方形に加工された凝灰岩製の支脚が直立した状態で検出された。内壁は被熱による焼土化がやや認められた。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.40×0.37mの不整形円で、深さ0.16m。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(坏・壺・羽釜・甗)、土師質土器(土釜)、石器・石製品(砥石・敲石)である。カマド埋土内から土師器・甕が出土した。



第39図 12号住居跡遺構図

第17表 12号住居跡遺物観察表

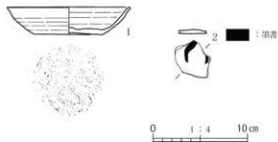
No.	部 種	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	焼 成	成形時の特徴	備 考
1	土製土器 土釜	口径：(24.4) 底径：— 胴高：(22.0)	口縁部～ 胴部 1/4	外面：明赤色 内面：にぶい赤色	黒色胎物・ 褐色胎・白 色胎	焼化胎	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
2	須置器 甕	口径：— 底径：— 胴高：—	胴部片	外面：にぶい赤 褐色 内面：灰褐色	白色胎・黒 色胎・透明 色胎	焼化胎	外面：胴部ヘラケズリ。 内面：胴部ヘラナデ。	
3	須置器 坏	口径：— 底径：(7.2) 胴高：(3.0)	体部下平～ 底部 1/4	外面：灰白 内面：灰白	白色胎・黒 色胎	還元胎	外面：体部回転ナデ、底部回転系切り。 内面：体部回転ナデ。	
No.	部 種	法量 (cm)	残 存	重さ / 石材 / 成形時の特徴等				備 考
4	石製品 硯石	長さ：12.73 幅：(3.36) 厚さ：3.74	3/4	重さ：725.23g。石材：黒紋岩。扁平状の一面に顕著な新結晶が認められ、一部に縦打痕が認められる。製熱による破砕あり。				
5	石製品 硯石	長さ：6.54 幅：7.09 厚さ：5.96	ほぼ定形	重さ：409.00g。石材：黒緑岩。小型球状。全体に磨耗しており、西面の一部に縦打痕が認められる。				



第40図 12号住居跡遺物実測図

13号住居跡 (第41・42図/第18表/図版6・17)

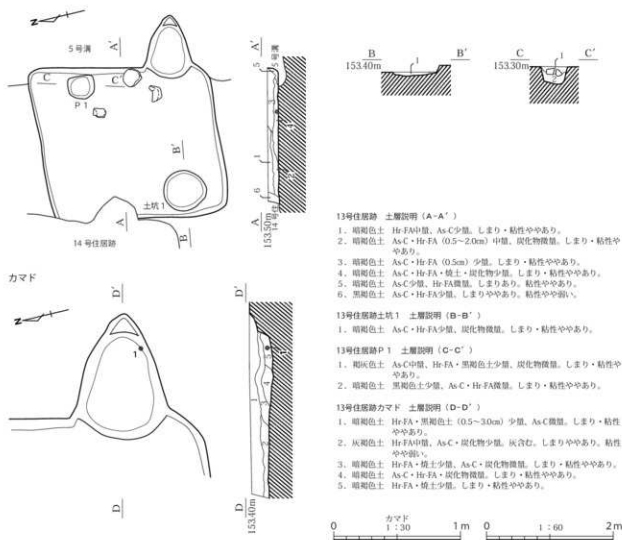
X=47306~47309, Y=-72561~-72564に位置する。14号住居跡、5号溝と重複し、先後関係は5号溝→13号住居跡→14号住居跡と考えられる。規模は、東西2.41m、南北2.86mの長方形基調。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.19m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はA s-C・H r-F A・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長1.00m、燃焼部幅0.53m、壁外長0.78m。カマド前面には構築部材と考えられる被熱した安山岩が検出された。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.67×0.64mの不整形形で、深さ0.06m。柱穴は確認されなかったが、ビット1基(P1)が検出された。規模は0.42×0.37mの不整形形で、深さ0.25m。出土遺物は土師器(環・甕)、須恵器(環・高台付碗・甕・壺)である。カマド埋土内から墨書のある土師器・環が出土した。



第41図 13号住居跡遺物実測図

第18表 13号住居跡遺物観察表

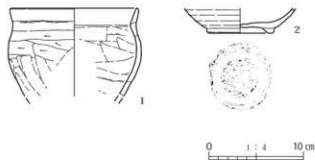
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 130 底径: 74 器高: 29	3/5	外面: 灰白 内面: 灰白	白色粒・黒色粒	還元焼	外面: 口縁部~体部凹みナシ。底部凹み糸切り。 内面: 口縁部~底部凹みナシ。	
2	土師器 環	口径: — 底径: — 器高: —	1/6	外面: 橙 内面: 橙	片岩粒・赤褐色粒・白色粒	還元焼	外面: 底部へラケズリ。 内面: 底部ナシ。	底部外面須恵器あり。



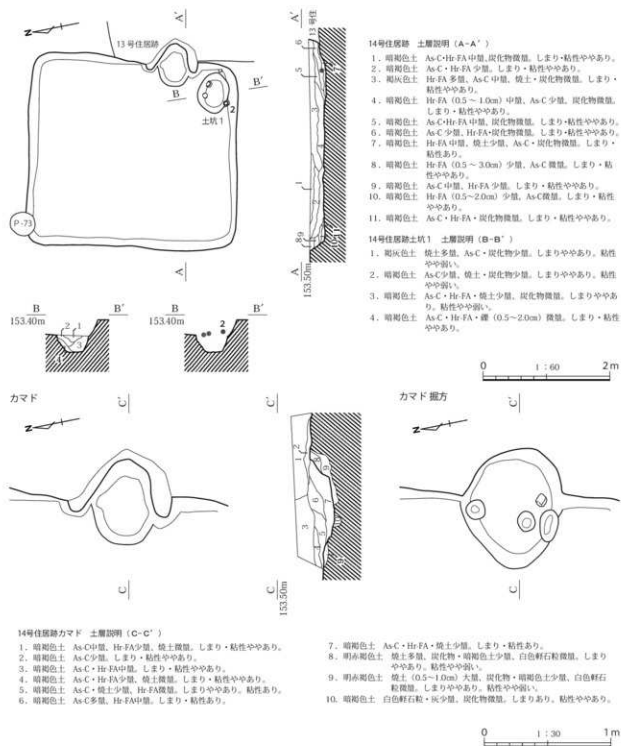
第42図 13号住居跡遺構図

14号住居跡 (第43・44図/第19表/図版6・17)

X=47307~47310, Y=-72564~-72567に位置する。13号住居跡、1号掘立柱建物跡(P-70・73)と重複し、先後関係は13号住居跡、1号掘立柱建物跡→14号住居跡と考えられる。規模は、東西3.13m、南北3.28mの方形。主軸方位は、N-98°-E。壁高は0.25m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.68m、燃焼部幅0.41m、壁外長0.29m。Hr-FAと暗褐色土により構築される。内壁は被熱による赤変が認められた。火床面には焼土・灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。規模は0.64×0.48mの不整形円形で、深さ0.25m。出土遺物は土師器(坏・小形甕・甕)、須恵器(坏・高台付坏・高台付碗)である。土坑1の埋土上面から須恵器高台付坏・高台付碗がやや集中して出土した。



第43図 14号住居跡遺物実測図



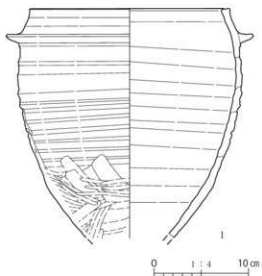
第44図 14号住居跡遺構図

第19表 14号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 罎	口径：(13.0) 底径：— 胎高：(9.3)	口縁部～胴 部上平1/4	外面：褐 内面：にぶい赤 褐色	紫色胎土・ チャード・ 石質	燻化焼	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ→ハラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。	
2	須恵系 高台付罎	口径：— 底径：7.1 胎高：(2.6)	体部下平～ 底部4/5	外面：灰白 内面：灰白	白色粒・黒 色粒	還元焼	外面：体部～高台部別ナデ。底部別転系切り→高台部付。 内面：体部～底部別転ナデ。	

15号住居跡（第45～47図／第20表／図版6・7・17）

X=47299～47304、Y=-72565～-72568に位置する。8・16号住居跡、10号土坑と重複し、先後関係は16号住居跡→15号住居跡→8号住居跡、10号土坑と考えられる。規模は、東西〈2.85〉m、南北4.25mの方形基調。主軸方位は、N-92°-E。壁高は0.31m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、やや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.67m、燃焼部幅0.55m、壁外長0.55m。構築部材として両袖部および壁面には安山岩が据えられ、袖石は他住居よりやや大型な安山岩が用いられていた。火床面には焼土・灰が堆積していたが、壁面は被熱による赤変はさほど認められなかった。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.75×0.62mの不整形円形で、深さ0.18m。床下から土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.78×0.72mの不整形で、深さ0.21m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付埴・羽釜）である。カマド埋土内から羽釜の破片が出土した。

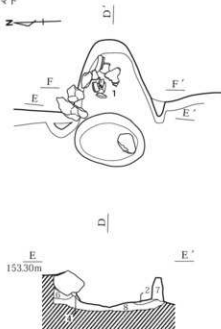


第45図 15号住居跡遺物実測図

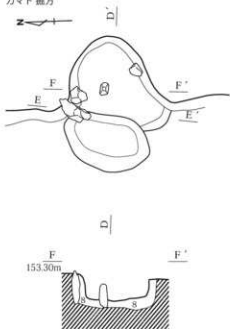
第20表 15号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(21.2) 底径：— 胴高：(24.3)	口縁部～ 胴部 1/4	外面：にじい、黄 褐色 内面：黄	黒色粒・チ ャート・石 灰・白色粒	強化焼	外面：口縁部～胴部回転ナデ～胴部下位へラケズリ残ナデ、 内面：口縁部～胴部回転ナデ。	

カマド



カマド南方

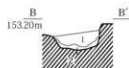
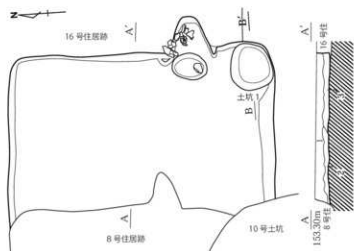


15号住居跡カマド 土層説明 (D-D'・F-F')

1. 暗褐色土 As-C中層、Hr-FA (0.5～1.0cm) 少量、焼土・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 焼土中層、As-C・Hr-FA少量、しまり・粘性ややあり。
3. 褐色土 灰多量、しまりややあり、粘性やや弱い。
4. 暗褐色土 As-C中層、炭化物・灰微量。しまりあり、粘性ややあり。

5. 暗褐色土 As-C中層、Hr-FA少量、しまり・粘性あり。
6. 褐色土 Hr-FA (0.5～2.0cm) 多量、黒褐色土・暗褐色土少量、しまり・粘性あり。
7. 黄褐色土 Hr-FA (0.5～2.0cm) 多量、暗褐色土少量、しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 白色軽石粒・炭褐色粒・焼土少量、しまりややあり、粘性やや弱い。

第46図 15号住居跡遺構図 (1)

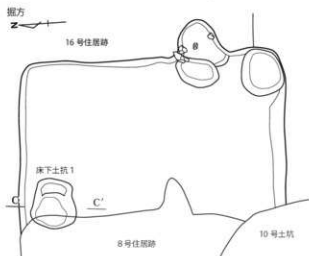


15号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C 多量, Hr-FA (0.5~1.0cm) 少量, 炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C中量, 焼土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5cm) 少量, 炭化物少量, 焼土微量, しまり・粘性ややあり。

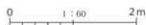
15号住居跡土坑1 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA (0.5~2.0cm)・礫 (0.5~1.0cm) 少量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 少量, 白色軽石粒・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。



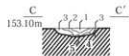
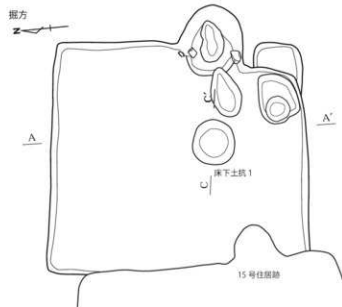
15号住居跡床下土坑1 土層説明 (C-C')

1. 褐色土 焼土多量, As-C・炭化物少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 As-C少量, 焼土・炭化物少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
3. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・焼土少量, 炭化物微量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
4. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・礫 (0.5~2.0cm) 微量, しまり・粘性ややあり。



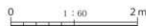
第 47 図 15 号住居跡遺構図 (2)

16 号住居跡 (第 48 ~ 51 図 / 第 21 表 / 図版 7・17)



16号住居跡床下土坑1 土層説明 (C-C')

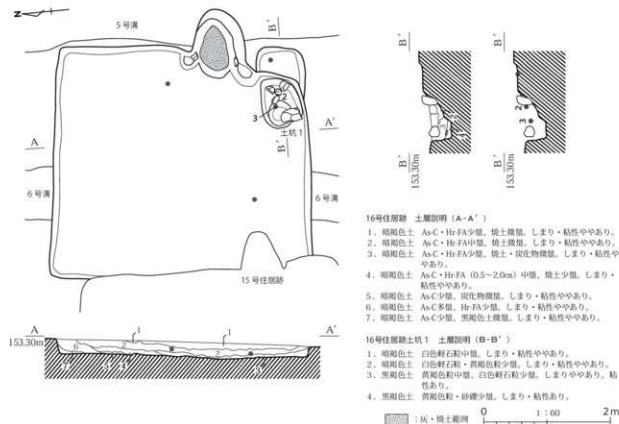
1. 暗褐色土 白色軽石粒中量, Hr-FA・焼土・灰少量, しまりあり, 粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~1.0cm) 多量, 白色軽石粒・焼土少量, しまりあり, 粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA (0.5cm) 多量, 焼土少量, しまり・粘性ややあり。
4. 黒褐色土 白色軽石粒少量, 焼土微量, しまり・粘性あり。
5. 黒褐色土 白色軽石粒・黄褐色土少量, しまり・粘性あり。



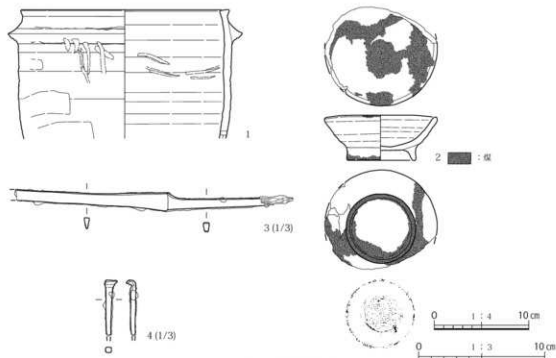
第 48 図 16 号住居跡遺構図 (1)

16号住居跡 (第48～51図/第21表/図版7・17)

X = 47300 ~ 47304, Y = -72562 ~ -72566 に位置する。15号住居跡、5・6号溝と重複し、先後関係は5・6号溝→16号住居跡→15号住居跡と考えられる。規模は、東西(3.74)m、南北(4.16)mの長方形基調。南東隅、土坑1の東側は張り出し部なのか、浅い段が確認された。主軸方位は、N-97°-E。壁高は0.34m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はHr-F A・白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土で貼床を

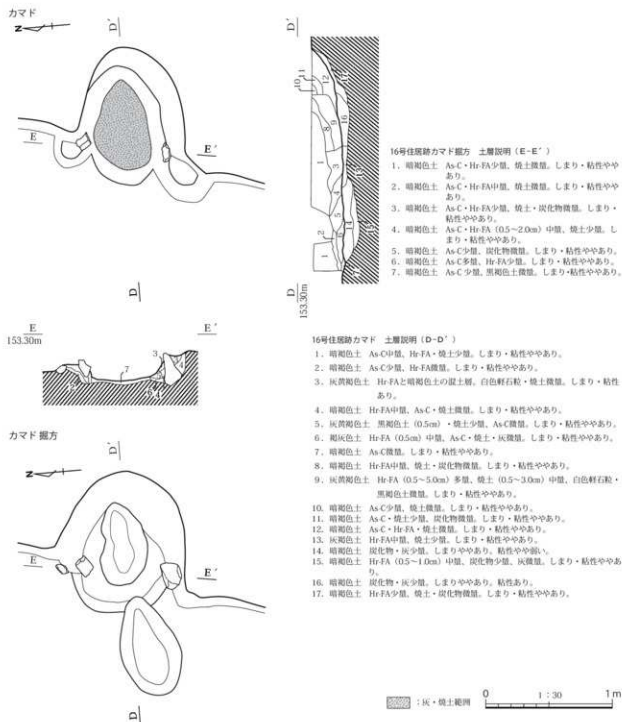


第49図 16号住居跡遺構図(2)



第50図 16号住居跡遺物実測図

施し、やや顕著なしまりが確認された。埋土はHr-F-A・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央より南寄りに付設される。全長0.94 m、燃焼部幅0.47 m、壁外長0.63 m。構築部材として両袖部には長方形に加工された安山岩が据えられていた。壁面は被熱による焼土化が著しい。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.79 × 0.62 mの不整形で、深さ0.37 m。床下から土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.81 × 0.72 mの不整形円で、深さ0.13 m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（高台付埴・蓋・甕・甗・羽釜）、鉄製品（刀子・釘）である。土坑1の埋土内にはカマド構築部材と考えられる安山岩とともに、上層から須恵器・高台付埴、鉄製品・刀子が出土した。



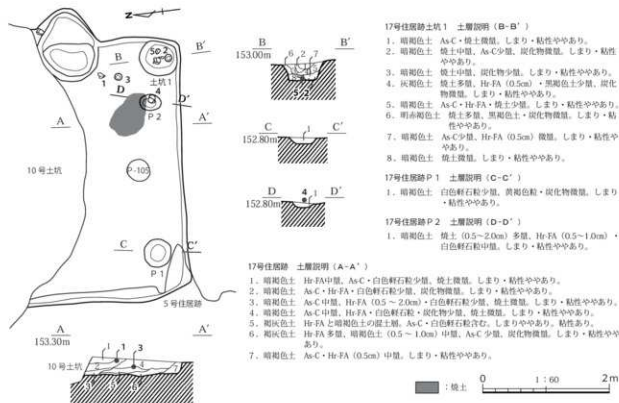
第51図 16号住居跡遺構図(3)

第21表 16号住居跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色澤	胎土	構成	成形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	口径：(22.0) 底径：— 高さ：(13.6)	—	口縁部～胴部上平1/5 内面：にぶい	外表面：浅黄 内面：にぶい	チャート・ 黒色粒・石 灰	焼成胎 外表面：口縁部～胴部回転ナデ～胴部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ～胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 高台付埴	口径：12.0 底径：7.3 器高：4.8	3/5	外表面：にぶい 内面：にぶい	白色粒・黒 色粒・黒色 粒・石灰	焼成胎	外表面：口縁部～高台部回転ナデ。底部回転糸切り～高台部付 内面：口縁部～底部回転ナデ。	内外面復付着。
No.	器種	法量 (cm・g)					備考	
3	鉄製品 刀子	【刃部】長さ：(12.1) 幅：1.4 厚さ：0.4 【茎部】長さ：(9.9) 幅：0.8 厚さ：0.4 重さ：23.62。茎部に木部残存。						
4	鉄製品 釘	長さ：(4.4) 幅：0.5 厚さ：0.4 重さ：4.00。						

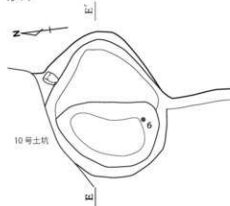
17号住居跡 (第52～54図/第22表/図版7・8・17)

X=47294～47297, Y=-72568～-72573に位置する。5号住居跡、1号井戸、10号土坑、P-105と重複し、先後関係はP-105→17号住居跡→5号住居跡、1号井戸、10号土坑と考えられる。規模は、東西4.35m、南北<2.79>mの長方形基調。主軸方位は、N-95°-E。壁高は0.24m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床だが、カマド前面にはHr-FA・焼土を含む暗褐色土が貼床状に堆積し、しまりが確認された。埋土はHr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央寄りに付設される。全長1.16m、燃焼部幅0.82m、壁外長0.50m。上部が欠損していたものの、構築部材として、左袖部には長方形状に加工された安山岩が据えられていた。壁面は被熱による赤変が著しい。火床面には焼土・灰が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基(土坑1)が検出された。土坑1の規模は0.61×0.54mの不整楕円形で、深さ0.31m。柱穴であるかは判然としないが、ピット2基(P1・2)が検出された。P1の規模は0.45×0.43mの長楕円形で、深さ0.11m。P2の規模は0.34×0.26mの長楕円形で、深さ0.10m。出土遺物は土師器(坏・甕)、須恵器(坏)、鉄製品(釘)である。遺物はカマド火床面から鉄製品、南東側の床上から土師器・坏や須恵器・坏、土坑1の埋土下層から土師器・坏、須恵器・坏などがややまとまって出土した。

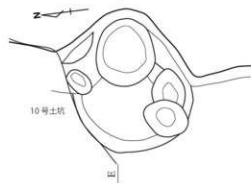
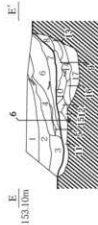


第52図 17号住居跡遺構図(1)

カマド



カマド 断面

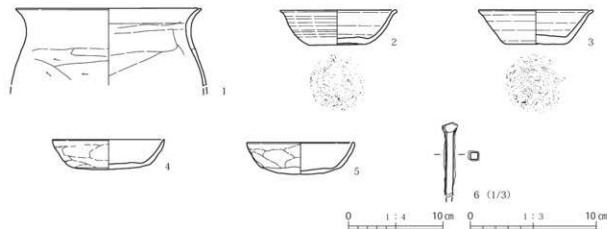


17号住居跡カマド 土層説明 (E-E')

1. 暗褐色土 Hr-FA中層, As-C・焼土少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 焼土少量, As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
3. 灰褐色土 焼土・灰多量, 炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
4. 灰褐色土 灰多量, 焼土 (0.5cm) 少量。しまり・粘性やや弱い。
5. 暗褐色土 焼土・灰少量, As-C・炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
6. 赤褐色土 焼土主体, 炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
7. 灰褐色土 焼土少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 焼土 (0.5~2.0cm) 少量, 白色軽石粒・黒褐色土微量。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 Hr-FA (0.5cm)・焼土少量, 白色軽石粒微量。しまりあり。粘性ややあり。
10. 暗褐色土 焼土多量, 黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

11. 黒褐色土 焼土中層, 炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
12. 暗褐色土 Hr-FA・白色軽石粒・黒褐色土少量, 炭化物微量。しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) 多量, 白色軽石粒・黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
14. 黒褐色土 白色軽石粒多量, Hr-FA 少量。しまりややあり。粘性やや弱い。
15. 暗褐色土 Hr-FA (0.5~3.0cm) 多量, 白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
16. 暗褐色土 黒褐色土少量, 白色軽石粒・礫 (0.5~3.0cm) 微量。しまりややあり。粘性やや弱い。
17. 黒褐色土 Hr-FA (0.5~2.0cm) と黒褐色土の混土層。しまり・粘性やや弱い。

第53図 17号住居跡遺構図(2)



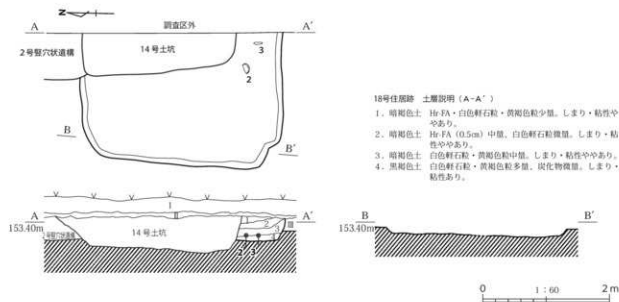
第54図 17号住居跡遺物実測図

第22表 17号住居跡遺物観察表

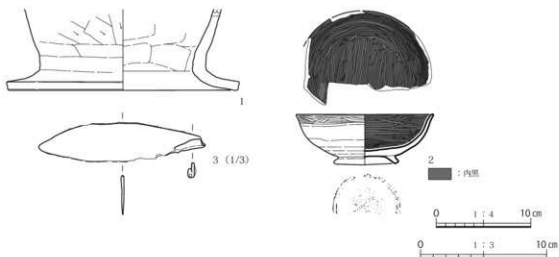
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径: (19.6) 底径: — 器高: (8.2)	口縁部~ 胴部上土片	外面: にぶい赤 褐色 内面: にぶ い赤褐色	黒色泥物・ 石英・チャ ート	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。	
2	須恵器 坏	口径: 12.6 底径: 5.9 器高: 3.7	ほぼ完形	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶ い黄褐色	褐色粒・黒 色粒・石英	酸化焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ, 底部回転糸切り。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	
3	須恵器 坏	口径: 12.2 底径: 6.4 器高: 3.6	ほぼ完形	外面: 灰黄褐色 内面: 黒褐色	白色粒・チ ャート・黒 色粒	酸化焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ, 底部回転糸切り。 内面: 口縁部~底部回転ナデ。	
4	土師器 坏	口径: 11.9 底径: 8.7 器高: 3.2	4/5	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	角閃石・黒 色粒・白色 粒	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部ナデ, 底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
5	土師器 坏	口径: (11.5) 底径: (8.5) 器高: 3.4	2/5	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	角閃石・黒 色粒・白色 粒	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ, 体部~底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~底部ヘラナデ。	
No.	器種	法量 (cm・g)						備考
6	鉄製品 釘	長さ: (5.8) 軀: 0.6 厚さ: 0.5 重さ: 8.11。						

18号住居跡 (第55・56図/第23表/図版8・18)

X=47305~47308、Y=-72556~72558に位置する。2号竪穴状遺構、14号土坑と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。東側は調査区外である。規模は、東西〈2.19〉m、南北〈3.26〉mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.18m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はH r - F A・白色軽石粒を含む暗褐色土による貼床を施し、しまりはやや弱い。埋土はH r - F A・白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。カマドは調査区外と考えられる。出土遺物は土師器(甕・甕)、須恵器(蓋・高台付埴・甕・壺・甕)、不明鉄製品である。



第55図 18号住居跡遺構図



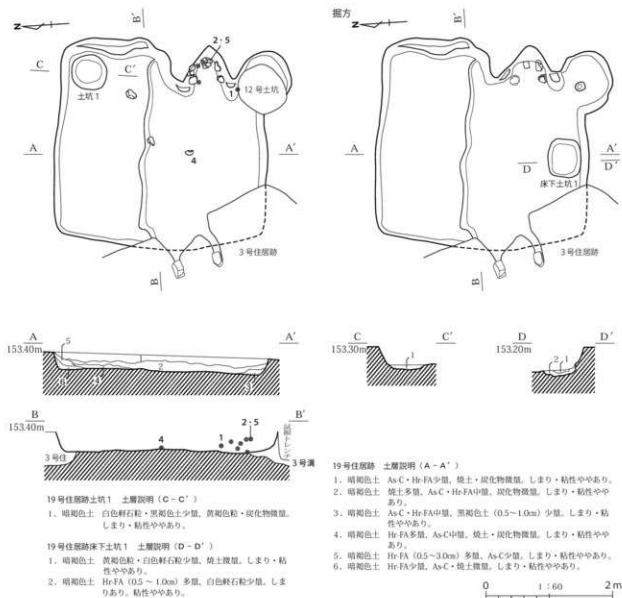
第56図 18号住居跡遺物実測図

第23表 18号住居跡遺物観察表

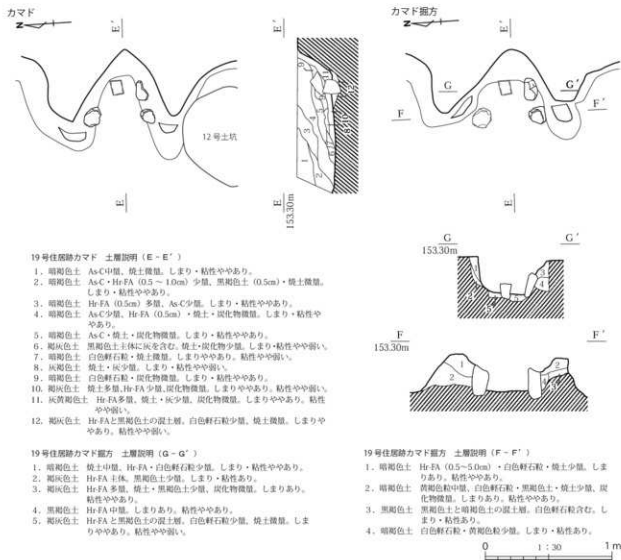
No.	器種	法量 (cm)	現存	色調	胎土	焼成	成盤形の特徴	備考
1	須恵器 甕	口径: — 底径: (24.6) 器高: (8.7)	胴部下位— 底部 1/6	外面: に近い赤褐色 内面: に近い赤褐色	黒色胎物・ チャート・ 白色粒	酸化焼	外面: 胴部ヘラケズリヘラナズ。底部ヨコナズ。 内面: 胴部~底部ヘラナズ。	
2	須恵器 高台付埴	口径: (14.5) 底径: 6.8 器高: 5.4	1/2	外面: に近い黄褐色 内面: 黒	黒色胎物・ 褐色粒・石 粒	酸化焼	外面: 口縁部~高台部凹部ナデ~口縁部凹文、高台貼付。 内面: 口縁部~底部凹部ナデ~口縁部~体部凹文。	内面黒色地埋。
No.	器種	法量 (m・g)						備考
3.	鉄製品	長さ: (13.1) 幅: 3.1 厚さ: 0.7 重さ: 24.77。						

19号住居跡（第57～59図／第24表／図版8・18）

X=47299～47303、Y=-72575～-72578に位置する。3号住居跡、3号溝、12号土坑と重複し、先後関係は3号住居跡、3号溝→19号住居跡→12号土坑と考えられる。南東隅、12号土坑の東側に張り出し状の掘り込みが確認されたが、不詳である。規模は、東西〈3.29〉m、南北〈3.40〉mの方形基調。主軸方位は、N-94°-E。壁高は0.30m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床はAs-C・Hr-FA・焼土・炭化物を含む暗褐色土による貼床を施し、やや顕著なしまりが確認された。床面は中央を境に弱い段差がみられ、南半側が2～数cm程度低くなっている。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁南寄りに付設される。全長0.86m、燃焼部幅0.50m。構築部材として、両袖部と側面には安山岩が据えられていた。燃焼部内からは直立した状態で長方形に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱による赤変が著しい。火床面には焼土を含む灰が堆積していた。貯蔵穴の可能性が考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.56×0.56mの円形で、深さ0.08m。床下から、土坑1基（床下土坑1）が検出された。規模は0.60×0.53mの隅丸方形で、深さ0.10m。出土遺物は土師器（甕）、須恵器（杯・高台付埴・壺・甕・羽釜）、灰陶陶器（杯・高台付甕）である。遺物はカマド内から墨書のある須恵器・高台埴や羽釜が出土した。



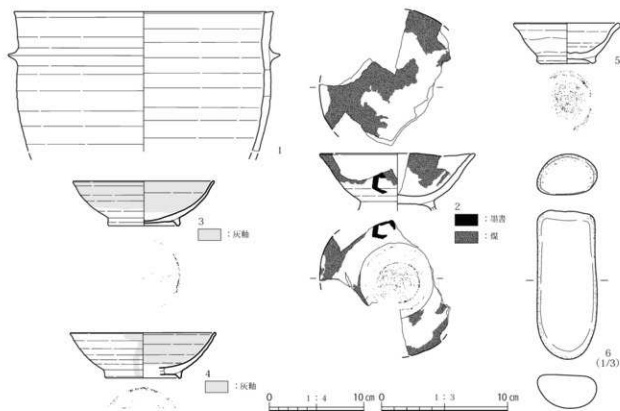
第57図 19号住居跡遺構図(1)



第 58 図 19号住居跡遺構図(2)

第 24 表 19号住居跡遺構観察表

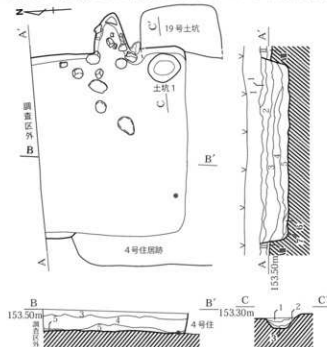
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須置器 羽釜	口径:(27.4) 底径:— 器高:(14.8)	口縁部~胴 部上1/2	外面:橙 内面:にじい期	黒色粒・チ ャート・石 灰	酸化焼	外面:口縁部~胴部回転ナズ。 内面:口縁部~胴部回転ナズ。	
2	須置器 高台付焼	口径:(16.5) 底径:— 器高:(6.1)	1/3	外面:にじい期 内面:にじい期	黒色粒・褐 色粒・白色 粒	酸化焼	外面:口縁部~高台部回転ナズ。底部回転糸切り~高台部 付。 内面:口縁部~底部回転ナズ。	外面体部黒書あり。 内外面黒付着。
3	灰釉陶器 高台付焼	口径:(15.0) 底径:(7.7) 器高:4.8	1/3	外面:灰白 内面:灰白	白色粒	明焼	外面:口縁部~高台部回転ナズ。底部回転糸切り~高台部 付。 内面:口縁部~底部回転ナズ。口縁部~体部ツケ掛け, 軸 調灰オリーブ。	
4	灰釉陶器 高台付焼	口径:(15.5) 底径:(8.2) 器高:(4.8)	1/2	外面:灰白 内面:灰白	白色粒	明焼	外面:口縁部~高台部回転ナズ。底部回転糸切り~高台部 付。 内面:口縁部~体部ツケ掛け, 軸調灰。	
5	須置器 高台付焼	口径:11.3 底径:(6.3) 器高:4.3	5/6	外面:灰褐色 内面:褐色	黒色粒・チ ャート・褐 色粒	酸化焼	外面:口縁部~高台部回転ナズ。底部回転糸切り~高台部 付。 内面:口縁部~底部回転ナズ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ/石材/成形の特徴等				備考
6	石製片 灰石	長さ:11.81 幅:4.76 厚さ:3.23	ほぼ定形	重さ:301.57g。石材:流紋岩。棒状溝を素材とし, 表面・下面を砥石で利用。砥石は異なる磨 耗により平直。				



第59図 19号住居跡遺物実測図

20号住居跡 (第60・61図/図版2・3)

X=47310~47312、Y=-72580~-72583に位置する。4号住居跡、19号土坑と重複し、先後関係は4号住居跡→20号住居跡→19号土坑と考えられる。北側は調査区外である。規模は、東西3.00m、南北〈2.48〉mの方形基調。主軸方位は、N-93°-E。壁高は床面から0.32m程度で、調査区壁面の観察では0.50mを測る。壁面はやや急に立ち上がる。床は地山硬化床で、しまりが確認された。埋土はAs・C・Hr・FA・白色軽石粒・炭化物を含む暗褐色土である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに付設される。全長0.79m、燃焼部



第60図 20号住居跡遺構図(1)

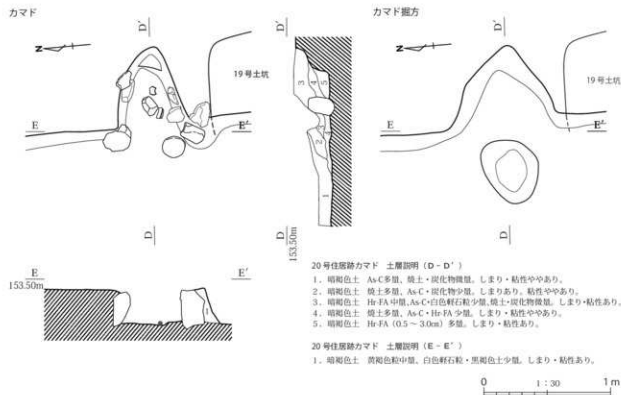
20号住居跡 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 暗褐色土 白色軽石粒多量、As・Hr・FA少量、焼土・炭化物微量。しまりあり、粘性ややあり。
2. 暗褐色土 白色軽石粒中量、Hr・FA・炭化物少量、As・C・焼土微量。しまりあり、粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr・FA・白色軽石粒中量、炭化物少量。しまりあり、粘性ややあり。
4. 暗褐色土 白色軽石粒多量、黒褐色土(0.5cm)中量、As・C・Hr・FA少量。しまり・粘性あり。
5. にぶい褐色土 Hr・FA中量、白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 Hr・FA・白色軽石粒中量、黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。
7. 黒褐色土 Hr・FA(0.5cm)・白色軽石粒中量、炭化物微量。しまり・粘性あり。

20号住居跡土坑1 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粒・焼土中量。しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 白色軽石粒・焼土微量。しまり・粘性あり。
3. 暗褐色土 焼土微量。しまり・粘性あり。

幅0.43m、壁外長0.60m。構築部材として、両袖部と側面には安山岩が据えられていた。燃焼部内からは直立した状態で長方形に加工された安山岩製の支脚が検出された。壁面は被熱による焼土化が著しい。火床面には灰を含む焼土が堆積していた。貯蔵穴と考えられる土坑1基（土坑1）が検出された。規模は0.52×0.46mの不整形円形で、深さ0.16m。出土遺物は土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕・羽釜）である。遺物は調査当初、1軒（4号住居跡）との認識で調査を進めていたため、埋土内一括遺物は4号住居跡として取り上げてしまっている。カマド内から羽釜の破片が出土しており、カマド前面には構築部材と考えられる安山岩が散在した状態で検出された。

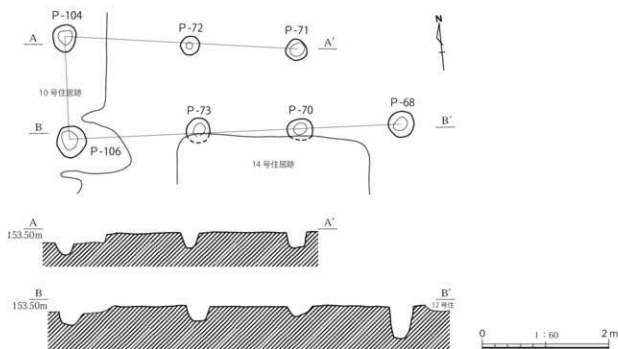


第 61 図 20号住居跡遺構図(2)

2. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第62図/図版8)

X=47310~47312、Y=-72563~-72568に位置する。10・14号住居跡と重複し、先後関係は本遺構の方が古いと考えられる。側柱式掘立柱建物跡。柱穴は6基（P-70~73・104・106）を想定したが、東側の範囲がP-68に及ぶ可能性が考えられる。平面形は長方形を呈し、桁行2間×梁間1間。東辺1.27m、西辺1.67m、南辺3.69（P-68を含むと5.28）m、北辺3.71m。柱間距離は桁方向で1.62~2.05m、梁方向で1.27~1.64m。長軸方位はN-80~85°-W。埋土はAs-C・Hr-FA・白色軽石粒を含む暗褐色土である。



第62図 1号掘立柱建物跡遺構図

3. 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構跡 (第64図/図版8)

X=47292~47294, Y=-72567~-72570に位置する。規模は、東西2.54m、南北2.16mの不整形。主軸方位は、N-70°-E。壁高は0.11m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。床面は多少の起伏がある。埋土はHr-F A・白色軽石粒を含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、須恵器(坏)である。

2号竪穴状遺構 (第63・64図/第25表/図版9・18)

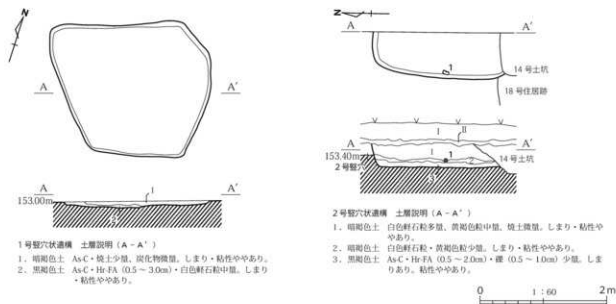
X=47308~47310, Y=-72556・-72557に位置する。18号住居跡、14号土坑と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。規模は、東西<0.83>m、南北<2.40>mの不整形。主軸方位は、N-3°-E。壁高は0.16m程度で、壁面はやや急に立ち上がる。Hr-F A・白色軽石粒・焼土・礫を含む暗褐色土による貼床を施すが、床面のしまりはやや弱い。埋土は白色軽石粒・黄褐色粒を含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(鬚)、須恵器(耳皿)である。西壁下中央寄りの埋土中から耳皿が出土した。本遺構は竪穴住居跡である可能性が考えられる。



第63図 2号竪穴状遺構遺物実測図

第25表 2号竪穴状遺構遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 耳皿	口径: 9.7 底径: — 器高: (3.3)	口縁部~ 体部 4/5	外面: 糖 内面: にぶい糖	褐色粒・黒 色粒	焼化胎	外面: 口縁部~体部回転子。底面回転未切り。 内面: 口縁部~底面回転子。	



第64図 1・2号竪穴遺構遺構図

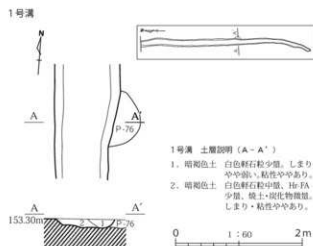
4. 溝

1号溝 (第65図/図版9)

X=47285～47312、Y=-72587～-72589に位置する。7号住居跡、2・7号溝、P-76と重複し、先後関係は7号住居跡、2・7号溝、P-76→1号溝と考えられる。北→南の方向へやや蛇行しながら走行する。北側は調査区外に延び、南側は立ち上がる。N-2°-W→N-18°-E。規模は、上端幅0.47～1.17m、下端幅0.33～0.89m。底面の標高は北153.294～南152.888mで、その比高差は約0.40m。断面形は逆台形基調で、深さは0.04～0.15m。埋土中にAs-Bの含有が認められた。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕)、須恵器(高台付埴・蓋・甕・壺)、灰釉陶器(碗)である。

2号溝 (第66図/図版9)

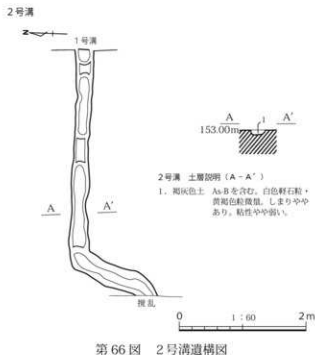
X=47293～47295、Y=-72588～-72592に位置する。1号溝と重複し、先後関係は2号溝→1号溝と考えられる。東から西方へ直線的に走行し、南西方向へ屈曲する。N-90°→N-27°-E。規模は、上端幅0.20～0.36m、下端幅0.09～0.17m。底面の標高は東153.154～南西153.109m。断面形は半円形～不整形で、底面は起伏がある。深さは0.02～0.15m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(坏)である。



第65図 1号溝遺構図

3号溝 (第68・69図/第26表/図版10・18)

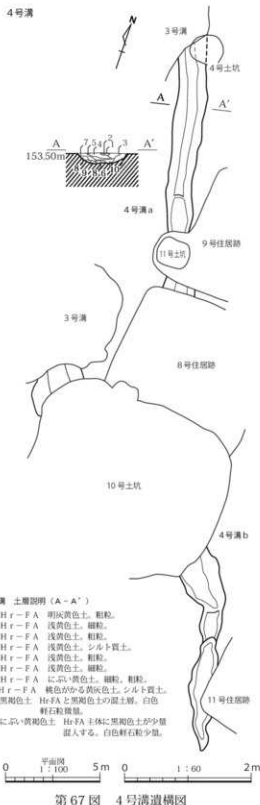
X=47291～47312、Y=-72572～-72578に位置する。5・6・19号住居跡、4号溝、4・12号土坑、P-8・10・13・14・32と重複し、先後関係は本遺構と4号溝はさほど時間差はないと考えられるが、その他の遺構よりは古いと考えられる。北→南方向へ弱く、くの字状に屈曲しながら走行する。N-2°-E→N



-17° - E。規模は上端幅1.00~3.28m、下端幅0.08~0.17m。底面の標高は北152.960~南152.517mで、その比高差は約0.44m。断面形はV字形~逆台形基調(有段)で、深さは0.40~0.64m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(台付甕)である。

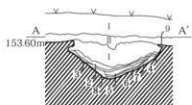
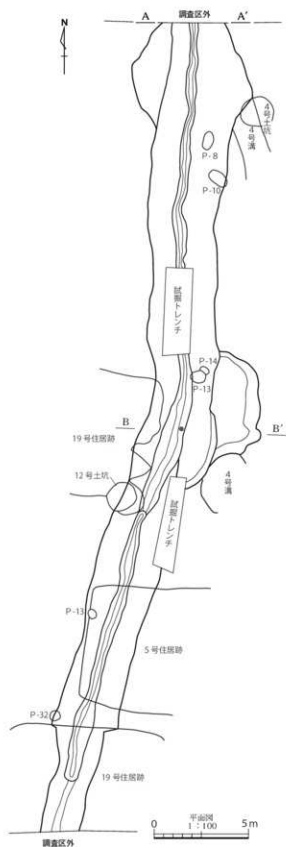
4号溝 (第67図/図版10)

X=47292~47310, Y=-72566~-72574に位置する。便宜上、8号住居より北側を4号溝a、南側を4号溝bとした。8・9・11号住居跡、3号溝、4・10・11号土坑と重複し、先後関係はいずれの遺構よりも本遺構の方が古いと考えられる。規模は、上端幅a:0.60~0.79m、b:0.37~1.47m、下端幅a:0.20~0.31m、b:0.22~0.55m。底面の標高はa:北153.335~南152.162mで、その比高差は約0.17m。b:北152.960~南152.874mで、その比高差は約0.08m。断面形はa:逆台形基調で、深さは0.12~0.17mを測る。b:不整形で、深さは0.03~0.21mを測る。底面の標高はaは北152.960~南152.517mで、その比高差は約0.44m。bは北152.960~南152.874mで、その比高差は約0.08m。断面形はV字形~逆台形基調(有段)で、深さはaが0.20~0.53m、bは0.03~0.21m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器・台付甕である。



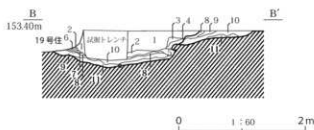
第26表 3号溝道物観察表

No.	器種	法量 (cm)	現存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土師器 台付甕	口径：(16.4) 底径：— 器高：(3.2)	口縁部～ 胴部上位片	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	黒色粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部ココナデ、胴部ハケメ。 内面：口縁部ココナデ、胴部ヘラナデ。	



3号溝 土層説明 (A-A'・B-B')

1. に深い黄褐色土 Hr-FA火山泥流堆積物。Hr-FA主体、内閉石炭山岩・砂礫を含む。しまりややあり。粘性やや強い。
2. に深い黄褐色土 Hr-FA火山泥流堆積物。Hr-FA主体、内閉石炭山岩・砂礫は1層より少ない。しまりややあり。粘性やや強い。
- 3～11. 灰黄～黄灰色土。Hr-FA一次堆積。
3. Hr-r-FA 凝結。
4. Hr-r-FA 凝結層とシルト質層が互層堆積。
5. Hr-r-FA 凝結。白色軽石粒を含む。
6. Hr-r-FA 凝結。黒褐色土含む。
7. Hr-r-FA 凝結。
8. Hr-r-FA 7・9層の混土。
9. Hr-r-FA 凝結。白色軽石粒を含む。
10. Hr-r-FA 凝結。
11. Hr-r-FA 凝結。



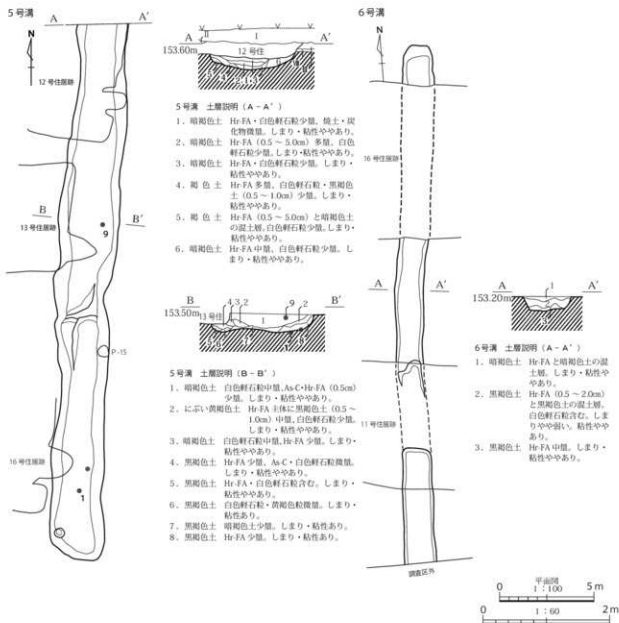
第69図 3号溝道構

5号溝 (第70・71図/第27表/図版10・18)

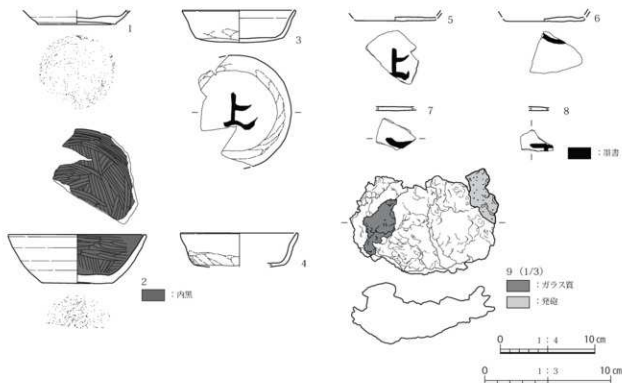
X=47298~47312、Y=-72560~-72562に位置する。12・13・16号住居跡、P-15と重複し、先後関係は5号溝→12・13・16号住居跡、P-15と考えられる。北側は調査区外に延び、南側は立ち上がる。北→南の方向へ概ね直線的に走行する。N-4°-E。規模は、上端幅1.14~1.62m、下端幅0.65~1.07m。底面の標高は北153.147~南152.951mで、その比高差は約0.20m。断面形は弧状で、深さは0.20~0.30m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(杯・台付甕)、須恵器(杯・甕・壺)、埴型殿治滓である。

6号溝 (第70図/図版10)

X=47291~47305、Y=-72564・-72565に位置する。11・16号住居跡と重複し、先後関係は6号溝→11・16号住居跡と考えられる。北→南の方向へ概ね直線的に走行する。北側は立ち上がり、南側は調査区外へ延びる。N-4°-E。規模は、上端幅0.67~0.81m、下端幅0.50~0.65m。底面の標高は北153.067~南152.688mで、その比高差は約0.38m。断面形は逆台形基調で、深さは0.13~0.21m。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(甕)である。



第70図 5・6号溝遺構図



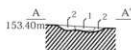
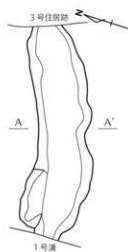
第71図 5号溝遺物実測図

第27表 5号溝遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考	
1	須恵器 環	口径：— 底径：8.4 器高：(4.8)	体部1/6 1/6～底部	外面：灰 内面：黄灰	砂粒・チャ ート	還元焼	外面：体部回転ナデ。底部回転未切り。 内面：体部～底部回転ナデ。		
2	須恵器 環	口径：(14.6) 底径：7.4 器高：5.2	1/3	外面：にぶい期 内面：黒	黒褐色粒・ 褐色粒・チ ヤート	還元焼	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面：口縁部ナデ～底部回転ナデ+ミガキ。	内面黒色地埋。	
3	土師器 環	口径：(12.1) 底径：(9.2) 器高：3.4	3/4	外面：明赤期 内面：明赤期	黒褐色粒・白 色粒	還元焼	外面：口縁部ヨコナデ～体部ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ナデ。	底部外面黒書あり。	
4	土師器 環	口径：(12.4) 底径：(9.4) 器高：(3.5)	1/3	外面：明赤期 内面：暗赤期	白色粒・黒 色粒	還元焼	外面：口縁部ヨコナデ～体部指頭成形後ナデ。底部ヘラケ ズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。		
5	土師器 環	口径：— 底径：(8.4) 器高：(0.4)	底部1/5	外面：明赤期 内面：明赤期	黒色粒・砂 粒	還元焼	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面黒書あり。 「上」あり。	
6	土師器 環	口径：— 底径：— 器高：(0.4)	底部1/6	外面：明赤期 内面：にぶい期	黒色粒・砂 粒	還元焼	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面黒書あり。	
7	土師器 環	口径：— 底径：— 器高：(0.4)	底部1/5	外面：明赤期 内面：明赤期	黒色粒・砂 粒	還元焼	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面黒書あり。	
8	土師器 環	口径：— 底径：— 器高：(0.4)	底部1/5	外面：明赤期 内面：明赤期	黒色粒・砂 粒	還元焼	外面：底部ヘラケズリ。 内面：底部ナデ。	底部外面黒書あり。	
No.	器種	法量 (cm・g)							備考
9	検形銀治埋	長さ：11.7 幅：8.4 厚さ：4.9 重さ：402.20.							

7号溝 (第72図/第28表/図版9・18)

X=47301~47303, Y=-72585~-72588に位置する。3号住居跡、1号溝と重複し、先後関係は3号住居跡→7号溝→1号溝と考えられる。西→東方向へやや弧状に走行する。両端部は他遺構との重複地点より延長範囲は確認されなかった。N-70°-E。規模は、上端幅0.64~0.87m、下端幅0.47~0.61m。底面の標高は東153.184~南153.239mで、その比高差は0.06m。断面形は逆台形基調で、深さは0.08~0.12mを測る。出土遺物は、土師器・環である。



7号溝 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 Hs-FA (0.5~1.0m) 多量, 白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hs-FA・黒褐色土中量, 白色軽石粒少量。しまり・粘性ややあり。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm

第72図 7号溝遺構図・遺物実測図

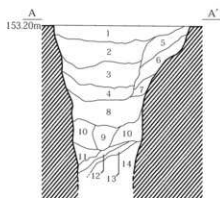
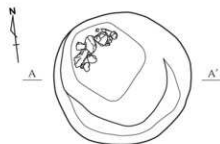
第28表 7号溝遺物観察表

No.	部 材	法量 (cm)	残 存	色 調	粉 土	焼 成	成形の特徴	備 考
1	土師器 杯	口径:(14.6) 底径:— 高さ:(3.3)	口縁部~体 部上平1/6	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	黒色粒・黒色脈物・白色粒	焼化胎	外面:口縁部ヨコナデ, 体部ヘラケズリ。 内面:口縁部~体部ヘラナデ。	

5. 井戸

1号井戸 (第73・74図/第29表/図版11・18・19)

位置: X=47296~47298, Y=72570~72572。17号住居跡, 10号土坑と重複し, 先後関係は17号住居跡, 10号土坑→1号井戸と考えられる。規模は, 東西2.19m, 南北2.14mの楕円形。断面形状は上半東側は段々に緩やかな傾斜を持ち, 下半は円筒状を呈する。深さは安全管理を考慮し, 2.32mの時点で掘り止めた。長軸方位はN-55°-W。11層以下の北半側には径数~30cm大の礫が検出された。遺物は埋土中から重複する



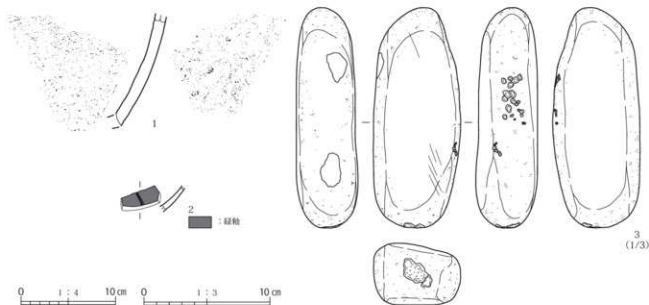
1号井戸 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 As-C・砂礫多量, 礫 (0.5~2.0cm) 中量, 焼土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hs-FA中量, 砂礫少量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 As-C中量, 砂礫少量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C・砂礫少量, しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C少量, 砂礫微量, しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 As-C微量, しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 As-C・砂礫微量, しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 As-C・砂礫微量, 7層より含有量は少ない。しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 As-C少量, しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 As-C・礫 (5.0~10.0cm) 少量, しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C・礫 (5.0~15.0cm) 中量, しまり・粘性ややあり。
12. 暗褐色土 白色粒・黄褐色粒・砂礫 (5.0cm) 少量, しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 砂・礫 (5.0~20.0cm) 中量, 白色粒・黄褐色粒少量, しまり・粘性ややあり。
14. 暗褐色土 白色粒・黄褐色粒・砂・礫 (5.0~20.0cm) 少量, しまり・粘性ややあり。

0 1:60 2m

第73図 1号井戸遺構図

住居跡からの流れ込みと考えられる土師器（環・甕）、須恵器（環・高台付壇・甕）、灰釉陶器（碗）、陶器（碗）、石製品（砥石）が出土した。



第74図 1号井戸遺物実測図

第29表 1号井戸遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考	
1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(11.9)	胴部片	外面：褐灰 内面：褐灰	白色粘・チ ヤート・石 灰	還元焼	外面：製部ホキメーナデ。 内面：製部当て具跡。		
2	陶器 碗	口径：— 底径：— 器高：(2.7)	体部片	胎土：灰白 釉：オリーブ 青	白色粘	還元	外面：体部回転ナデ。 内面：体部回転ナデ。		
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成形の特徴等					備考
3	石製品 砥石	長さ：17.40 幅：6.94 厚さ：4.89	ほぼ完形	重さ：971.98g。石材：流紋岩。棒状礫を素材とし、表裏面と左側面を砥面に使用し、顕著な磨耗面が認められる。上下端部と右側面中央には最打面が認められる。					

6. 土坑

1号土坑（第75図）

X=47301・47302、Y=-72590・-72591に位置する。規模は、東西1.00m、南北0.63mの不整形を呈する。断面形状は逆台形で、深さは0.08m。長軸方位はN-60°-E。底面はやや起伏がある。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

2号土坑（第75図/図版11）

X=47296・47297、Y=-72585～-72587に位置する。規模は、東西1.58m、南北0.65mの隅丸長方形を呈する。断面形状は箱型で、深さは0.14m。長軸方位はN-80°-E。底面は概ね平坦。埋土はAs-Bを含む暗褐色土である。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

3号土坑（第75図）

X=47295・47296、Y=-72580・-72581に位置する。規模は、東西0.79m、南北0.83mの不整な円形を呈する。断面形状は箱型で、深さは0.08m。長軸方位はN-20°-E。底面は概ね平坦。遺物は出土しなかった。

4号土坑（第75図）

X=47310、Y=-72572・-72573に位置する。3・4号溝、P-9と重複し、先後関係は3・4号溝→4号土坑→P-9と考えられる。規模は、東西0.88m、南北(0.77)mの不整な円形を呈する。断面形状は箱

型で、深さは0.12m。長軸方位はN-82°-E。底面は概ね平坦。遺物は縄文土器（深鉢）、灰軸陶器（碗）である。

5号土坑（第75図）

X=47297・47298、Y=-72582に位置する。3号住居跡と重複し、先後関係は3号住居跡→5号土坑と考えられる。規模は、東西0.53m、南北(0.80)mの隅丸長方形基調。断面形状は逆台形で、深さは0.10m。長軸方位はN-9°-W。底面は概ね平坦。埋土はA s-Bを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

6号土坑（第75図/図版11）

X=47311・47312、Y=-72579・-72580に位置する。北側は調査区外である。規模は、東西0.92m、南北(1.20)mの隅丸長方形基調。断面形状は不整形で、深さは0.17m。長軸方位はN-4°-W。底面はやや起伏をする。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。

7号土坑（第75図/図版12）

X=47296~47298、Y=-72578・-72579に位置する。規模は、東西1.40m、南北1.50mの楕円形。断面形状は皿状で、深さは0.17m。長軸方位はN-42°-E。底面は概ね平坦。埋土はA s-Bを含む暗褐色土で、安山岩系の礫が多量に投棄されたような状態で検出された。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）、須恵器（高台付埴・甕）である。埋土内から検出された礫の数に差はみられるが、8号土坑と類するものと考えられる。

8号土坑（第75図/図版12）

X=47307~47309、Y=-72569~-72571に位置する。9号住居跡と重複し、先後関係は9号住居跡→8号土坑と考えられる。規模は、東西1.58m、南北1.69mの不整な楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.30m。長軸方位はN-32°-E。底面は概ね平坦。埋土はA s-Bを含む暗褐色土で、安山岩系の礫が投棄されたような状態で検出された。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（埴・甕）、須恵器（埴・蓋・盤）である。埋土内から検出された礫の数に差はみられるが、7号土坑と類するものと考えられる。

9号土坑（第75図）

X=47306~47308、Y=-72580・-72581に位置する。規模は、東西0.58~0.75m、南北1.96mの不整形。断面形状は逆台形基調で、深さは0.12m。長軸方位はN-7°-W。底面はやや起伏をするが、概ね平坦。埋土はA s-Bを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

10号土坑（第76・79図/第30表/図版11・19）

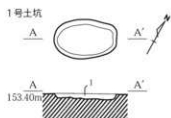
X=47296~47301、Y=-72568~-72573に位置する。5・8・17号住居跡、4号溝、1号井戸と重複し、先後関係は5・8・17号住居跡、4号溝→10号土坑→1号井戸と考えられる。規模は、東西5.42m、南北4.85mの不整形。断面形状は不整形で、深さは0.90m。長軸方位はN-84°-W。底面は起伏をする。人為的な埋没と考えられる。北東側からビット状の掘り込みが1基確認された。規模は0.67×0.57mの不整な楕円形。深さは上端部から0.46m、確認面からは0.91mである。遺物は埋土中から重複する住居跡からの流れ込みと考えられる須恵器・埴、高台付皿、椀形鍛冶滓の他、中期後半の縄文土器（深鉢）、石器が出土した。

11号土坑（第75図）

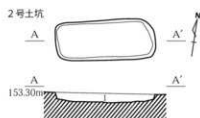
X=47304・47305、Y=-72571・-72572に位置する。9号住居跡、4号溝、P-24と重複し、先後関係は4号溝→9号住居跡、11号土坑→P-24と考えられる。規模は、東西0.87m、南北0.75mの不整な隅丸長方形。断面形状は逆台形基調で、深さは0.24m。長軸方位はN-90°。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（甕）である。本遺構は9号住居跡に付帯する施設である可能性が考えられる。

12号土坑（第75図）

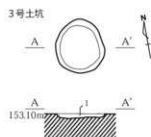
X=47299・47300、Y=-72575・-72576に位置する。19号住居跡、3号溝と重複し、先後関係は3号溝→19号住居跡→12号土坑と考えられる。規模は、東西0.77m、南北0.72mの不整形。断面形状は逆台形で、深さは0.30~0.35m。長軸方位はN-55°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器（深鉢）、土師器



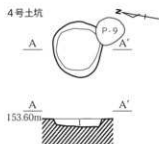
1号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C・砂礫中層, Hr-FA(0.5 cm)少量, しまり・粘性ややあり。



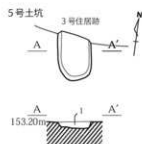
2号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-B・砂礫中層, As-C 微層, しまりややあり, 粘性やや弱い。



3号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C中層, 黒褐色土少量, 黄土微層, しまりあり, 粘性ややあり。



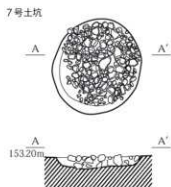
4号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C 多量, 黄土微層, しまり・粘性ややあり。



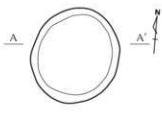
5号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-B・砂礫中層, As-C 微層, しまりややあり, 粘性やや弱い。



6号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C 多量, 黄褐色粒少量, しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 As-C 少量, 炭化物微層, しまり・粘性ややあり。



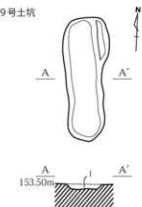
7号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-B・砂礫多量, しまりややあり, 粘性やや弱い。



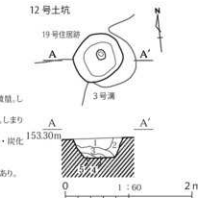
8号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-B 含む, Hr-FA(0.5 cm)中層, As-C・黒褐色土少量, しまりややあり, 粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 Hr-FA(0.5 cm)多量, 黒褐色土(0.5 cm)中層, As-C・礫(0.5~5.0 cm)少量, しまり・粘性ややあり。



11号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~5.0 cm)多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 Hr-FA(0.5~2.0 cm)少量, As-C 微層, しまり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微層, しまり・粘性ややあり。

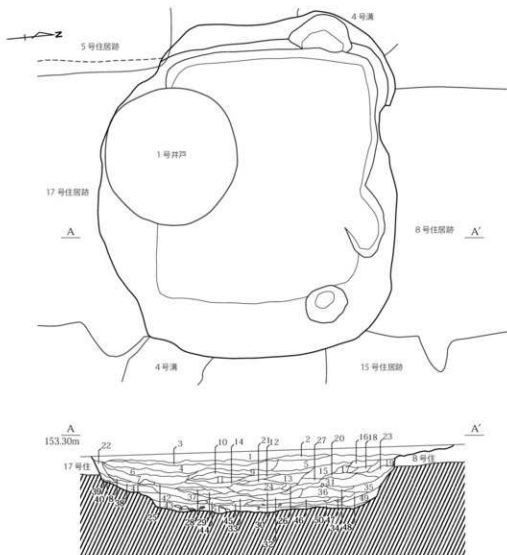


9号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-B 含む, As-C・黒褐色土(0.5~3.0 cm)少量, 黄土微層, しまり・粘性ややあり。



12号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA中層, 黄土少量, 炭化物微層, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量, 黄土・炭化物微層, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 黄土(0.5~1.0 cm)中層, As-C・Hr-FA・炭化物少量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 As-C 少量, 黄土微層, しまり・粘性ややあり。

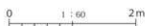
第75図 1~9・11・12号土坑遺構図



10号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, 埴土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 Hr-FA 中量, As-C 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 Hr-FA 少量, 炭化物・礫(0.5~2.0cm)微量, しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, 埴土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
9. 暗褐色土 As-C 中量, Hr-FA 少量, 炭化物・礫(0.5~2.0cm)微量, しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
11. 暗褐色土 As-C 中量, Hr-FA 少量, しまり・粘性ややあり。
12. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
13. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, 黒褐色土(0.5~3.0cm)微量, しまり・粘性ややあり。
14. 暗褐色土 Hr-FA 多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
15. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~1.0cm)・礫(0.5~3.0cm)中量, しまり・粘性ややあり。
16. 暗褐色土 As-C 少量, Hr-FA・埴土・炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
17. 暗褐色土 Hr-FA 多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
18. 暗褐色土 Hr-FA 中量, As-C 少量, 黒褐色土微量, しまり・粘性ややあり。
19. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, 炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
20. 暗褐色土 As-C 多量, 黒褐色土中量, Hr-FA 少量, しまり・粘性ややあり。
21. 暗褐色土 Hr-FA 中量, As-C 少量, 炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
22. 暗褐色土 As-C 多量, Hr-FA 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
23. 暗褐色土 黒褐色土中量, As-C・Hr-FA 少量, しまり・粘性ややあり。
24. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~3.0cm)多量, As-C・埴土微量, しまり・粘性ややあり。

25. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~5.0cm)多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
26. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~2.0cm)多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
27. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
28. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
29. 暗褐色土 Hr-FA・As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
30. 暗褐色土 Hr-FA 多量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
31. 暗褐色土 Hr-FA 多量, As-C 少量, 礫(0.5~3.0cm)微量, しまり・粘性ややあり。
32. 暗褐色土 Hr-FA 中量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
33. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
34. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
35. 暗褐色土 Hr-FA が厚状に増殖, As-C 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
36. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~3.0cm)中量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
37. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~3.0cm)中量, As-C 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
38. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
39. 暗褐色土 As-C 中量, Hr-FA 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
40. 黒褐色土 As-C 少量, 埴土微量, しまり・粘性ややあり。
41. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量, 炭化物微量, しまり・粘性ややあり。
42. 黒褐色土 As-C・黒褐色土微量, しまり・粘性ややあり。
43. 黒褐色土 As-C 少量, Hr-FA 微量, しまり・粘性ややあり。
44. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 微量, しまり・粘性あり。
45. 暗褐色土 As-C・Hr-FA 少量, 埴土・炭化物微量, しまり・粘性あり。
46. 暗褐色土 As-C・Hr-FA(0.5~2.0cm)少量, 埴土微量, しまり・粘性あり。
47. 黒褐色土 Hr-FA(0.5~2.0cm)中量, As-C 少量, しまり・粘性ややあり。
48. 灰青色土 暗褐色土少量, As-C 微量, しまり・粘性ややあり。
49. 暗褐色土 Hr-FA 少量, As-C・礫(0.5~2.0cm)微量, しまり・粘性ややあり。
50. 暗褐色土 As-C 微量, しまり・粘性あり。
51. 暗褐色土 As-C 少量, Hr-FA 微量, しまり・粘性あり。



第76図 10号土坑遺構図

(甕)、須恵器(甕・羽釜)である。

13号土坑 (第78図/図版12)

X=47293・47294、Y=-72556・-72557に位置する。規模は、東西0.96m、南北1.02mの楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.43m。長軸方位はN-13°-E。底面は概ね平坦。埋土は上層中央(1層)にHr-FAブロックの混入が顕著である。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(杯・甕)、須恵器(高台付碗)である。

14号土坑 (第77図/図版12)

X=47306~47308、Y=-72556~-72557に位置する。18号住居跡、2号竪穴状遺構と重複し、先後関係は2号竪穴状遺構→18号住居跡→14号土坑と考えられる。東側は調査区外である。規模は、東西<0.72>m、南北2.46mの方形基調。断面形状は逆台形基調で、深さは0.60(遺構確認面から0.17)m。長軸方位はN-6°-W。底面は多少の起伏はあるものの、概ね平坦。遺物は出土しなかった。

15号土坑 (第78図)

X=47293・47294、Y=-72574に位置する。規模は、東西0.76m、南北0.83mの不整形な楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.14m。長軸方位はN-37°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は土師器(甕)、須恵器(杯・甕・羽釜)である。

16号土坑 (第78・80図/第31表/図版19)

X=47305・47306、Y=-72566・-72567に位置する。規模は、東西0.86m、南北0.85mの円形。断面形状は逆台形で、深さは0.24m。底面は概ね平坦。出土遺物は須恵器(杯・横瓶)である。

17号土坑 (第78図)

X=47306・47307、Y=-72567・-72568に位置する。規模は、東西0.82m、南北0.66mの不整形。断面形状は不整形で、深さは0.09m。長軸方位はN-60°-W。底面は起伏がある。遺物は出土しなかった。

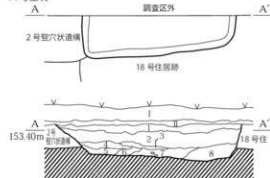
18号土坑 (第78図/図版12)

X=47311・47312、Y=-72577・-72578に位置する。P-40と重複し、先後関係は18号土坑→P-40と考えられる。規模は、東西0.85m、南北1.27mの不整形な長楕円形。断面形状は逆台形で、深さは0.24m。長軸方位はN-2°-E。底面は概ね平坦。出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師器(杯)、須恵器(杯)である。

19号土坑 (第78図)

X=47309~47311、Y=-72580・-72581に位置する。4・20号住居跡と重複し、先後関係は4・20号住居跡→19号土坑と考えられる。規模は、東西<0.90>m、南北<1.28>mの方形基調。断面形状は逆台形で、深さは0.25m。長軸方位はN-90°。底面は多少の起伏がみられる。遺物は出土しなかった。

14号土坑

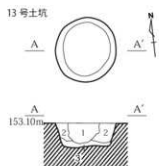


14号土坑 土層説明(A-A')

1. 暗褐色土 Hr-FA少量、しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~1.0cm)少量、As-C・焼土・炭化物微量、しまりあり、粘性ややあり。
3. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粘中層、しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粘少量、礫(0.5~2.0cm)微量、しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 黄褐色粘少量、しまり・粘性ややあり。
6. 暗褐色土 Hr-FA(0.5~1.0cm)多量、As-C少量、炭化物・黒褐色土微量、しまり・粘性ややあり。
7. 暗褐色土 白色軽石粘中層、礫(0.5~5.0cm)少量、黄褐色粘微量、しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 白色軽石粒・黄褐色粘少量、礫(0.5~5.0cm)微量、しまり・粘性ややあり。

0 1:60 2m

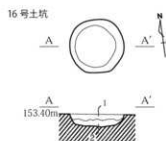
第77図 14号土坑遺構図



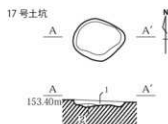
- 13号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)・黒褐色土(0.5cm)多量,As-C少量,しまりややあり,粘性やや弱い。
 2. 暗褐色土 Hr-FA・黒褐色土少量,しまりややあり,粘性やや弱い。
 3. 暗褐色土 Hr-FA中量,As-C少量,しまり・粘性ややあり。



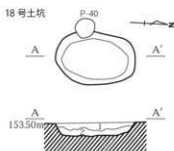
- 15号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)・黒褐色土(0.5cm)中量,As-C少量,粘土・炭化物微量,しまり・粘性ややあり。



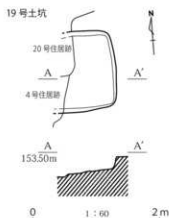
- 16号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 Hr-FA(0.5cm)中量,As-C少量,粘土・炭化物微量,しまりややあり,粘性やや弱い。
 2. 暗褐色土 As-C・Hr-FA・炭化物少量,しまり・粘性ややあり。



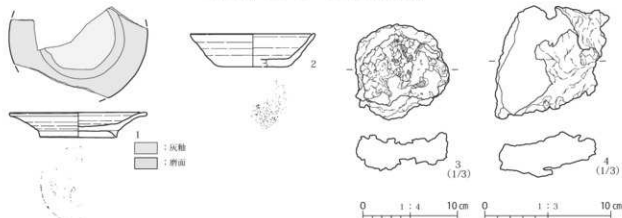
- 17号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 黒褐色土(0.5～2.0cm)中量,Hr-FA(0.5cm)少量,粘土・炭化物微量,しまり・粘性ややあり。
 2. 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。



- 18号土坑 土層説明(A-A')
1. 暗褐色土 As-C・Hr-FA中量,しまり・粘性ややあり。
 2. 黒褐色土 As-C・Hr-FA微量,しまり・粘性ややあり。



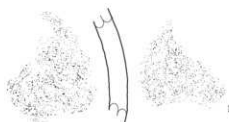
第78図 13・15～19号土坑遺構図



第79図 10号土坑遺物実測図

第30表 10号土坑遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	構成	成形の特徴	備考
1	須恵器 高付付録	口径: 14.5 底径: (8.2) 器高: 2.6	1/3	外面: 灰 内面: 灰	白色粘	濫元胎	外面: 口縁部～高付部回転子。底部回転系切り→高付部付。 内面: 口縁部～底部回転子。	
2	須恵器 杯	口径: (13.2) 底径: (7.4) 器高: 3.5	1/3	外面: 黄灰 内面: 灰	黒色粘・子 ヤート・石 灰	濫元胎	外面: 口縁部～底部回転子。底部回転系切り。 内面: 口縁部～底部回転子。	
法量 (cm・g)								
3	杵形鏡状片	長さ: 7.6 幅: 7.5 厚さ: 3.0 重さ: 198.90.						
4	杵形鏡状片	長さ: 9.0 幅: 9.0 厚さ: 3.6 重さ: 283.54.						



第80図 16号土坑遺物実測図

第31表 16号土坑遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須臾器 柄筒	口径：— 底径：— 器高：(12.0)	胴部片	外面：灰 内面：灰	紫色胎土・ 白色粒・石 炭	還元焼	外面：胴部カキメ。 内面：胴部ナシ。	内面はよく割れ ている。二次利 用た。

7. ピット (第81図/第32～34表/図版19)

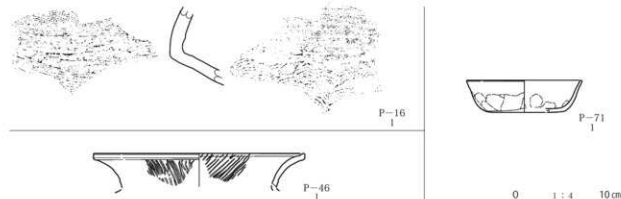
ピットは106基が確認された。分布に偏在性はみられない。調査区北東から掘立柱建物跡1棟を想定した。この他、定型的な規格・配置を擁するものは見受けられなかった。P-15・17・62・93はA s-Bの二次堆積層が埋没するため、中世以降の産物と考えられる。各遺構の計測値についてはピット計測表に提示した。

第32表 ピット計測表(1)

遺構名	位置	規模 (m)			平面形状	断面形状	重積/遺物/備考	遺構名	位置	規模 (m)			平面形状	断面形状	重積/遺物/備考
		長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ				
P-1	X=47282 Y=72589・90	0.70	0.57	0.50	楕円形	U字状	柱痕有り	P-30	X=47302 Y=72556・57	0.36	0.33	0.35	不整形	不整形	
P-2	X=47281 Y=72589・90	0.65	0.51	0.49	不整形	V字状	柱痕有り	P-31	X=47311 Y=72578	0.36	0.26	0.21	不整形	逆台形状	
P-3	X=47279・80 Y=72588・89	0.85	0.70	0.47	楕円形	V字状	柱痕有り	P-32	X=47294 Y=72577・78	0.28	0.27	0.17	円形	U字状	3号溝→P-32
P-4	X=47295 Y=72568	0.21	0.21	0.06	円形	平円形状		P-33	X=47304 Y=72576	0.34	0.29	0.33	不整形円形	U字状	
P-5	X=47294 Y=72568・69	0.24	0.21	0.12	不整形円形	平円形状		P-34	X=47305・06 Y=72578	0.40	0.37	0.15	楕円形	V字状	
P-6	X=47294 Y=72569	0.28	0.22	0.20	楕円形	平円形状		P-35	X=47308・09 Y=72577	0.36	0.30	0.28	円形	U字状	
P-7	X=47293 Y=72571	0.32	0.29	0.29	不整形	逆台形状		P-36	X=47306 Y=72579	0.28	0.26	0.15	円形	U字状	
P-8	X=47309 Y=72573・74	0.47	0.27	0.24	不整形 (長楕円形)	平円形状		P-37	X=47300 Y=72578・79	0.34	0.33	0.18	円形	U字状	
P-9	X=47309・10 Y=72572	0.46	0.41	0.34	不整形	平円形状	4土→P-9	P-38	X=47309 Y=72576・77	0.47	0.45	0.17	不整形円形	平円形状	
P-10	X=47308 Y=72573・74	0.55	0.31	0.23	不整形 (長楕円形)	V字状 (角状)	3溝→P-10	P-39	X=47310・11 Y=72577・78	0.43	0.38	0.25	円形	V字状	
P-11	X=47297 Y=72577	0.25	0.20	0.38	楕円形	U字状	3溝→5住→P-11	P-40	X=47311 Y=72578	0.32	0.30	0.08	円形	平円形状	18土→P-40
P-12	X=47303 Y=72591	0.35	0.35	0.20	不整形円形	平円形状		P-41	X=47311・12 Y=72576	0.63	0.43	0.39	長楕円形	U字状	割片(黒曜石)
P-13	X=47303 Y=72574	0.38	0.37	0.21	不整形	V字状	P-14→P-13	P-42	X=47311 Y=72576	0.28	0.19	0.17	丸長方形	壺型状	
P-14	X=47303 Y=72574	0.25	0.17	0.45	不整形	U字状	P-14→P-13	P-43	X=47310 Y=72585	0.47	0.30	0.12	不整形	瓢状	
P-15	X=47304 Y=72561	0.30	0.28	0.16	不整形	U字状	5溝→P-15 As-B含む	P-44	X=47310 Y=72584・85	0.64	0.39	0.13	不整形	瓢状	
P-16	X=47295 Y=72559・60	0.38	0.38	0.46	不整形円形	U字状	須臾器(甕)	P-45	X=47305 Y=72584	0.37	0.25	0.15	不整形	逆台形状	
P-17	X=47294・95 Y=72559	0.64	0.42	0.17	不整形	平円形状 (角状)	As-B含む	P-46	X=47306・07 Y=72585	0.32	0.30	0.21	不整形円形	U字状	土跡類(溝)
P-18	X=47294 Y=72559	0.23	0.22	0.39	円形	U字状		P-47	X=47304 Y=72585	0.33	0.22	0.18	不整形	U字状	
P-19	X=47312 Y=72571・72	0.56	0.29	0.19	長楕円形	逆台形状		P-48	X=47308 Y=72586	0.30	0.23	0.10	不整形	瓢状	割片(黒曜石)
P-20	X=47310・11 Y=72571	0.45	0.30	0.22	長楕円形 (V字状)	不整形 (V字状)		P-49	X=47312 Y=72576・77	0.48	0.33	0.15	長楕円形	V字状	
P-21	X=47309 Y=72570	0.27	0.26	0.14	不整形円形	U字状		P-50	X=47305・06 Y=72582・83	0.29	0.27	0.12	不整形円形	不整形	
P-22	X=47309 Y=72568	0.25	0.23	0.15	不整形円形	U字状		P-51	X=47306 Y=72581	0.58	0.54	0.12	不整形楕円形	不整形	
P-23	X=47306・07 Y=72569	0.26	0.25	0.21	不整形円形	U字状	P-23→9住	P-52	X=47309 Y=72580	0.49	0.31	0.13	長楕円形	瓢状	
P-24	X=47305 Y=72571・72	0.26	0.26	0.45	不整形円形	逆台形状	9住・11土→ P-24	P-53	X=47306 Y=72583	0.65	0.50	0.26	不整形	逆台形状	
P-25	X=47305 Y=72558	0.45	0.38	0.38	不整形	U字状		P-54	X=47306・07 Y=72583	0.53	0.40	0.08	不整形	逆台形	P-98→P-99→ P-54
P-26	X=47302 Y=72557	0.33	0.32	0.26	円形	U字状		P-55	X=47307 Y=72583・84	0.36	0.29	0.27	長楕円形	U字状	
P-27	X=47302 Y=72558	0.28	0.26	0.39	不整形円形	U字状		P-56	X=47306 Y=72586	0.27	0.26	0.22	不整形	U字状	P-98→P-96 割片(黒曜石)
P-28	X=47301・02 Y=72558	0.31	0.26	0.39	不整形	U字状		P-57	X=47308 Y=72584	0.36	0.24	0.16	長楕円形	逆台形状	P-57→4住
P-29	X=47303 Y=72556	0.25	0.22	0.17	楕円形	U字状		P-58	X=47306 Y=72586	0.27	0.26	0.11	楕円形基調	逆台形状	P-58→P-56

第33表 ビット計測表(2)

遺構名	位置	規模(m)			平面形状	断面形状	重積/遺物/備考	遺構名	位置	規模(m)			平面形状	断面形状	重積/遺物/備考
		長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ			
P-59	X=47308 Y=72584・85	0.36	0.26	0.20	不整形	U字状	P-83	X=47312 Y=72590	0.45	0.33	0.26	不整形	瓦状瓦子状(有段)		
P-60	X=47112 Y=72577	0.34	0.30	0.17	不整形	U字状	P-84	X=47291 Y=72587	0.41	0.30	0.18	不整形	平円形		
P-61	X=47311 Y=72584・85	0.40	0.31	0.30	長楕円形	U字状	P-85	X=47305 Y=72580	0.40	0.26	0.21	長楕円形	U字状		
P-62	X=47294 Y=72580・81	0.25	0.24	0.18	不整形	U字状	P-86	X=47303・04 Y=72559	0.42	0.23	0.20	長楕円形 基調	U字状	東端は豆皿とレン 子で構築	
P-63	X=47294 Y=72579・80	0.29	0.27	0.24	不整形	U字状	P-87	X=47297 Y=72561	0.27	0.23	0.19	不整形	U字状		
P-64	X=47294 Y=72579	0.24	0.22	0.21	不整形	U字状	P-88	X=47297 Y=72561	0.27	0.24	0.20	方形	遊台形状		
P-65	X=47295 Y=72578	0.21	0.20	0.06	不整形	遊台形状	P-89	X=47293 Y=72571	0.35	0.29	0.12	不整形	遊台形状		
P-66	X=47298 Y=72563	0.45	0.35	0.22	圓丸長方形	V字状	P-90	X=47293 Y=72573・74	0.23	0.24	0.21	不整形	U字状		
P-67	X=47310 Y=72563	0.28	0.27	0.18	円形	平円形状	P-91	X=47292 Y=72574	0.26	0.21	0.17	楕円形	U字状		
P-68	X=47310 Y=72563	0.41	0.40	0.53	円形	U字状	P-92	X=47293 Y=72573	0.28	0.27	0.30	不整形	V字状		
P-69	X=47312 Y=72563	0.44	0.41	0.27	楕円形	U字状	P-93	X=47292 Y=72574	0.32	0.26	0.15	不整形	楕円形	瓦状	
P-70	X=47310 Y=72564・55	0.41	0.33	0.17	楕円形	平円形状	P-70→14住 1層	P-94	X=47292 Y=72574	0.33	0.24	0.27	不整形	楕円形	U字状
P-71	X=47311・12 Y=72564・65	0.33	0.32	0.24	不整形	U字状	1層 土階層(中)	P-95	X=47299 Y=72574	0.39	0.32	0.34	不整形	U字状	
P-72	X=47312 Y=72566	0.30	0.30	0.34	円形	U字状	1層	P-96	X=47285 Y=72586・87	0.32	0.29	0.17	楕円形	U字状	
P-73	X=47310・11 Y=72566	0.40	0.38	0.37	円形	U字状	P-73→14住 1層	P-97	X=47280 Y=72587	0.25	0.24	0.21	円形	U字状	
P-74	X=47297 Y=72583	0.32	0.29	0.12	不整形	V字状		P-98	X=47306・07 Y=72583	0.37	0.28	0.18	方形基調	瓦状	P-98→P-99→ P-54
P-75	X=47304 Y=72587・88	0.43	0.37	0.08	楕円形	遊台形状		P-99	X=47307 Y=72583	0.30	0.29	0.14	方形	遊台形状	P-98→P-99→ P-54
P-76	X=47296・97 Y=72587・88	0.90	0.49	0.15	円形基調	U字状	P-76→1溝	P-100	X=47311 Y=72579	0.60	0.43	0.27	不整形	V字状	
P-77	X=47295 Y=72583	0.24	0.24	0.10	不整形	U字状		P-101	X=47309・10 Y=72578・79	0.24	0.18	0.10	長楕円形	U字状	
P-78	X=47295 Y=72585・86	0.32	0.30	0.14	不整形	遊台形状		P-102	X=72563・64 Y=72576・77	0.60	0.45	0.18	長楕円形	遊台形状	11住→P-102
P-79	X=47295 Y=72585	0.28	0.25	0.26	楕円形	U字状		P-103	X=47299 Y=72576・77	0.27	0.26	0.29	楕円形	U字状	
P-80	X=47292 Y=72583	0.35	0.30	0.32	不整形	V字状		P-104	X=47312 Y=72566	0.43	0.37	0.19	不整形	遊台形状	P-104→10住 1層
P-81	X=47306 Y=72586・87	0.24	0.22	0.29	不整形	V字状		P-105	X=47295 Y=72571	0.36	0.35	0.44	円形	平円形状	P-105→17住 1層
P-82	X=47309・10 Y=72558・59	0.49	0.34	0.31	不整形	瓦状		P-106	X=47310・11 Y=72568・69	0.50	0.47	0.27	不整形	U字状	P-106→10住 1層



第81図 ビット遺物実測図

第34表 ビット遺物観察表

No.	遺 種	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	焼 成	成形の特徴	備 考
P16 1	須恵器 甕	口径:— 底径:— 胴高:(8.2)	口縁部～ 胴部上段片	外面:灰 内面:黄灰	黒色粒・白 色粒	還元焼	外面:割部印き(平行印き目)。 内面:割部当て具痕(青黄波文)。	
P46 1	土師器 甕	口径:(22.4) 底径:— 胴高:(3.5)	口縁部片	外面:にぶい赤 褐色 内面:明赤帯	黒色粒・砂 粒・チャート	還元焼	外面:口縁部ヨコナデ～ミガキ。 内面:口縁部ヨコナデ～ミガキ。	
P71 1	土師器 杯	口径:(12.2) 底径:(8.0) 胴高:(3.4)	1/4	外面:黒帯 内面:にぶい褐色	黒色粒・白 色粒・砂粒	還元焼	外面:口縁部ヨコナデ～体部ナデ。底部ヘラケズリ。 内面:口縁部～体部整形ヨコナデ。底部ナデ。	

8. 遺構外出土遺物 (第82～87図/第35～39表/図版19～22)

ここでは、調査区内あるいは遺構埋没土中からの出土ではあるものの明らかに遺構に帰属しない遺物に関して

遺構外出土遺物として取り扱った。

今回の調査では、多数の縄文土器や石器が出土した。縄文土器は破片点数で 6,195 点、総重量 128.1kg に及ぶ。縄文時代に帰属する明確な遺構は検出されていないものの、少なくとも遺物包含層の存在を認めるに足りる内容といえる。遺物包含層はトレンチ調査のみで対応することとなったが、その他にも後世の遺構覆土から多量に検出された。

縄文土器には早期前葉（1%以下）・前期前半（1%以下）・前期後半（1%以下）・中期前半（1%）・中期後半（66%）・後期前半（6%）・晩期前半（1%以下）・細別不明（26%）のものが見受けられ、中期後葉が突出する。中期後葉では加曾利 E Ⅲ 式の割合が高く、連弧文土器や曾利式・郷土式土器など関東地方西部や中部高地東部に分布の中心をもつ土器群が一定数含まれている。

なお、帰属する時期の幅は広く、古いものとしては各 1 点ずつではあるが早期前葉の燃糸文系土器と前期前半の羽状縄文系土器、新しい方では後期中葉の加曾利 B 式と晩期に属するとみられる土器破片が各 2 点確認されて

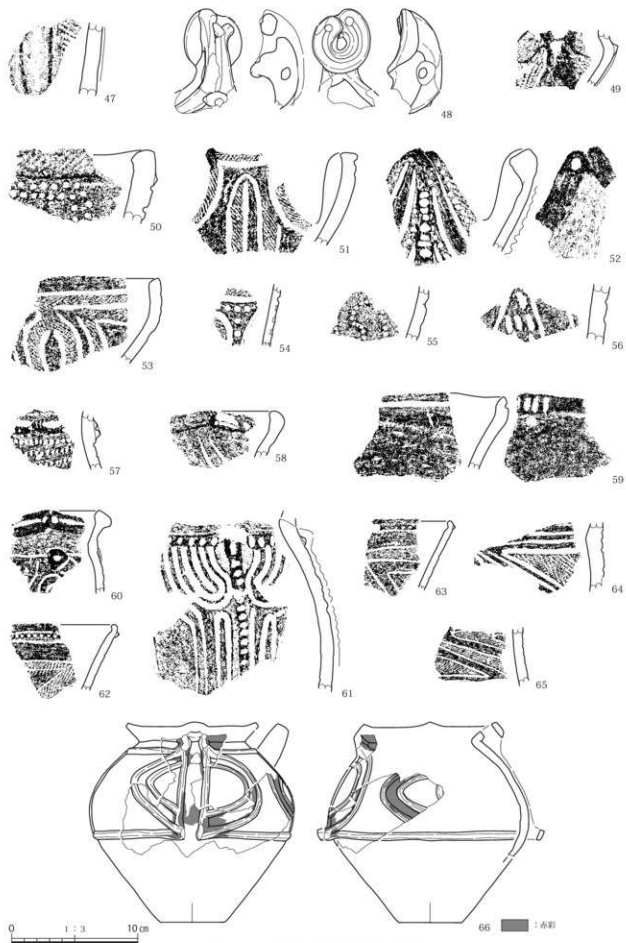


第 82 図 遺構外出土遺物実測図（1）

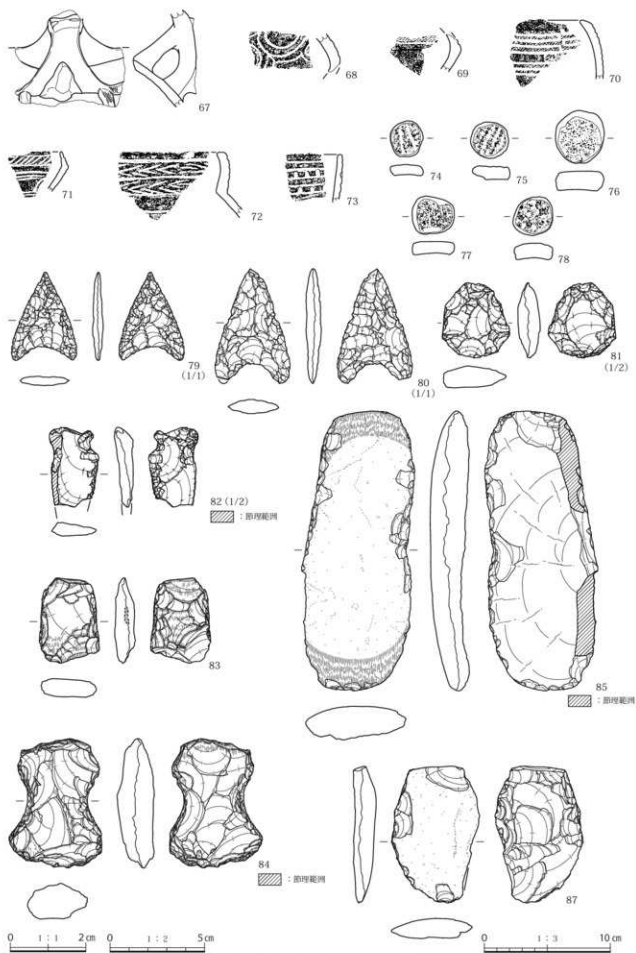
いる。この他、古墳時代前期の台付甕が出土しており、周辺の既知調査地では遺構・遺物が確認されているものの、今回の調査では遺構の確認には至っていない。



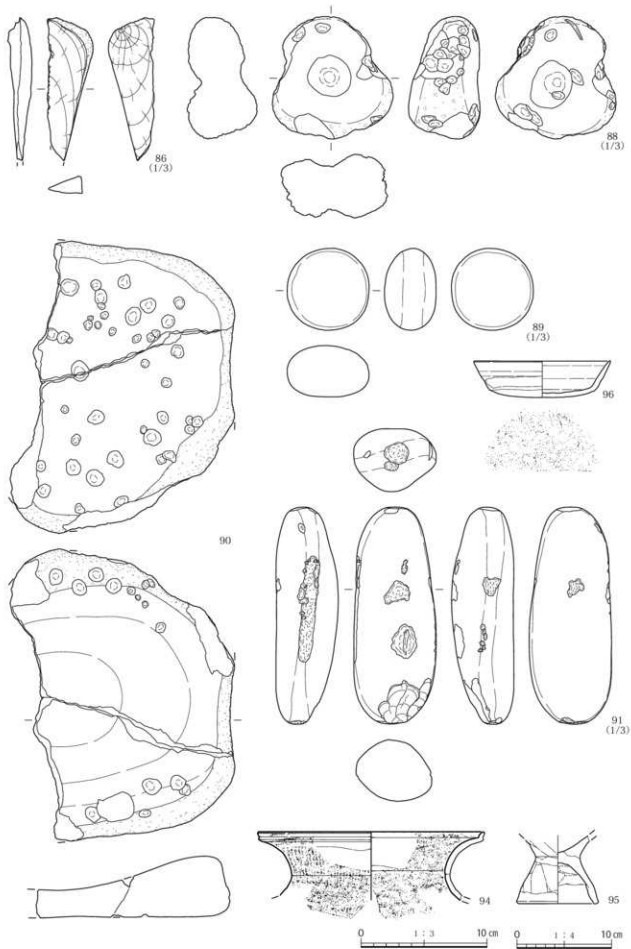
第 83 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



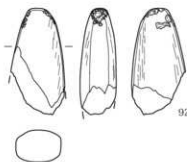
第84图 遺構外出土遺物実測図(3)



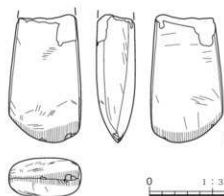
第 85 图 遺構外出土遺物実測図 (4)



第86图 遺構外出土遺物実測図(5)



92



93

0 1:3 10cm

第 87 図 遺構外出土遺物実測図 (6)

第 35 表 遺構外出土遺物観察表 (1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・粗	石英・長石 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部に器系紋 (L)。 内面:胴部に横位ミガキ。	9号住居跡。 早期前半。 楕圓筒式。
2	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・粗	繊維・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焼	外面:口縁部に平載竹管状工具による爪形紋。 内面:口縁部に横位ミガキ。	1号溝。 前期中葉。
3	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・粗	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焼	外面:口縁部に爪形紋。 内面:口縁部に横位ミガキ。	4号住居跡。 前期後半。 楕圓筒式。
4	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:灰褐色 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部に平載竹管状工具による集合洗線紋。 内面:胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 前期後半。 楕圓筒式。
5	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・赤 褐色	石英・長石・ 黒色粒	酸化焼	外面:隆帯で縦位区画一隆帯端の一部に丸棒状工具による洗線紋。区内面に縦洗線紋。 内面:胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期前半。
6	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 雲母	酸化焼	外面:口縁部を隆帯で区画一口押下・隆帯端に竹管状工具による押引紋一区内面に同様の押引紋列を縦位充填。 内面:口縁部に横位ミガキ。	調査区一括。 中期前半。 阿玉台 1 b 式。
7	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 雲母・白色 粒	酸化焼	外面:胴部に多載竹管状工具による横位の刺突紋列。 内面:胴部に横位ミガキ。	17号住居跡。 中期前半。 阿玉台式。
8	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・粗 内面:灰褐色	石英・長石・ 雲母・白色 粒	酸化焼	外面:胴部に多載竹管状工具による縦位洗線紋。 内面:胴部に横位ヘラナギ。	調査区一括。 中期前半。 阿玉台式。
9	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・粗	片岩・長石・ 白色粒・赤 褐色色粒	酸化焼	外面:隆帯紋で区画一区内面にへう状工具による角押紋一三角押紋。隆帯上に半ギミ。 内面:胴部上位に横位。胴部下位に斜位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
10	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・粗	片岩・石英 長石・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で区画一区内面にへう状工具による輪凸・角押紋一三角押紋。区内面に平載竹管状工具による華草紋・条刷紋。 内面:胴部に横位ミガキ。器面荒れが顕著。	調査区一括。 中期中葉。 楕圓筒式。
11	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:灰褐色 内面:灰褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒・赤褐色 色粒	酸化焼	外面:器上に縦行隆帯紋一隆帯紋端にへう状工具による三角押紋。 内面:口縁部に横位ミガキ。器面荒れが顕著。	2号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
12	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:粗 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で区画一区内面にへう状工具による洗線紋。隆帯紋の一部にへう状工具による半ギミ。 内面:胴部上位に横位。胴部下位に縦位ミガキ。	10号土坑。 中期中葉。 楕圓筒式。
13	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・粗 内面:にぶい・赤 褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で区画一区内面にへう状工具による条刷紋・刺突紋一隆帯上に半ギミ一隆帯上・隆帯端の一部に丸棒状工具による洗線紋。 内面:胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
14	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で区画一区内面に平載竹管状工具による条刷紋。隆帯上に同様の工具による押引紋。 内面:胴部に横位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
15	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・粗	石英・長石・ 黒色粒・白色 色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で区画一区内面に縦位洗線紋 (短)。隆帯端に平載竹管状工具による平洗線紋一隆帯上に単刷洗線文 (短)。 内面:胴部に横位・斜位ミガキ。	7号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
16	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	口縁部破片	外面:暗赤褐色 内面:暗赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・赤褐色 色粒	酸化焼	外面:口縁部に平載竹管状工具による条刷紋。隆帯紋一隆帯紋等に丸棒状工具による洗線紋。 内面:口押下に隆帯紋。口縁部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期中葉。 楕圓筒式。
17	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:—	胴部破片	外面:にぶい・赤 褐色 内面:にぶい・赤 褐色	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色色粒	酸化焼	外面:胴部を隆帯で横位区画一区内面に隆帯紋による垂文一隆帯紋端にへう状工具による洗線紋。 内面:胴部に横位ミガキ。	3号住居跡。 中期中葉。 焼釘型型。

第36表 遺構外出土土物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	施成	成形時の特徴	備考
18	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色・赤褐色	酸化焼	外面：隆帯状による無文文等一隆帯縁部にへう状工具による 沈線紋→空筒部に細いへう状工具による刺突紋。 内面：胴部に横位ミナナ。	6号住居跡P 1号土坑 中層後葉。 焼酎型器。
19	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部に平縁竹管状工具による横位条線紋→条線紋の 一部にへう状工具による突刺突。 内面：口縁部に横位ミナナ。	19号住居跡。 中層後葉。 3期1号型器。
20	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐色 内面：黒色 赤褐色	石英・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部に黒赤紋(L)→隆帯紋→口押下・隆帯紋部に丸 棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に刺→横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 加賀利E1式。
21	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：黒	長石・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部に黒赤紋(L)。一隆帯紋で横位区画。 内面：口縁部に横位ミナナ。	16号住居跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
22	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部～ 胴部破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色・赤褐色	酸化焼	外面：胴部に単節縄文(ⅡL)→隆帯紋で横位・縦位区画一隆 帯筋に多載竹管状工具による沈線紋。 内面：胴部～胴部に横位・縦位ミナナ。	4号住居跡跡 中層後葉。 加賀利E1式。
23	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部に単節縄文(ⅡL)→隆帯紋で横位区画・前手文 →隆帯紋筋の一部に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	5号住居跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
24	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：黒 内面：黒	チャート・ 長石・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で構内状区画等→区画内に単節縄文(ⅡL) →隆帯筋に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 加賀利E1式。
25	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部～ 胴部破片	外面：にぶい赤 内面：明赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で構内状区画・前手文→区画内に単節縄 文(ⅡL)→隆帯筋に丸棒状工具による沈線紋。胴部に単節縄文(ⅡL)→ 丸棒状工具による2条の沈線紋で縦位区画→沈線部の 横位を省略。 内面：口縁部～胴部に横位・縦位ミナナ。器面荒れ方顕著。	調査区一區。 中層後葉。 加賀利E1式。
26	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：明褐色 内面：明褐色	片岩・チャ ート・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で構内状区画→区画内に単節縄文(ⅡL) →隆帯筋に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	16号住居跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
27	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐色 内面：灰褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で面・前手文→区画内に単節縄文(ⅡL) →隆帯筋に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 加賀利E1式。
28	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：黒褐色	石英・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面：口押下へう状工具による刺突紋。口縁部に単節縄 文(ⅡL)→丸棒状工具による沈線紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	7号住居跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
29	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：胴部に丸棒状工具による2条の沈線紋で縦位区画→区 画内に複節縄文(ⅡL) 内面：胴部に横位・縦位ミナナ。	7号住居跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
30	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：灰褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：胴部に単節縄文(ⅡL)→隆帯紋。 内面：胴部に横位ミナナ。	3号住居跡跡。 中層後葉。 加賀利E1式。
31	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：黒	長石・黒色 粒・白色粒 赤褐色粒	酸化焼	外面：口縁部に縦位条線紋→丸棒状工具による3条の沈線紋 で口押下横位区画・弧状文。 内面：口縁部に横位ミナナ。	3号溝。 中層後葉。 透気文系。
32	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：黒 内面：黒褐色	石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部に縦位条線紋→多載竹管状工具による2条の沈 線紋で口押下横位区画・弧状文→付帯文。 内面：口縁部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 透気文系。
33	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：灰褐色	片岩・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：口縁部に縦位条線紋→丸棒状工具による2条の沈線紋 で口押下横位区画→沈線筋間に交互刺突紋。 内面：口縁部に横位ミナナ。	4号住居跡。 中層後葉。 透気文系。
34	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	長石・黒色 粒・白色赤 赤褐色粒	酸化焼	外面：口縁部に黒赤紋(Ⅱ)→丸棒状工具による3条の沈線 紋で口押下横位区画・弧状文。 内面：口縁部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 透気文系。
35	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：黒 内面：黒	片岩・石英・ 長石・黒色 粒・白色粒	酸化焼	外面：胴部に黒赤紋(Ⅱ)→丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に斜位ミナナ。	3号住居跡跡P 2。 中層後葉。 透気文系。
36	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部～胴部 破片	外面：黒 内面：黒	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白色 赤褐色	酸化焼	外面：胴部にX字状把手・隆帯紋貼付→把手上に棒状工具による2条の沈 線紋→胴部～胴部にへう状工具による条 線紋。 内面：胴部～胴部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 曾川式。 X把手土器。
37	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部～胴部 破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	長石・黒色 粒・白色粒 赤褐色粒	酸化焼	外面：胴部に低隆帯紋→低隆帯筋上に棒状工具による2条の沈 線紋。胴部に平縁竹管状工具による条線紋→隆帯紋 →隆帯筋の一部に沈線紋。 内面：胴部～胴部に横位ミナナ。	10号土坑。 中層後葉。 曾川式。
38	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：黒 内面：にぶい赤 赤褐色	石英・長石・ 白色粒・赤褐 色赤褐色	酸化焼	外面：胴部に隆帯紋→多載竹管状工具による条線紋→隆帯紋 →隆帯筋に丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に斜位ミナナ。	調査区一區。 中層後葉。 曾川式。
39	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤 内面：にぶい赤	石英・長石・ 白色粒・赤褐 色赤褐色	酸化焼	外面：胴部に隆帯紋で無文文→隆帯筋間に丸棒状工具による 条線紋→隆帯筋間に丸棒状工具による沈線紋。 内面：胴部に横位・斜位ミナナ。	16号住居跡。 中層後葉。
40	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：にぶい赤 内面：明赤褐色	石英・長石・ 白色粒・赤褐 色赤褐色	酸化焼	外面：胴部に隆帯紋→隆帯筋間にへう状工具による条線紋。 内面：胴部に横位・斜位ミナナ。	16号住居跡。 中層後葉。

第 37 表 遺構外出土遺物観察表 (3)

No.	器 種	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	焼 成	成形形の特徴	備 考
41	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色粒	酸化焼	外面：口唇下を隆帯で区画→丸棒状工具による沈線紋・条線紋。 内面：口唇下に横線。口縁部に縦位ミガキ。	9号住居跡。 中期後葉。 命名否1式。
42	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部→側 部破片	外面：赤褐色 内面：明赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で区画(約幅)→棒状工具による沈線紋 で横位区画内→区画内に2本一對のへら状工具による 縦位加沈線紋を充満。側部を丸棒状工具による沈線紋 で区画区画。区画内に横帯状工具による条線紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。側部に斜位ミガキ。	10号土坑。 中期後葉。 調査否。
43	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	側部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：側部に丸棒状工具による3条の沈線紋により縦位区画 →区画内に横帯状工具(6条)による条線紋。 内面：側部に横位ミガキ。器面荒れが顕著。	調査区一區。 中期後葉。 命名否。
44	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部→側 部破片	外面：灰褐色 内面：灰褐色	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色粒	酸化焼	外面：口唇下を隆帯で区画→側部に単部縦紋(LR)。 内面：口縁部→側部に横位ケテリ→横位ミガキ。	8号住居跡。 中期後葉。 加智利EⅡ式。
45	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	側部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 雲母・白色 粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：側部を細線帯で区画→区画内に単部縦紋(LR)。 内面：側部に斜位ミガキ。	19号住居跡。 中期後葉。 加智利EⅡ式。
46	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	側部破片	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：側部を細線帯で区画→区画内に縦紋→細線帯紋の 一部に丸棒状工具による沈線紋。 内面：側部に横位ミガキ。指通痕。 内外面共に器面荒れが顕著。	7号住居跡。 中期後葉。 加智利EⅡ式。
47	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	側部破片	外面：褐色 内面：褐色	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：側部を2条1対の細線帯で区画→区画内に単部縦紋 (LR)。 内面：側部にミガキ。	10号土坑。 中期後葉。 加智利EⅡ式。
48	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部把手 破片	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：環状・楕状把手。把手部に孔・竇状繋ぎ沈線紋。口縁 部把手下にネズミ状刻付紋。 内面：口縁部にミガキ。	3号溝。 後期前葉。 命名否。
49	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：黒褐色	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：器底に把手(環状)。口縁部を細線帯で区画→区画内に 単部縦紋(LR)→細線帯紋にへら状工具による沈線 紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。コゴの付着が顕著。	3号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
50	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい黄 褐色 内面：褐色	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：口縁部を細線帯で区画→口唇下に単部縦紋(LR)・区 画内に丸棒状工具による斜交列紋。 内面：口縁部に横位ミガキ。	3号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
51	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒	酸化焼	外面：口縁部に丸棒状工具による沈線紋→沈線紋間等に無部 縦紋(L)。 内面：口縁部に横線・縦位・斜位ミガキ。	4号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
52	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	チャート・ 長石・白色 粒	酸化焼	外面：口縁部を隆帯で縦位区画→丸棒状工具による沈線紋→ 沈線紋間等に単部縦紋(LR)→沈線紋と同様の工具 による斜交列紋→器面上に同様の工具によるキズ。側部 →底唇下更厚部に縦紋。口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
53	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：口縁部に棒状工具による併行沈線紋で縦位区画・横帯 文等→沈線紋間に単部縦紋(LR)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
54	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部ない し側部破片	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒	酸化焼	外面：丸棒状工具による沈線紋→単部縦紋(LR)・竹管状工 具による斜交列紋。 内面：横位ミガキ。	調査区一區。 後期前葉。 命名否2式。
55	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部ない し側部破片	外面：褐色 内面：褐色	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色粒	酸化焼	外面：棒状工具による沈線紋→沈線紋内に矢頭状工具による 斜交列紋。 内面：内外面共に器面荒れが顕著。	調査区一區。 後期前葉。 命名否2式。
56	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部ない し側部破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：丸棒状工具による沈線紋→丸棒状工具による列点紋。 内面：横位ミガキ。	3号住居跡。 後期前葉。 命名否2式。
57	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	頸部→側部 破片	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：頸部を隆帯で縦位区画→隆帯上に丸棒状工具による何 点状紋→隆帯上にへら状工具によるキズ。側部に丸 棒状工具による横位の斜交列紋。 内面：口縁部に横位ケテリ→斜位ミガキ。	8号住居跡。 後期前葉。 命名否1式。
58	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口部→側部 破片	外面：にぶい黄 褐色 内面：にぶい赤	石英・長石・ 雲母・白色 粒・赤褐色 粒	酸化焼	外面：口部に竇状繋ぎ沈線紋。側部にへら状工具による沈線 紋。 内面：口部→側部に横位ミガキ。	10号土坑。 後期前葉。 縦之内1式。
59	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口頸部破片	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	チャート・ 石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：口部に丸棒状工具による沈線紋。 内面：口唇下の一部に棒状工具による縦位加沈線紋。口頸部 に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前葉。 縦之内1式。
60	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口頸部→側 部破片	外面：灰褐色 内面：にぶい赤	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色粒	酸化焼	外面：口部に棒状工具による竇状繋ぎ沈線紋。側部を丸棒状 工具による沈線紋で横位区画→区画内に併行沈線紋 で横帯文等→区画内に竹管状工具によるネズミ状刻付 紋。 内面：口頸部→側部に横位ミガキ。	3号住居跡。 後期前葉。 縦之内1式。
61	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	側部破片	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	石英・チャ ート・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：側部を隆帯で横位・縦位区画→交点に竹管状工具による 8字状刻付紋(縦面)→区画内に竹管状工具による 沈線紋で横帯文・横帯文→隆帯上に沈線紋と同様の工 具によるキズ。側部 内面：側部に横位ミガキ。	10号土坑。 後期前葉。 縦之内1式。
62	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：灰褐色 内面：灰褐色	石英・長石・ 白色粒・赤 褐色粒	酸化焼	外面：口唇下に細線帯→隆帯上に丸棒状工具によるキズミ。 口縁部にへら状工具による併行沈線紋で三角文→沈 線紋間に単部縦紋(LR)。 内面：口唇下に横線。口縁部に横位ミガキ。	調査区一區。 後期前葉。 縦之内2式。

第38表 遺構外出土遺物観察表(4)

No.	部 種	法量 (cm)	現 存	色 調	胎 土	焼 成	成形時の特徴	備 考
63	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい紺 内面：にぶい紺	片貝・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：口縁下に細部を一帯厚く丸状工具によるキザシ。 口縁部に丸棒状工具による併行沈線紋で三角文→沈線 紋間に単脚紋(L)。 内面：口縁下に凹線紋、口縁部に斜位ミガキ。	7号住居跡。 後期前中。 堀之内2式。
64	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい紺 内面：にぶい紺	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：口縁部に丸棒状工具による併行沈線紋で区画等一区画 に単脚紋(L)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	調査区一區。 後期前中。 堀之内2式。
65	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい紺 内面：にぶい紺	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：口縁部にへう状工具による併行沈線紋で三角文→沈線 紋間に単脚紋(L)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前中。 堀之内2式。
66	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口部へ体部 破片	外面：黒灰 内面：黒灰	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：横位横状突起。体部上半を隆帯紋で横位・縦位区画一 区画内に同様の隆帯紋で弧状文。赤彩。 内面：口部へ体部に横位ミガキ。	3号溝・調査 区一區。 後期前中。 堀之内。
67	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：にぶい紺 内面：にぶい紺	長石・白色 粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：口縁部へ体部にキザシ・隆帯紋一帯厚く上に単脚紋 (L)。 内面：口縁部に横位ミガキ。	調査区一區。 後期前中。 堀之内2式。
68	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	体部破片	外面：黒灰 内面：黒灰	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色色粒	焼成胎	外面：体部にへう状工具による併行沈線紋→沈線紋間の一部 に凹状工具による明瞭な刻列。 内面：体部に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前中。 堀之内2式。
69	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	体部破片	外面：黒灰 内面：黒灰	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色色粒	焼成胎	外面：体部にへう状工具による沈線紋→無脚縄文(L)。 内面：体部に横位ミガキ。	調査区一區。 後期前中。 堀之内2式。
70	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：黒灰 内面：黒灰	石英・長石・ 赤褐色色粒 ・白色粒	焼成胎	外面：口縁部にへう状工具によるクラクク甚多段併行沈線紋 ・の字文。 内面：胴部に横位ミガキ。	3号溝・調 査区一區。 後期前中。 加賀川B1式。
71	縄文土器 注口土器	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：黒灰 内面：黒灰	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色色粒	焼成胎	外面：口縁部に丸棒状工具による沈線紋で横位区画一区内に斜 位凹線紋を充て。胴部に条線紋・沈線紋で横位文・ の字文。 内面：口部に横位へうタテ。胴部に横位ミガキ。	調査区一區。 後期前中。 加賀川B1式。
72	縄文土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部へ 胴部破片	外面：にぶい紺 内面：にぶい紺	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	外面：口縁部外縁に凹線紋→口縁部にへう状工具による沈線 紋で横位区画一区内に矢形段状沈線紋。胴部を同様 の沈線紋で区画一帯単脚紋(L)。 内面：口縁部へ凹線に横位ミガキ。	7号住居跡。 後期前中。 堀之内2式。
73	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部破片	外面：紺 内面：にぶい紺	長石・黒色 粒・白色粒・ 赤褐色色粒	焼成胎	外面：口縁部にへう状工具による条線紋→沈線間にへう状工 具によるキザシ。 内面：口縁部に横位ミガキ。	19号住居跡跡 面。後期前中。
74	土製品 土製円盤	長さ：2.9 幅：1.2 厚さ：0.8	1/1	外面：にぶい赤 褐色 内面：黒灰	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	表面：丸棒状工具による沈線紋。単脚紋(L)。 側面：ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：7.4g。	17号住居跡跡1 号土坑。
75	土製品 土製円盤	長さ：2.9 幅：3.0 厚さ：3.1	1/1	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤 褐色	長石・黒色 粒・白色粒	焼成胎	表面：単脚紋(L)。 側面：ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：9.9g。	P-8。
76	土製品 土製円盤	長さ：4.2 幅：3.9 厚さ：1.5	1/1	外面：にぶい赤 褐色 内面：にぶい赤 褐色	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	表面：網紋。器面荒れが顕著。 裏面：横位ナデ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：29.1g。	10号土坑。
77	土製品 土製円盤	長さ：3.0 幅：3.4 厚さ：1.0	1/1	外面：にぶい赤 褐色 内面：黒灰	石英・長石・ 黒色粒・白 色粒・赤褐色 色粒	焼成胎	表面：丸棒状工具による条線紋。器面荒れが顕著。 裏面：横位ミガキ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：12.2g。	14号住居跡跡。
78	土製品 土製円盤	長さ：3.1 幅：3.2 厚さ：1.2	1/1	外面：明赤 内面：にぶい赤 褐色	チャート・ 石英・長石・ 黒色粒・白 色粒	焼成胎	表面：横位ナデ。器面荒れが顕著。 裏面：横位ミガキ。 側面：破断面に磨痕。 重さ：12.9g。	6号溝跡。
No.	部 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	成形時の特徴/現存状況	備 考
79	石器 石鏃	2.35	1.74	0.3	0.77	石英質。安山岩。	凹基無葉。安形。	15号住居跡跡面。
80	石器 石鏃	(3.05)	2.00	0.42	1.75	黒色安山岩	凹基無葉。先端部と片側部が欠損。	3号住居跡跡。
81	石器 (石鏃)	3.98	3.58	1.18	1.56	黒色安山岩	大型品か。磨皮をもつ小型剥片の周縁に、連続する2次加工が認められる。	3号住居跡跡。
82	石器 石鏃	(4.23)	2.63	1.02	9.86	チャート	縦型。上部には鉋離加工により挿入部が作出される。先端部が欠損。	18号住居跡跡。
83	石器 打製石斧	6.76	4.77	1.63	59.81	ホルンブルグス	小型品。剥片を素材とし、両側面に両面加工が施され、中央は鉋加工が顕著。全体に磨痕が認められる。使用に準じ小型化したとみられる。	5号溝跡。
84	石器 打製石斧	10.24	7.37	2.94	214.94	黒色頁岩	別製形。剥片を素材とし、両側に両面加工が施される。刃部や基部に磨痕が認められ、部分分に微細な磨痕あり。	7号住居跡跡。
85	石器 打製石斧	22.19	8.98	3.11	790.30	は入れいりタ	大型品無葉。大型剥片を素材とし、両側に両面加工が施される。上下両部には使用面とみられる磨痕面や微細な磨痕が認められる。	7号住居跡跡。
86	石器 スクレイパー	(11.36)	3.63	1.92	55.63	頁岩	横型をもち、縦長剥片を素材とし、両面に両側面磨痕が認められる。下端部が欠損。	6号溝跡。
87	石器 スクレイパー	10.85	7.01	1.81	156.46	頁岩	縦型を打面とする縦長剥片を素材とし、左側面に両面加工を施し刃部とする。刃部には磨痕面や微細な磨痕が認められる。	3号溝跡。
88	石器 凹石	(9.72)	(9.58)	5.67	395.82	安山岩	表裏面に磨痕が認められる。表裏面中央や両側縁中央には楕円状の大きな凹孔が認められる。上下両部には鉋加工あり。磨石→凹石。	5号住居跡跡。
89	石器 磨石	6.49	6.50	4.10	255.52	安山岩	小型円形。器面全体に磨痕が認められる。	7号住居跡跡。

第39表 遺構外出土遺物観察表(5)

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	成形の特徴/残存状況	備考
90	石磨 石皿	30.89	(23.76)	6.52	6.280	安山岩	砥石面を素材とする。砥面は陥凹状に深く窪み、強質な磨耗面が認められ、縁部には凹穴あり。右部は平滑しており、多数の凹穴が認められる。施熱による痕跡あり。磨石・凹石、欠損品。	調査区一括。
91	石磨 磨石	17.20	6.53	4.95	800.58	流紋岩	砥石面を素材とし、上下両部や右裏面中央や両側縁に顕著な砥石面が認められる。	9号住居跡。
92	石磨 磨製石芥	(8.44)	(4.28)	(2.87)	144.16	緑色頁岩	砥石・磨石による丁寧な加工が施される。中央〜右部が欠損。基部に新造成形後の砥石面が認められる。	3号溝。
93	石磨 磨製石芥	(10.35)	5.73	3.08	301.57	緑色頁岩	磨石による丁寧な加工が施される。刃部は使用痕しき磨耗面や微細な磨痕が認められる。基部が欠損。	調査区一括。
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	構成	成形の特徴	備考
94	須恵器 甕	口径：(24.0) 底径：一 器高：(7.2)	口縁部〜 側部上段片	外面：黄灰 内面：黄灰	黒色粒・石 灰・白色粒	還元胎	外面：口縁部ハケメ〜ヨコナデ。側部上段ヘラナデ。 内面：口縁部〜側部底ナデ〜側部ヘラナデ。	調査区一括。
95	土師器 台付甕	口径：一 底径：8.6 器高：(7.2)	側部下位〜 台部4/5	外面：褐 内面：暗赤褐	白色粒・黒 色粒・砂粒	還元胎	外面：側部〜台部ヘラナデ。 内面：側部〜底部ナデ、台部ヘラナデ。	調査区一括。
96	須恵器 罎	口径：(14.4) 底径：(11.0) 器高：3.9	2/5	外面：灰 内面：灰	白色粒・黒 色粒・砂粒	還元胎	外面：口縁部〜体部底ナデ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部〜底部底ナデ。	調査区一括。

VI まとめ

長久保大畑遺跡は古代集落を中心とした複合遺跡である。今回検出した主要な遺構は、古墳時代の溝3条、奈良・平安時代の竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構2基、中世以降の溝1条、井戸1基、大型土坑1基である。遺物は縄文時代中期を中心とした縄文土器や石器類が多量に出土したことが特筆される。ここでは近在する既往の調査成果も踏まえ、若干の補説を行い、結語としたい。

1. 古墳時代の溝について

該期の溝が3条確認され、走行方向は概ね南北を指向する。構築時期はH r - F A (榛名ニッ岳渋川テフラ、6世紀初頭)が一次堆積をする4号溝→H r - F Aが二次堆積をする5・6号溝で、H r - F A降下前後と考えられる。既往の調査成果から概ね水路として機能していたものと想定されるが、前述したように周辺を含め該期の遺構は少ない。4号溝は近接する3次調査区1号溝、5号溝は同区7号溝の延長部分と想定される。壁面には泥流ないしは火砕流による災害の痕跡であろう蛇行状の抉りが見られる。底面には流水による凹地が残り、南側の底面は砂礫層が露呈する。調査当初、形状等から人為的に構築された溝かと考えたが、蛇行して走行することなどから自然流路を人為的に監視し水路として利用された可能性が推考される。事例として渋川市の金井東裏遺跡31号溝が挙げられる。また、本遺跡南500mに位置する見柳東遺跡以南では古墳時代の自然流路を再掘削した古代の灌漑用水路が確認されていることから、本地域を含め南北軸に大規模な水路が整備・管理されていた可能性が考えられる。

2. 奈良・平安時代の集落について

1〜3次調査区を含めた本遺跡地周辺は8〜11世紀の集落地で、5号溝から東側の低地は生産遺構が中心となっている。竪穴住居跡の分布をやや狭義的にみると、本調査区では4号溝と5号溝間でやや密度が高く、一部ではほぼ同軸方位で重複する。近接する既知調査地と照らし見ると、南北軸上ないしは東西軸線上に分布する傾向が窺われる。本遺跡北方、午王頭川左岸に立地する沼南遺跡は10世紀から集落が形成されるようになるが、報文では重複する住居に対し、東〜西ないしは南〜北軸でやや位置をずらして建て替えが行われたのではないかと推考されており、本遺跡においても4号住(南)→20号住(北)や8号住(西)→16号住(東)などにその傾向が看取される。9号住は平面形がL字状を呈しており、こうした張り出しを持つやや特異な形態は県内で散見される。町内では本遺跡の他に中町遺跡1号住、見柳東遺跡22号住、見柳東Ⅱ遺跡5号住にみられ、7世紀末から8世紀が盛期と推考されている。本遺構の類似例は前橋市・旧群馬町(現・高崎市)に所在する下東西遺跡S J 118にみられ、9号住と同様にカマド対面の西壁南側に張り出し部をもつ。土師器・須恵器・灰釉陶器の外、円面碗の破片などが出土しており、10世紀後半の所産である。

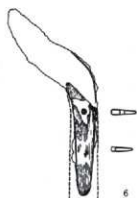
遺物について特筆されるのは18号住から出土した鉄製品(№3)が挙げられる。刃部のみ遺存で、初見の印

象は鎌である。本鉄製品については不詳であったため、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を来訪し、御教示を受けた。簡易的にX線写真撮影をして頂いたが、地金等の遺存状態を含め、肉眼で得られる情報とほぼ相違はなかった。都合上、金属学的解析は行っていないが、見分の談によれば鉄質は良く炭素が多いか、とのことである。折り返し部分近くの刃部に関する可能性が指摘された。県内では酷似した鉄製品にあらず、現段階では形状等は高崎市・元島名B・吹屋遺跡SD34から出土した金属器（鎌）が一番近い。

形状から鎌あるいは類似する鉄製品とみると、直刀系で長辺が刃先となっており、茎寄りの峰の重ねはやや厚い。身は直刀系の鎌等と比べるとやや薄い。本鉄製品の辺の折り返しは長辺の刃部側で、隅角が巻くように折り返されている。一般的な直刀系の鎌等であれば鉄板の片方の端を折り返し、木柄を着装するが、この形状から直角あるいは鈍角であったのか、また、どのような柄が装着されていたかは想像するに難しい。草刈鎌のようなものであれば目釘があった某部分を調整し、二次的に加工された可能性も考えられる。利器か素材か。あるいは、用途や利き手等に合わせて再造されたものか。現時点では不明な点が多く、想像の域を超えるものではない。



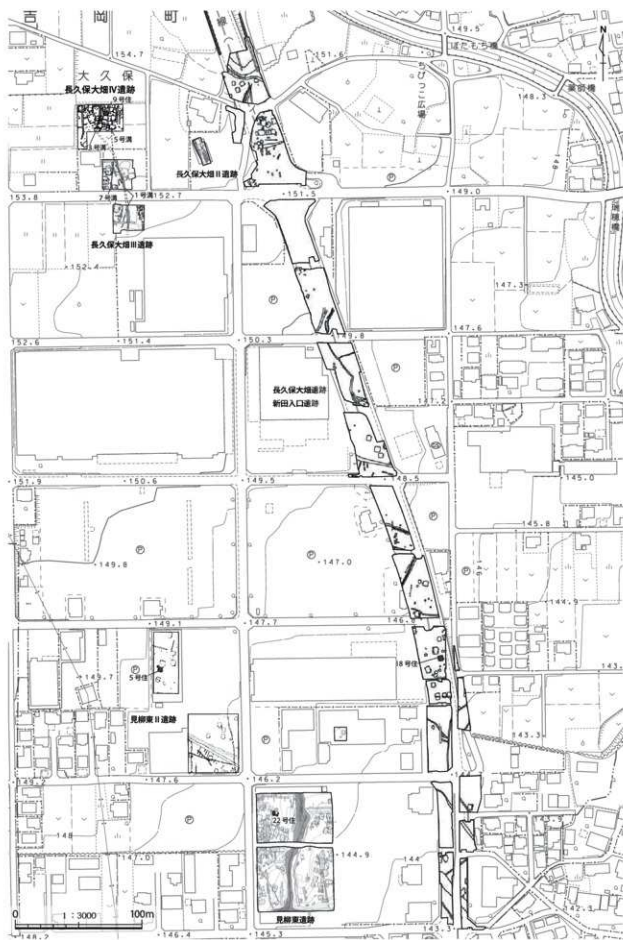
第88図 張り出しを持つ竪穴住居跡



第89図 元島名B・吹屋遺跡出土金属器



第90図 18号住居跡No.3 X線写真

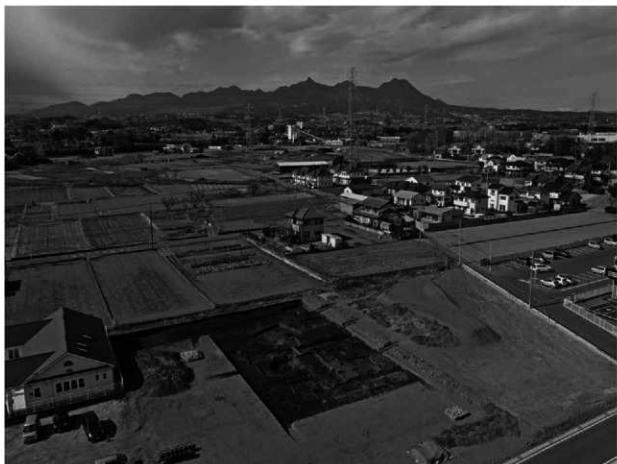


第91図 周辺の遺跡

【引用・参考文献】

- 大江正行 1982『元島名B・吹屋遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 神谷佳明 1987『下東西遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 松村和男 1999『沼南遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 田村公夫 2000『長久保大畑遺跡 新田入口遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 瀧野 巧・折原洋一 2001『見柳東Ⅰ遺跡』群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 平野岳志・山崎 悟 2001『ローズタウン遺跡群 富田下大日IV遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 瀧野 巧 2003『長久保大畑Ⅱ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会
- 瀧野 巧・山崎 悟 2005『見柳東Ⅱ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 瀧野 巧・大越直樹 2006『長久保大畑Ⅲ遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町遺跡調査会
- 杉山秀宏・大木伸一郎 2019『金井東裏遺跡《古墳時代編》』 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 前田和昭・中村岳彦 2022『七日市東遺跡 七日市遺跡』 群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会 株式会社ジョイフル本田
技研コンサル株式会社

写真図版



遺跡遠景（南東から）



遺跡全景（上が北）



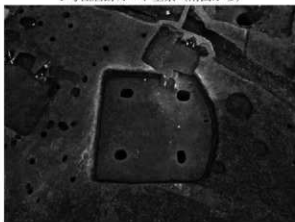
1号住居跡全景 (南西から)



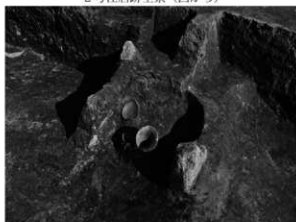
1号住居跡カマド全景 (南西から)



2号住居跡全景 (西から)



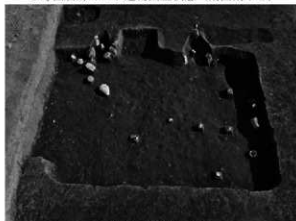
3・19号住居跡全景 (南西から)



3号住居跡カマド遺物出土状態 (南西南から)



3号住居跡カマド周辺遺物出土状態 (南西南から)



4・20号住居跡全景 (西から)



4号住居跡遺物出土状態 (北から)



4号住居跡カマド全景（西から）



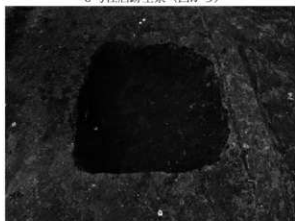
20号住居跡カマド全景（西から）



5号住居跡全景（西から）



5号住居跡カマド全景（南西から）



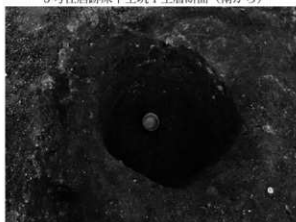
5号住居跡床下土坑1全景（東から）



5号住居跡床下土坑1土層断面（南から）



6号住居跡全景（西から）

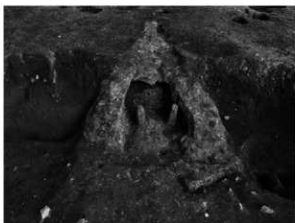


6号住居跡土坑1遺物出土状態（南から）

図版 4



7号住居跡全景 (西から)



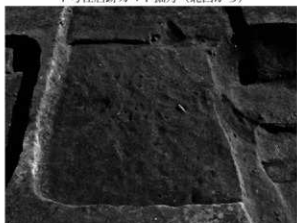
7号住居跡カマド全景 (西から)



7号住居跡カマド掘方 (北西から)



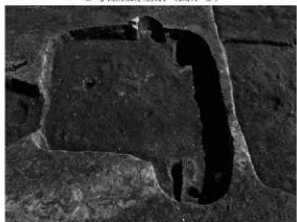
7号住居跡カマド遺物出土状態 (西から)



8号住居跡全景 (西から)



8号住居跡遺物出土状態近景 (東から)



9号住居跡全景 (西から)



9号住居跡カマド全景 (西から)



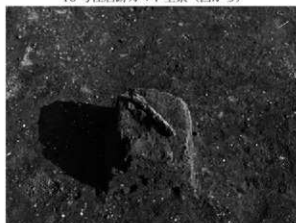
10号住居跡全景（西から）



10号住居跡カマド全景（西から）



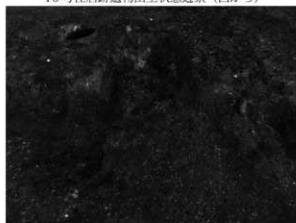
10号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



10号住居跡遺物出土状態近景（西から）



11号住居跡全景（西から）



11号住居跡カマド全景（西から）



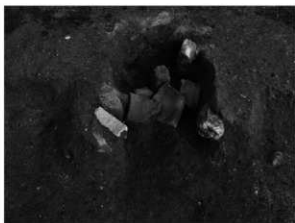
11号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



11号住居跡土・礫出土状態（北から）



12号住居跡全景(西から)



12号住居跡カマド遺物出土状態(西から)



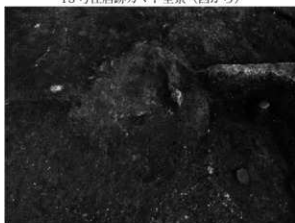
13号住居跡全景(西から)



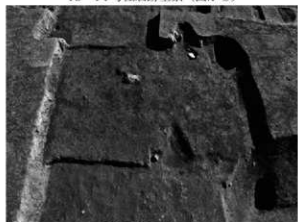
13号住居跡カマド全景(西から)



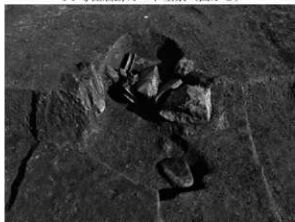
13・14号住居跡全景(西から)



14号住居跡カマド全景(西から)



15号住居跡全景(西から)



15号住居跡カマド遺物出土状態(西から)



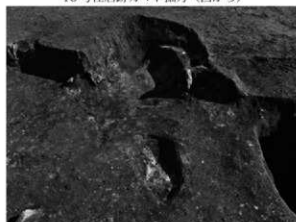
15号住居跡カマド全景(西から)



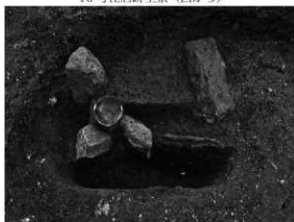
15号住居跡カマド掘方(西から)



16号住居跡全景(西から)



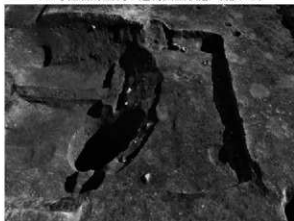
16号住居跡カマド全景(西から)



16号住居跡土坑1遺物出土状態(北から)



16号住居跡土坑1遺物出土状態近景(北から)



17号住居跡全景(西から)



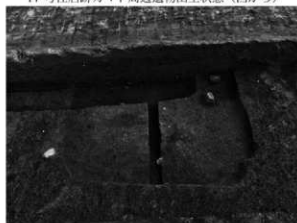
17号住居跡カマド全景(西から)



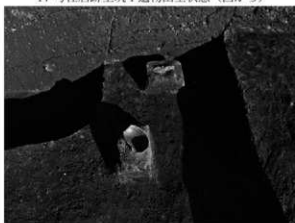
17号住居跡カマ下周辺遺物出土状態（西から）



17号住居跡土坑1 遺物出土状態（西から）



18号住居跡全景（西から）



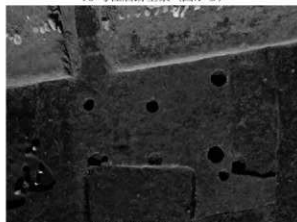
18号住居跡遺物出土状態（西から）



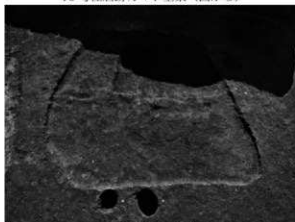
19号住居跡全景（西から）



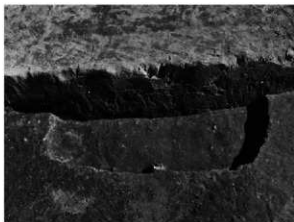
19号住居跡カマ下全景（西から）



1号掘立柱建物跡全景（南から）



1号竪穴状遺構全景（北から）



2号竪穴状遺構全景（西から）



2号竪穴状遺構遺物出土状態（西から）



2号溝全景（東から）



7号溝全景（北東から）



1号溝全景（南から）



3・4号溝全景（北から）



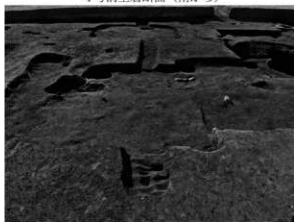
3号溝土層断面（南から）



4号溝土層断面（南から）



5号溝全景（北から）



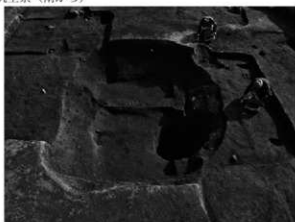
6号溝全景（北から）



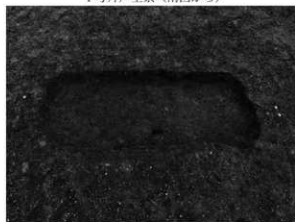
1号井戸、10号土坑全景（南から）



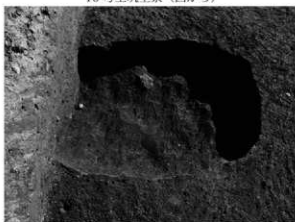
1号井戸全景（南西から）



10号土坑全景（西から）



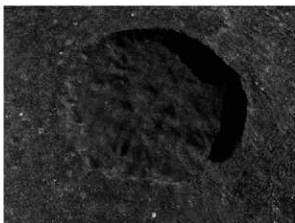
2号土坑全景（北から）



6号土坑全景（西から）



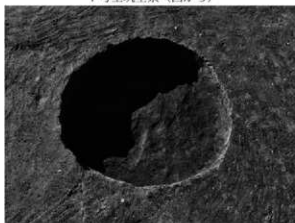
7号土坑礫検出状態（東から）



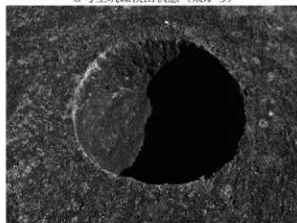
7号土坑全景（西から）



8号土坑礫検出状態（東から）



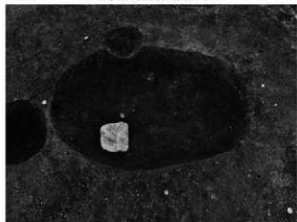
8号土坑全景（東から）



13号土坑全景（西から）



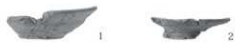
14号土坑全景（西から）



18号土坑全景（東から）



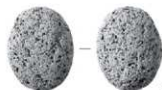
基本層序土層断面（北から）



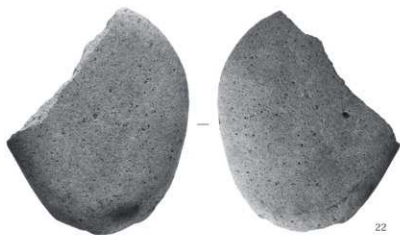
1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



3号住居跡出土遺物(1)



22

3号住居跡出土遺物(2)



10

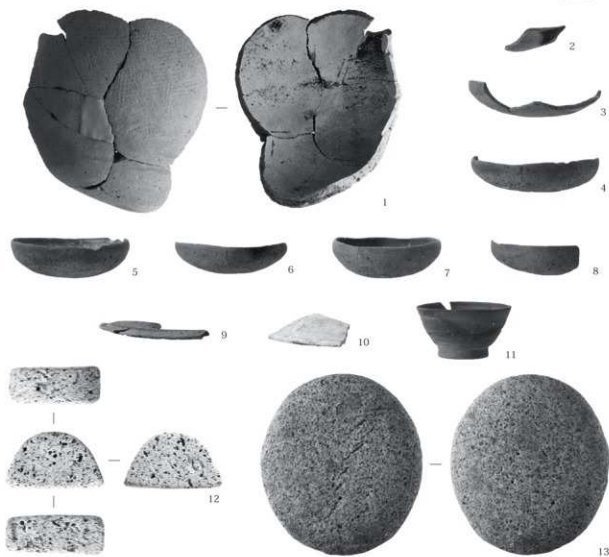
4号住居跡出土遺物



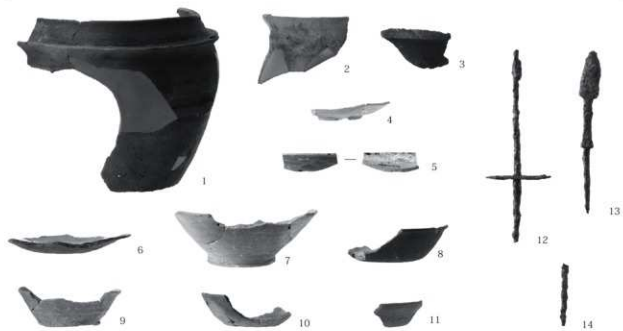
5号住居跡出土遺物



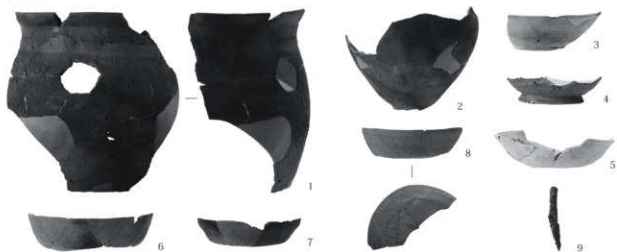
6号住居跡出土遺物



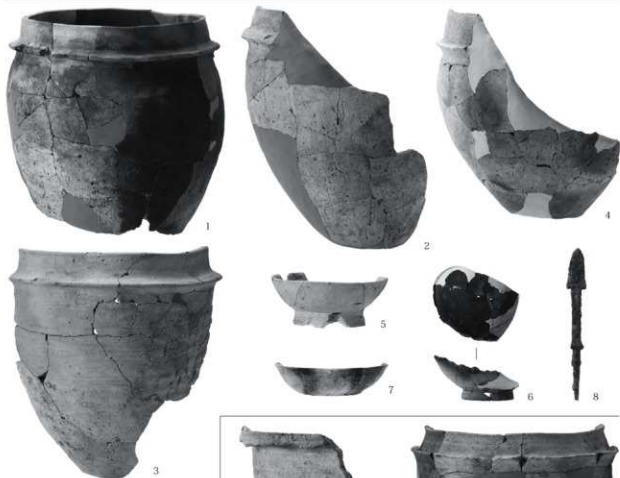
7号住居跡出土遺物



8号住居跡出土遺物



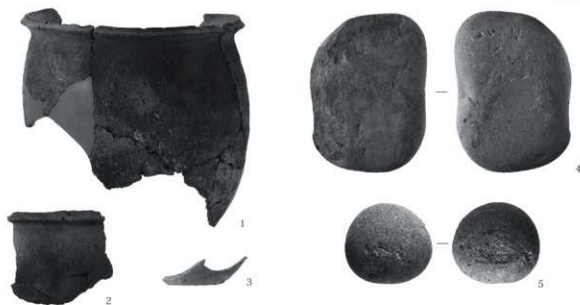
9号住居跡出土遺物



10号住居跡出土遺物



11号住居跡出土遺物



12号住居跡出土遺物



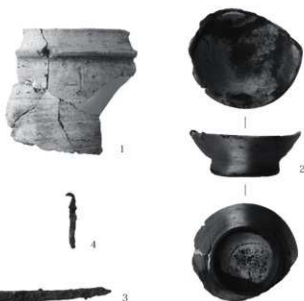
13号住居跡出土遺物



14号住居跡出土遺物



15号住居跡出土遺物



16号住居跡出土遺物



17号住居跡出土遺物



1



1



2



3

18号住居跡出土遺物



1

2号竪穴状遺構出土遺物



1



1



2



3



4



5



6

19号住居跡出土遺物



1



3



1



1



2



4



5



6



1

3号溝出土遺物



1

7号溝出土遺物



7



8



9

5号溝出土遺物



1



2

1号井戸出土遺物(1)



1号井戸出土遺物(2)



10号土坑出土遺物



16号土坑出土遺物



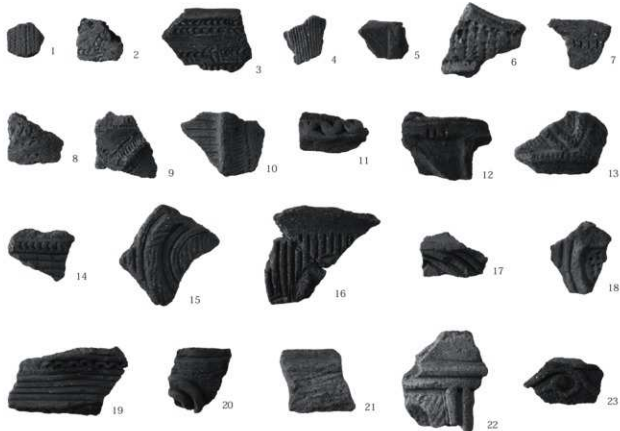
P-16 出土遺物



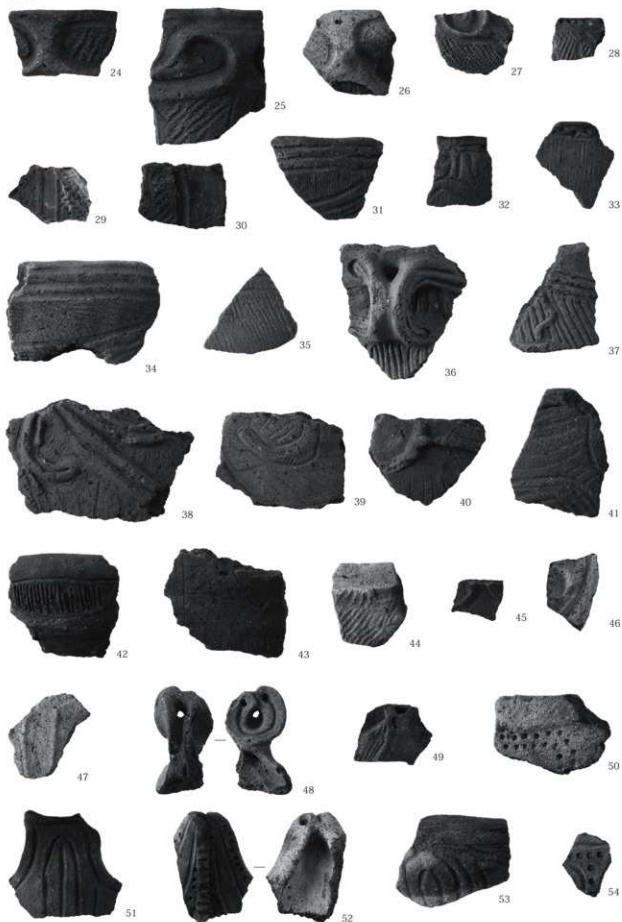
P-46 出土遺物



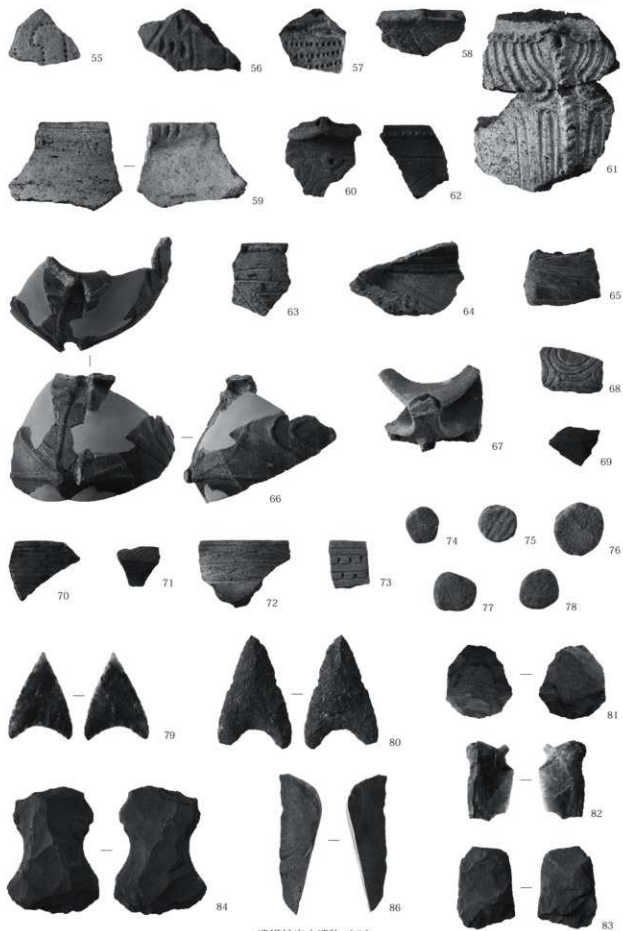
P-71 出土遺物



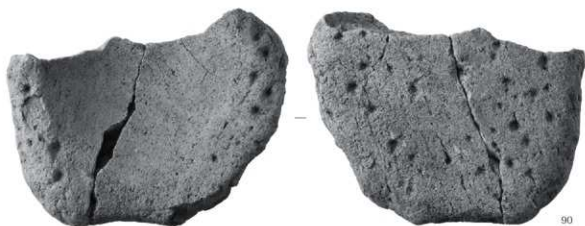
遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物 (3)



抄 録

ふりがな	ながくぼおぼたけよんいせきはくつちょうさほうこくしょ
書 名	長久保大畑IV遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	吉岡町文化財調査報告書
シリーズ番号	第42集
編 著 者 名	白石光男 山本千春
編 集 機 関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002-1 Tel. 027-265-1804
発 行 機 関	吉岡町教育委員会 〒 370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町下野田 560 Tel. 0279-54-1054
発行年月日	令和5年7月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
長久保大畑IV 遺跡	群馬県北群馬 郡吉岡町大字 大久保字大畑 751-2	10345	154	36° 25' 24"	139° 01' 26"	20221212 ～ 20230208	948㎡	株式会社コスモス薬品 出店建物工 事

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
長久保大畑IV 遺跡	その他 集落	縄文時代 奈良・平安時代 古代以降	竪穴住居跡	20軒	縄文土器	奈良・平安時代の集落 跡が確認された。
			竪穴状遺構	2基	土師器	
			掘立柱建物跡	1棟	須恵器	
			溝	7条	灰釉陶器	
			井戸	1基	土製品	
			土坑	19基	石器	
			ピット	106基	石製品 鉄製品	

吉岡町文化財調査報告書 第42集
株式会社コスモス薬品出店建物工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
長久保大畑IV遺跡

発 行 吉岡町教育委員会
編 集 有限会社毛野考古学研究所
印 刷 所 朝日印刷工業株式会社
発行年月日 令和5年7月14日